

研究デザイン・フィロソフィー

永木 耕介、井上 尊寛、苅部 俊二、木下 訓光、吉田 政幸、高見 京太、安藤 正志、瀬戸 宏明、泉 重樹、伊藤 真紀、鬼頭 英明、平野 裕一、Nemes Roland、林 容市

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学領域は、理論の知識を得ること、実践を経験すること、この両方を行うことにより、より具体的な学びにつながり、高度専門職業人として高い能力を発揮することが可能となる。そのため、スポーツ健康学を学んでいく上で必要な学習方法、また質の高い修士論文を作成できるようになるための知識と技術を、幅広く身に付けられるようになる。

【到達目標】

スポーツ健康科学部で学ぶために必要となる基礎的な学習に対する姿勢や、学ぶ方法ならびにスポーツ健康科学の多様な分野についての理解を得る。

【授業の進め方と方法】

本講義は、原則としてスポーツ健康学研究科のすべての専任教員が担当する。各教員は自身の専門分野を切り口に、問題設定から実験・調査の計画から実施、そして得られた結果の整理、論文の執筆やプレゼンテーションまでを幅広く講義し、修士論文の作成に必要な知識や方法論を身につける。また、多岐にわたるスポーツ健康学領域の研究や実践の現場について幅広く理解し、視野を広げる（オムニバス方式・全14回）。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	大学院での研究と学び スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（スポ ーツコーチング領域・体育 科教育）	修士論文を作成するにあたっての心構えと、2 年間の研究活動を通して身につけるべき研究の方法と考え方について理解する。また、スポーツ健康学分野の特に体育科教育に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。（永木耕介・1 回）
2 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（スポ ーツマネジメント領域・ス ポーツマーケティング）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマーケティングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（井上尊寛・1 回）
3 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（スポ ーツコーチング領域・コー チング）	スポーツ健康学分野の特にコーチングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（苅部俊二・1 回）
4 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（ヘル スプロモーション領域・健 康科学）	スポーツ健康学分野の特に内科スポーツ医学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（木下訓光・1 回）
5 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（スポ ーツマネジメント領域・ス ポーツマネジメント）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマネジメントに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（吉田政幸・1 回）
6 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（ヘル スプロモーション領域・健 康体力づくり）	スポーツ健康学分野の特に健康体力づくりに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（高見京太・1 回）

7 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（ヘル スプロモーション領域・リ ハビリテーション）	スポーツ健康学分野の特にリハビリテーションに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（安藤正志・1 回）
8 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（ヘル スプロモーション領域・ス ポーツ医学）	スポーツ健康学分野の特に外科スポーツ医学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（瀬戸宏明・1 回）
9 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（ヘル スプロモーション領域・ア スレティックトレーニング）	スポーツ健康学分野の特にアスレティックトレーニングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（泉重樹・1 回）
10 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（スポ ーツマネジメント領域・ス ポーツプロモーション）	スポーツ健康学分野の特にスポーツプロモーションに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（伊藤真紀・1 回）
11 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（ヘル スプロモーション領域・保 健科教育）	スポーツ健康学分野の特に保健科教育に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（鬼頭英明・1 回）
12 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（スポ ーツコーチング領域・バイ オメカニクス）	スポーツ健康学分野の特にバイオメカニクスに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（平野裕一・1 回）
13 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（スポ ーツコーチング領域・競 技力向上）	スポーツ健康学分野の特に競技力向上に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（ネメシュ・ローランド・1 回）
14 回	スポーツ健康学の理解と 研究課題の発見（ヘル スプロモーション領域・健 康行動）	スポーツ健康学分野の特に健康行動に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（林容市・1 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価して 0 点から 7 点で採点する（7 点 × 14 回 = 98 点満点）。98 点を 100 点に補正して A+ から D の評価をする。
なお、2/3 以上の出席がない場合は評価の対象外とする（E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論となるようにしていきたい

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学特論 I (心身科学)

中澤 史

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学領域における「心」と「身体」の関係について理解を深める。

【到達目標】

スポーツ健康学を学ぶうえで必要となる心身科学の基礎的知識を修得する。

【授業の進め方と方法】

心と身体に関する最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解を深める。特に、1) 身体活動における心と身体の関係、2) 身体活動と心理的健康、3) 身体活動による心の成長、4) アスリートの心理支援の現状と課題、の視点から心と身体の間連について学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、単位認定の方法、履修上の注意ならびに文献講読の意義を知る、他己紹介を通して他者理解を深める
2	自己理解の促進	体験的グループワークによる自己理解の促進
3	心とは何か？	パーソナリティの観点から心について学ぶ
4	身体活動と心の間係を知る	身体活動が心に及ぼす影響を測る
5	身体活動と心の間係の分析	身体活動が心に及ぼす影響の測定結果の分析
6	身体文化論	国内外における身体活動の歴史的変遷について学ぶ
7	野球とベースボール	野球とベースボールの歴史的変遷について学ぶ
8	ムーンスパイラル現象	競技スポーツにおける出生月の相違が人格形成に及ぼす影響について学ぶ
9	リーダーシップ概論	文献購読を通してリーダーシップの実際について学ぶ
10	コーチングの心理	文献購読を通してコーチングの現状について学ぶ
11	スポーツにおける心理的能力	体験的学習を通してスポーツ場面で不可欠となる心理的能力について学ぶ
12	アスリートの心理支援	アスリートの心理支援に関する事例検討
13	指導スタイルと選手の間係形成	指導スタイルが選手の間係形成に及ぼす影響について学ぶ
14	まとめ	総括、レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

中澤 史 アスリートの心理学 日本文化出版 2016

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）（50%）、課題レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)

木下 訓光、瀬戸 宏明

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1~2 年次

備考：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得。

【到達目標】

スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。

【授業の進め方と方法】

授業の前半はスポーツ医学領域の最新知見を理解するために必要となる理科学的基礎と、スポーツ医学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。後半はスポーツ医学領域の先端的知見・研究成果について学習する。後半の学習においては、各テーマにおける重要な先行研究・文献を最低 1 編事前に精読し、これを踏まえて討議しながら講義を行う。しばしば英語の文献を活用する。加えて各テーマに関連した学習効果の高い症例を教員の研究・臨床経験より 1 例から複数例提示して検討し、時に演習を行いながら学習した知識の活用・応用について学ぶ。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	生体を構成する物質 【担当：瀬戸】	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】 元素、細胞構築、組織、細胞膜
2 回	運動・身体活動の生化学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3 回	運動・身体活動と物理量 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究に必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。 【keyword】 単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4 回	医学研究で活用する基礎統計学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】 記述統計、カイ 2 乗検定、2 群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5 回	運動と細胞内シグナル伝達 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】 内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
6 回	運動と免疫系 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、身体防御システム (免疫系) の基礎的事項を学習する。 【keyword】 白血球、B 細胞、T 細胞、サイトカイン、炎症
7 回	運動介入と機能への影響 【担当：瀬戸】	運動習慣、運動療法の効果のトピックとして、運動介入 (短期的・長期的) と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】 運動療法、変形性関節症、長寿
8 回	生体エネルギー論 【担当：木下】	ヒトの動きのメカニズムを分子・細胞レベルから理解し、生体におけるエネルギーの発生機序・消費効率の観点からスポーツパフォーマンスを分析する。 【指定文献】 マラソンのタイムに関する研究文献 (予定) 【症例】 エリートランナーのランニングエコノミーに関するデータ提示 【keyword】 ATP、ミトコンドリア、エネルギー基質、酸素消費、エネルギー消費、運動効率、競技パフォーマンス

9 回	エリートアスリートの生理学的評価 【担当：木下】	第 8 回で学習したエネルギー論をふまえて、スポーツパフォーマンス (特に持久系) を評価する重要な生理学的指標について、定義・方法論・意義について学ぶ。 【指定文献】 最大酸素摂取量の規定因子に関する総説 (予定) 【症例】 持久系エリート選手の有酸素エネルギー指標に関するデータ提示 【keyword】 最大酸素摂取量、クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10 回	身体組成の医科学 【担当：木下】	身体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【指定文献】 アスリートの体組成評価法の妥当性・信頼性に関する文献 (予定) 【症例】 持久系およびパワー系アスリートの体組成とその経時変化に関するデータ提示 【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
11 回	エネルギー代謝と疾病・健康・パフォーマンス 【担当：木下】	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、肥満、減量の機序などの臨床的応用について学習する。 【指定文献】 エネルギーバランスに関する総説 (予定) 【症例】 エリートアスリートの減量計画・実践に関するデータ提示 【keyword】 肥満、基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリメーター
12 回	アスリートの臨床栄養学 【担当：木下】	とく誤解の多いスポーツ栄養の話題 (いわゆるサプリメントの効果の真偽や、競技力向上における三大栄養素の役割など) に関して、最新のエビデンスに基づき学習する。また不十分な栄養摂取に関連して発生する臨床的問題についても学習する。 【指定文献】 エルゴジェニックエイドに関する総説 (予定) 【症例】 アスリートの食事調査データ提示 【keyword】 エルゴジェニックエイド、Low energy availability、貧血
13 回	スポーツ心臓病学 【担当：木下】	スポーツ心臓とは何か、歴史・定義・臨床的意義・パフォーマンスとの関係などについて最新のエビデンスを踏まえて学習する。 【指定文献】 スポーツ心臓に関するメタアナリシス (予定) 【症例】 アスリートの心形態とその変化に関するデータ提示 【keyword】 心肥大、左室リモデリング、アスリート、突然死、スポーツ心臓、メディカルチェック
14 回	身体活動量の医科学 【担当：木下】	第 13 回までに学んだエネルギー代謝などに関する知識を駆使して身体活動の臨床的意義について理解し、運動を医療に活用するための理論的背景・手法について学習する。 【指定文献】 身体活動量と疾病の罹患率・発症率・予後に関する疫学調査 (予定) 【症例】 運動療法または身体活動によって改善した生活習慣病患者のデータ提示 【keyword】 身体活動量、運動疫学、生活習慣病、予防医学、運動療法

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前半の授業 (瀬戸担当部分) では、事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。後半の授業 (木下担当部分) においては、事前に指定した文献を精読して授業に望むこと。その際に必ず簡単な要約を作成し、提出すること。また後半の授業 (木下担当部分) において提示される症例について学習した知識を駆使して適切な考察を加えて報告書を作成し、次回の授業までに提出すること。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

シンプル生化学【改訂第 6 版】、監修：林典夫・廣野治子、南江堂、2014 年
Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance, eighth ed. McGraw-Hill, New York, Powers, S.K., Howley E.T., 2012.

各回のテーマに応じて必要な文献を適宜提示する。

【後半の授業（木下担当部分）】 テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは授業回ごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに独立して評定を行い、その平均点をもって評価点数とする。前半（瀬戸担当部分）においては、各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容を A+～D まで評定し、これを点数化して平均したものを前半（瀬戸担当部分）の点数とする。後半（木下担当部分）においては、毎回提出すべき文献要約（50%）と症例検討報告（50%）をそれぞれ A+～D まで評定し、これを点数化して担当7回分の値を平均したものを後半（木下担当部分）の点数とする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

【その他の重要事項】

各回の授業内容を継続的に積み重ねて学習していかなければ学修目標を習得することが不可能となるので、できるだけ欠席をしないこと。やむを得ず欠席をする場合には、欠席回における学習内容相応の課題を与える。

スポーツ健康学特論Ⅲ (人文社会科学)

石井 隆憲

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「体育・スポーツ科学」の中で人文社会科学諸分野の研究を取り上げ、それを紹介しながらその研究領域における研究の視点と方法論について解説を行います。また、質的調査方法や史・資料の取り扱いについても具体的な事例を紹介しながら理解を深めてもらいます。

【到達目標】

人文社会科学諸分野の研究方法の概略や研究の視点が理解できるとともに、それらの方法論を用いた研究論文を読み込み、理解していくことのできる力を身に付けていきます。

【授業の進め方と方法】

本授業の前半部では、体育・スポーツ科学における人文社会科学諸分野の研究の視点や方法論を理解するための講義を中心に進めます。後半部では実際に関連論文を読み込み、討論をおこなっていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	担当教員の紹介、この授業の到達目標、評価方法を説明する
2 回	人文社会科学の視点①	スポーツを対象とする歴史学的、社会学的、人類学的な研究視点の違いを概説する。
3 回	人文社会科学の視点②	歴史人類学的視点に基づいて、近代医療の世界化によって医療や健康について一元化していく状況を「帝国医療のグローバル化」として解説し、討論する。
4 回	人文社会科学の視点③	社会学的な視点として、ピエール・ブルデューのハビトゥス論に基づき、「社会的身体の構築」について解説し、討論する。
5 回	人文社会科学の視点④	文化人類学的視点に基づき、ミャンマーの伝統スポーツを取り上げ、当該社会とスポーツの関係性を解説し、討論する。
6 回	人文社会科学の視点⑤	文化人類学的視点に基づき、ベトナムに伝播した日本の空手が、その後、ベトナム国内で変容する過程を通してスポーツに与える文化の影響を解説する。
7 回	人文社会科学の視点⑥	社会科学的な視点からスポーツのグローバル化という現象について解説し、討論する。
8 回	人文社会科学の視点⑦	スポーツを通じた異文化理解と異文化教育について、具体的な事例をあげながら解説し、討論する。
9 回	研究の方法論① (論文の輪読)	具体的な事例を基にして定量的な調査方法について解説する。
10 回	研究の方法論② (論文の輪読)	具体的な事例を基にして定性的な調査方法について解説する。
11 回	研究の方法論③ (論文の輪読)	具体的な事例を基にして歴史的な研究方法について解説する。
12 回	新しい研究の視点①	表象主義を超えて：身体化という新しい考え方とその取り組みについて解説する。
13 回	新しい研究の視点②	スポーツと国際開発：スポーツを用いた応用学的な学問の在り方を解説する。

体育・スポーツ科学における人文社会科学分野の視点や研究方法の整理し、今後の研究方向について解説する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業に関連する資料などはポータル上にアップします。また、復習についてもポータル上で補助的に資料を提示するので確認し、必要に応じて課題の提出をしてもらうことになります。

【テキスト (教科書)】

毎週、次の授業で使う論文などを事前に配布します。また、ポータル上にアップロードするので、必要に応じてダウンロードしてください。

【参考書】

特に指定しませんが、毎回の授業内で関連書物を随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート (50%) に加え、配布するレジュメの内容に関する質問や議論への積極的参加 (30%)、また出席票に対する出席者からの回答の出来栄 (20%) を勘案して総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

全ての学生が人文社会科学の研究に興味関心を持ってもらえるように、スポーツ科学の研究領域についても概観したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

討論にあたっては、受講生の皆さんの意見や発言を多く求めることとなります。自分の考えを積極的に発言してください。また、多様なもの見方や考え方のあることを受け入れてもらえる姿勢を望んでいます。

鬼頭 英明

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会における集団の健康と疾病の現状を把握するとともに、その影響要因について科学的根拠をもとに理解を深め、健康の保持増進のために個人及び社会がとるべき方策について考える。

【到達目標】

集団の疾病及び健康の保持増進の方策について理解し、生涯を通じての健康的なライフスタイルの形成に役立てることができるようにする。

【授業の進め方と方法】

「健康」、「保健統計」、「疾病とその予防」、「疫学」、「感染症」、「母子保健」「産業保健」「環境保健」について、歴史的経緯、マスメディアによってとりあげられる関連事項、実例や研究例を題材に取り上げ、興味・関心をもてるようにするとともに、講義だけでなく考え方や対処法等についてディスカッションにより掘り下げる。また、映像教材を積極的に活用する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	概論と歴史	公衆衛生学の歴史と学問領域の特性について概説
2 回	保健統計－人口統計－	保健統計のうち、人口ピラミッド、人口動態統計、人口動態統計及びデータの国際比較、国内の地域の実情、背景について概説
3 回	保健統計－死因統計－	死因統計とは何か、どのような意味をもつか解説するとともに、日本と諸外国との実態を比較し課題を探る。
4 回	保健統計－生命表－	生命表、平均余命及び平均寿命について概説
5 回	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念について概説
6 回	生活習慣病とその予防	悪性新生物、心疾患など生活習慣がもたらす疾患について、予防方法も含めて解説
7 回	感染症	感染症とは何か、問題点及び法律上の対応について概説
8 回	感染症の予防	感染症の予防方法及び予防接種について解説
9 回	疫学 考え方	疫学の考え方について過去の事例をもとに解説
10 回	疫学－コホート研究－	疫学研究の代表的な方法であるコホート研究について事例を紹介しながら、利点、欠点も交えて解説
11 回	疫学－症例対照研究－	疫学研究のうち症例－対照研究について事例をもとに利点、欠点も交えて解説
12 回	母子保健	母子の健康状態の尺度となる健康指標及び法律上の対応、行政の取組について解説
13 回	産業保健	労働衛生の実態及び産業保健活動について解説
14 回	環境保健	公害、環境衛生及び環境保健活動について解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に公衆衛生に関する新聞記事や行政機関の動向、発信された情報に関心をもち、目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テーマ毎に資料を配付する。

【参考書】

国民衛生の動向

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %、試験 80 % で評価し、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

健康体力学特論

林 容市

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、さらに学校体育に関連した体力学の基礎的知識を学習する。健康やスポーツに対し、様々な視点からみた体力の諸要素がどのように関連し、貢献するのかについて学び、理論を実践場面へ適用できる能力を習得する。

【到達目標】

- ① 体力に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ② 健康やスポーツに関わる主たる体力要素について、理論と測定法を習得する。
- ③ 体育科教育等の様々な場面における体力の定量的評価法およびその解釈について理解する。

【授業の進め方と方法】

生涯にわたる健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関する概念や理論を理解した上で、特に健康やスポーツ・身体活動に重要な体力要素を紹介していきます。また、実際の測定方法や評価方法についてもその手法を解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、一方向的な知識提供の場になることを避けるため、授業内容に対しての受講者全体での討論や個別に課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	運動・体力の発達	体力の基礎的概念と共に、身体の発育発達や加齢に応じた各体力要素の変化について理解する。
2 回	健康関連体力：全身持久性体力の概念	健康関連体力の一つである全身持久性体力の概念と、呼吸・循環・代謝などの関連する生理学的バックグラウンドを理解する。
3 回	健康関連体力：全身持久性体力の測定指標と理解	全身持久性体力の直接測定法および推定法を学び、種々の評価法を習得する。
4 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の概念	健康関連体力の一つである筋力・筋持久力の概念と生理学的バックグラウンドを理解する。
5 回	健康関連体力：筋力・筋持久力の測定指標と理解	筋力・筋持久力の主たる測定法を学び、種々の評価法を習得する。
6 回	健康関連体力：柔軟性の概念	健康関連体力の一つである柔軟性の概念と生理学的・解剖学的バックグラウンドを理解し、評価法を習得する。
7 回	健康関連体力：身体組成の概念	健康関連体力の一つである身体組成の概念と生理・生化学的バックグラウンドを理解する。
8 回	健康関連体力：身体組成の測定指標と理解	身体組成を測定する種々の測定法における測定（推定）原理を理解し、評価法を習得する。
9 回	サイバネティクスの体力：調整力	身体を自在に操作するために必要な調整力について、その概念と神経生理学的なバックグラウンド、および測定・評価法を理解する。
10 回	サイバネティクスの体力：敏捷性・巧緻性	身体を自在に操作するために必要な敏捷性・巧緻性について概念と神経生理学的なバックグラウンド、高齢者における特徴などを学び、その測定・評価法を理解する。

11 回	パフォーマンスに関連する体力の定量化	各年代のスポーツ実践場面で特異的に必要となる種々の体力要素について、その具体的な測定・評価方法を習得する。
12 回	体育科教育における体力の評価とその基準	学校体育における体力測定・調査を実施する際の具体的な手順・方法および留意点について学習する。
13 回	測定結果の分析・データマイニング	体力測定結果を目的に応じて分析するための主たる方法を学習し、データから新たな体力学的知見を抽出するための手法を理解する。
14 回	体力学における課題と展開	現在の体力学・体力測定における課題を学び、それを解決するために今後、体力学分野において展開が期待される研究内容について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示された課題の内容に基づいて授業中に頻繁に発言を求めます。課題は授業内で提示しますが、次回までに必ず予習して来てください。また、数回のプレゼンテーションを求める予定ですので、授業内で指示される準備も必ず実施してくるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・体力学/中谷敏昭（編）/化学同人

【成績評価の方法と基準】

授業への参画（討論への参画）状況：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

受講者と教員、および受講者間の論議を踏まえて授業を展開したため、授業進行においては多少変更したものの、受講者からの意見などを総括すれば授業目的は達成されたと判断している。また、受講者からの質問や課題提起など、授業を進行する上で有益かつ参考になる内容があったことから、次年度の授業構成や課題に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

健康心理学特論

荒井 弘和

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体的・心理的・社会的健康に対する心理学的アプローチを学ぶことをテーマとします。

【到達目標】

個人・集団を対象として、学校・地域・職域・医療場面におけるヘルスプロモーションの実際を理解することを目標とします。最終的には、受講生自らが、わが国の健康政策に対して、心理学がどのように貢献するか？について、具体的な提案をできるようにすることを目指します。

【授業の進め方と方法】

学校・地域・職域・医療場面における健康行動を扱います。身体活動・運動行動、食事行動、睡眠、ストレスマネジメント行動、リスク行動、および、感染症予防行動という健康行動がもたらす心理学的効果と、それらの実施を促進する心理学的手法について学びます。さらに、わが国の健康政策に対して、心理学がどのように貢献するか？についても、受講生間の対話を通じて理解を深めます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	健康心理学とは何か？を学ぶ	健康心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
2 回	学校におけるヘルスプロモーションを学ぶ	学校において求められているヘルスプロモーションを理解し、具体的に説明できるようになる。
3 回	地域におけるヘルスプロモーションを学ぶ	地域において求められているヘルスプロモーションを理解し、具体的に説明できるようになる。
4 回	職域におけるヘルスプロモーションを学ぶ	職域において求められているヘルスプロモーションを理解し、具体的に説明できるようになる。
5 回	医療場面におけるヘルスプロモーションを学ぶ	医療場面において求められているヘルスプロモーションを理解し、具体的に説明できるようになる。
6 回	ソーシャルマーケティングを学ぶ (1)	ヘルスプロモーションに関連するマーケティングの手法を理解し、説明できるようになる。
7 回	ソーシャルマーケティングを学ぶ (2)	マーケティングの手法をヘルスプロモーションのフィールドに活かす方法を理解し、実践できるようになる。
8 回	ヘルスコミュニケーションを学ぶ	ヘルスコミュニケーションの理論・概念を理解し、説明できるようになる。
9 回	身体活動・運動、食事、睡眠に対するアプローチを学ぶ	身体活動・運動、食事、睡眠に対する健康心理学的アプローチの手法を理解し、活用できるようになる。
10 回	ストレスマネジメントを学ぶ	ストレスマネジメントに関連する健康心理学的アプローチの手法を理解し、活用できるようになる。
11 回	リスク行動予防・感染症予防のアプローチを学ぶ	喫煙、飲酒、コンドーム使用、マスク着用、予防接種に関連する健康心理学的アプローチの手法を理解し、活用できるようになる。
12 回	がん治療・がん予防のアプローチを学ぶ	がん治療・がん予防に関する健康心理学的アプローチの手法を理解し、活用できるようになる。

- 13 回 スポーツ選手の健康問題を学ぶ (1) スポーツ選手の健康問題（スポーツ傷害やうつ）を理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。
- 14 回 スポーツ選手の健康問題を学ぶ (2) スポーツ選手の健康問題（食行動異常や月経異常）を理解し、その問題に対する健康心理学的アプローチを実践できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らのフィールドにおいて、健康心理学的アプローチの手法を実践することに関するレポートを課しますので、実施してください。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

金政祐司・大竹恵子（編著）「健康とくらしに役立つ心理学」北樹出版

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

「自分の関連分野の時には特に興味を持ち、知的意欲を刺激され、今後の論文や研究の為のヒントが得られました」との回答がありました。これからも、できるだけ受講生の専門と関連させながら、授業を行えるようにと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

スポーツ栄養学特論

小清水 孝子

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技スポーツ選手を対象として、コンディション維持・調整と体づくりのために必要な栄養学の知識と科学的理論を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ栄養に関する基礎的知識と科学的理論を習得し、それらをスポーツ現場での栄養サポートに活用・実践できる能力を備えることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

スポーツ栄養学に関する最新の文献や事例に基づき講義と議論を深めていく。

また、スポーツ現場で栄養指導を実践していくうえでの課題点についても議論していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	エネルギー消費量の評価とバランス	スポーツ選手のエネルギー消費量の考え方の特徴と測定方法。消費エネルギー量の推定式。
2 回	スポーツ選手の身体組成	スポーツ選手の身体組成の測定方法・データの解釈、およびパフォーマンスとの関係。
3 回	運動時のエネルギー補給	トレーニング状況に応じた栄養補給方法。糖質補給の必要性和摂取タイミング。
4 回	スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取	スポーツ選手のからだづくりに必要なたんぱく質の摂取量、摂取方法。
5 回	ビタミンと運動	各種ビタミンの働きとコンディション維持との関連、摂取量。
6 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（1）	増量時の食事管理。
7 回	スポーツ選手とウエイトコントロール（2）	減量時の食事管理。
8 回	スポーツ選手に多い栄養障害	鉄欠乏性貧血、女子スポーツ選手の三主徴。
9 回	ジュニアスポーツ選手の栄養管理	ジュニアスポーツ選手の食事の考え方。
10 回	水分補給	運動時の水分補給の意義と方法
11 回	サプリメントとエルゴジェニックエイド	サプリメント・エルゴジェニックエイド摂取に関するスポーツ選手への教育、ドーピングとの関連。
12 回	試合前後の食事、遠征時の食事	試合スケジュールに応じた食事調整。遠征時の食環境の整え方
13 回	スポーツ選手の栄養アセスメント	栄養アセスメント項目と方法。
14 回	スポーツ選手の栄養管理計画作成	これまでの授業内容を基にスポーツ選手の栄養サポート計画を立案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で講義する内容に関して、あらかじめ配布資料等を読んで、自分の考えをまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

適宜資料、プリントを配布する。

【参考書】

Louise Burke & Vicki Deakin: Clinical Sports Nutrition 5th edition (McGraw Hill)

樋口満、田口素子編著：体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学（市村出版）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・議論への参加状況 40 %、期末に提出するレポート 60 %で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、スポーツ現場での栄養サポートの問題点などの事例を取り入れ、実践で活用できる内容の授業としていく。

【その他の重要事項】

特になし

運動器疾患特論

安藤 正志

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動器疾患発生のメカニズムおよび予防と対処方法を探る、また（主に徒手医学技術をもちいて）機能診断と治療を理解する。

【到達目標】

運動器疾患発生のメカニズムを理解するために部位毎の機能解剖の理解を深める。運動器疾患を機能診断（障害の程度と原因を特定）する方法論を学び、傷害を予防するための方法論を探り、その対処方法（外科的治療、リハビリテーション、メディカルトレーニング）を理解し修得する。

【授業の進め方と方法】

各部位の機能解剖を理解するために多くのセラピストやトレーナーがバイブルにしているカバンディのテキストを紐解く。特殊な機器を用いずに運動器の障害を機能診断する徒手医学による機能診断学を学ぶ。また徒手療法手技による対処方法あるいは機能改善を目的としたメディカルトレーニングの方法を考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	徒手医学による運動器疾患の機能診断と治療	概論、運動器疾患治療の歴史、専門用語の理解、手順など。
2 回	肩関節障害の徒手的功能診断と治療	肩関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
3 回	肘関節障害の徒手的功能診断と治療	肘関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
4 回	手、手指関節障害の徒手的功能診断と治療	手、手指関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
5 回	股関節障害の徒手的功能診断と治療	股関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
6 回	膝関節障害の徒手的功能診断と治療	膝関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
7 回	足、足部関節障害の徒手的功能診断と治療	足、足部関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
8 回	骨盤障害の徒手的功能診断と治療	腸骨、仙腸関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
9 回	腰椎障害の徒手的功能診断と治療（時に軟部組織障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（軟部組織）

10 回	腰椎障害の徒手的功能診断と治療（特に椎間板や関節障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（椎間板、関節）
11 回	中下部頸椎障害の徒手的功能診断と治療	中下部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
12 回	上部頸椎障害の徒手的功能診断と治療	上部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
13 回	顎関節障害の徒手的功能診断と治療	顎関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
14 回	胸郭障害の徒手的功能診断と治療 その他の部位の徒手的功能診断と治療	胸郭の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。その他の部位障害（肋骨など）の機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解剖学、機能解剖の理解（機能解剖学あるいは解剖学と運動学を修得しておく必要がある）

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱ ・ カバンディ機能解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 標準徒手医学入門編

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数であったので課題の割り振りが毎回のようであった。課題発表と講義のバランスを考慮しながら進めたい。

【その他の重要事項】

学部で機能解剖学あるいは運動学と解剖学を履修しておくこと

学校保健学特論

鬼頭 英明

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幼稚園から大学に至るまで、子どもが多く時間を過ごす学校においては子どもの健康を図る保健管理、保健教育が、生涯を通じた健康の保持増進に極めて重要であることについて考え、認識することをねらいとする。

【到達目標】

学校保健の全体構造及び児童生徒の健康に係る課題の理解を通して、その重要性が認識できるようにするとともに教員等が果たす役割について身に付け、学校保健に関する実践力を身に付けることができるようにする。

【授業の進め方と方法】

「学校保健の歴史」、「学校保健の領域構造」、「関連する法律」を基礎とし、学校保健に関わる人的配置が「保健主事」「養護教諭」「学校三師」であること、その上で「学校保健活動」が実施されていること、さらには学校保健の中核となる領域は「保健教育」と「保健管理」であり、児童生徒の現代的な健康課題に対応するためには、その理解と効果的な教育や管理が必要であることについて、全体を通じて有機的なつながりを意識しながら進めていく。実態や実践事例を題材とし、ディスカッションを通じて理解を深める。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	学校保健の概要	学校保健の概要について保健教育、保健管理の各視点から解説。
2 回	学校保健の歴史	学校保健が歩んできたこれまでの歴史的経緯について解説。
3 回	学校保健の領域構造	学校保健の領域を構成する、保健教育、保健管理、組織活動についてそれぞれの意義を解説。
4 回	関連する法律 －学校保健安全法を中心として－	学校保健の法的根拠となる学校保健安全法を中心に内容について詳説。
5 回	保健主事と養護教諭	学校保健の中心的役割を担う保健主事及び養護教諭についてその職務内容を解説。
6 回	学校三師とは	学校保健を側面から支援する学校医、学校歯科医、学校薬剤師についてその役割を解説。
7 回	学校保健活動	学校保健活動とは何か、学校と家庭や地域をつなぐ連携の在り方について解説。
8 回	保健教育	保健教育を構成する保健学習、保健指導について解説。
9 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －喫煙、飲酒－	児童生徒の現代的な健康課題について喫煙、飲酒を中心に取り上げ解説。
10 回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －薬物乱用、性の逸脱行動－	児童生徒の現代的な健康課題について薬物乱用、性の逸脱行動を中心に取り上げ解説。
11 回	保健管理の概要	保健管理の概要について解説。
12 回	健康診断	保健管理のうち、対人管理として重要な健康診断の内容について解説。
13 回	学校環境衛生総論	保健管理のうち、対物管理として学校環境衛生を取り上げ解説。
14 回	学校環境衛生各論	学校環境衛生基準を題材とし、教室環境、飲料水、プール等、学校環境衛生について各論として取り上げ解説。実験演習を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童生徒や学生に関わる健康課題、問題行動について関心をもち、マスメディアが発信する情報や文部科学省から発信される情報を収集し、問題点や動向について認識を深めることにより、問題意識を高めておくこと。

【テキスト（教科書）】

講義内容に応じた資料を作成し配布

【参考書】

改訂 8 版学校保健マニュアル（南山堂）、学校保健実務必携（第一法規）

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %、試験 80 % で評価し、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

体力・機能測定評価演習

林 容市

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関連した体力およびそれに関する諸機能について、概念と基礎的理論を学習する。身体活動に関連する体力や身体諸機能を適切に測定し、評価しうる能力を習得する。

【到達目標】

体力・身体機能に関わる一般的概念・構成を理解する。②種々の体力要素について、理論と具体的な測定・評価法を習得する。③種々の体力要素の測定結果を、様々な場面に適用できる実践力を習得する。

【授業の進め方と方法】

身体活動を対象とした研究の実践時に重要な体力要素を取り上げ、その概念や具体的な測定方法を学ぶ演習を行います。また、実際の測定方法に加え、エビデンスに基づく評価方法について解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、演習における活動に加え、受講者全体での討論や課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	体力・身体活動研究における現状の理解	体力学、身体活動研究における現状や概念を理解し、測定・評価法の歴史を学ぶ。
2 回	サイバネティクスの体力：体性感覚の生理学的背景と概念	サイバネティクスの体力の優劣に影響を及ぼす体性感覚について、体力学的・生理学的側面から学習する。
3 回	サイバネティクスの体力：grading 能力測定の実際	調整力を構成する一因子である grading 能力について、その具体的な測定方法を学ぶ。
4 回	サイバネティクスの体力：関節角度測定の実際	調整力を構成する一因子である関節角の調整能力について、その具体的な測定方法を学ぶ。
5 回	サイバネティクスの体力：測定結果の分析と解釈	調整力の測定結果の分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
6 回	骨格筋活動：生理学的背景と測定法の理解	身体の中骨格筋に関して、その収縮を司る神経系活動や収縮レベルに関与する生理学的背景について学習する。
7 回	骨格筋活動：筋電図計測の実際	骨格筋活動を間接的に把握する筋電図の計測方法を習得する。
8 回	骨格筋活動：筋電図の分析と解釈	計測された筋電図データの分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
9 回	エネルギー代謝：概念・生理学的背景	基礎代謝および運動時のエネルギー代謝について、生理学的側面から概念・測定原理を理解する。
10 回	エネルギー代謝：直接測定の実際	安静時および身体活動時における呼気ガス分析を用いたエネルギー代謝測定法を習得する。
11 回	エネルギー代謝：間接測定（推定）の実際	身体活動時のエネルギー代謝を簡易に推定する方法を習得する。
12 回	エネルギー代謝：測定結果の分析と解釈	測定されたエネルギー代謝の結果を用いた安静時代謝量の計算や、身体活動中の糖・脂質代謝の計算方法を習得する。
13 回	身体活動量・運動習慣：概念と調査法の理解	身体活動量の概念、運動習慣の定義などを学び、これらを測定する意義について学習する。

- 14 回 身体活動量・運動習慣 身体活動量の測定結果、および運動習慣調査などの結果についての理解
：調査の実際と分析法 具体的な分析方法を習得する。
- 15 回 体力・機能測定における課題と展開 種々の体力における測定方法の信頼性・妥当性や、スポーツ・学校体育の現場で体力測定を利用する際の留意点などを学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5, 8, 12 回においては、各体力要素の測定法演習の結果を取りまとめる簡易レポートの提出を求めます。また、3, 4, 7, 10, 11, 14 回においては、授業内で測定したデータの取りまとめを授業時間外で行う必要があります。各授業における教員からの指示に従って、授業外学習を進めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・体力学/中谷敏昭（編）/化学同人

【成績評価の方法と基準】

授業での演習の状況（討論への参画状況を含む）：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

学部における科目の履修状況に個人差があり、授業内での演習時に進行が難しい場合もあったが、グループワークや教材を工夫して解消して行くつもりである。

また、開講初年度ということで、演習の進行速度が不適切な回があったと感じている。そのため、昨年度の授業展開を参考に毎回の授業内容を再検討した。

【その他の重要事項】

特になし

運動疫学演習

笹井 浩行

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動疫学とはヒトにおける運動と健康の間に原因と結果の関係（因果関係）があるかどうかを明らかにする学問である。

100 人の血圧を測定し、その中で血圧が高い 20 人を 2 群に分け、A 群には運動指導を、B 群には「おまじない」をして 1 週間後に血圧を測定すると両群とも平均血圧は（ほぼまちがいがなく）低下する。このような研究デザインだと運動指導だけでなく「おまじない」にも降圧効果があることになってしまう。本授業では、このようなヒトを対象としたスポーツと健康に関する研究のピットホール（落とし穴）を解説するとともに、科学的に正しい研究結果を生み出す研究デザインを紹介し、ヒト集団を対象に実施されたスポーツと健康に関する研究結果を適切に理解できる能力を養うとともに、研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【到達目標】

- ① 運動疫学に関する基本的な考え方、基本用語、基本統計を学ぶ。
- ② 運動疫学のみならずスポーツ科学全般に関する研究結果を適切に理解できる能力を養う。
- ③ 運動疫学研究の研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントで作成した教材と数多くの先行研究や総説（叙述レビューおよび系統的レビュー）を通じて運動疫学研究の基本を理解するだけでなく、各テーマについて討議することによって理解を深める。また、研究結果を理解したり、研究を実施したりする場合に陥るピットホールの種類や危険性を具体例を通じて理解することにより、適切な研究デザインによって生み出された研究結果とはどのようなものであるかを理解する。さらに、講義や討議によって得られた知識を実習（グループワーク）を通じてしっかりと身に着ける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	運動疫学の基本および考え方	ガイダンス・自己紹介（講師、学生）・疫学のイメージを確認・疫学の基本や考え方について解説
2 回	信頼性の高い健康情報とはどのような情報かを解説	信頼性の高い健康情報に関する解説と討議・ヘルスリテラシーに関連するピットホール（落とし穴）の紹介
3 回	科学的根拠に基づく医療（EBM）およびスポーツ科学（EBSS）	科学的根拠（エビデンス）について解説・EBM および EBSS の概要や基本的な考えを解説
4 回	疫学の基本用語・基本統計・ピットフォール（落とし穴）の紹介	疫学の基本用語を解説・基本統計の紹介・疫学研究におけるピットフォールの代表（選択バイアス、交絡等）を解説
5 回	記述疫学研究の概要紹介	記述疫学研究の概要を説明・記述疫学研究として国民健康・栄養調査や各種統計調査を紹介し解説
6 回	地域相関研究の概要紹介	地域相関研究の概要を説明・地域相関研究としてニホンサン研究や赤ワインと心臓病に関する研究等を紹介し解説
7 回	横断研究の読み方、やり方	横断研究の概要とピットフォールを紹介・横断研究の読み方や実施方法を解説
8 回	症例対照研究の読み方、やり方	症例対照研究の概要とピットフォールを紹介・症例対照研究の読み方や実施方法を解説
9 回	コホート研究の読み方、やり方	コホート研究の概要とピットフォールを紹介・コホート研究の読み方や実施方法を解説

10 回	ランダム化比較試験の読み方、やり方	ランダム化比較試験の概要とピットフォールを紹介・ランダム化比較試験の読み方や実施方法を解説
11 回	実習 オリエンテーション・研究疑問の検討	実習（授業で紹介した疫学研究手法を用いて研究疑問の解決に向けた研究デザインを構築）の進め方を説明。各自で研究疑問に関連する先行研究について文献調査。
12 回	実習 仮想研究デザインの立案	各グループごとに先行研究を参考にしリサーチクエスションを解決するための仮想研究デザインを立案
13 回	実習 仮想研究デザインの発表準備	パワーポイントを用いて、各グループごとに立案した仮想研究デザインの紹介スライドを作成
14 回	仮想研究デザインの発表と授業の総括	各グループごとに立案した仮想研究デザインを学会形式で発表し、質疑応答を通じて運動疫学に対する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業前に、予習として授業テーマに関する事項をインターネット等を利用して確認しておくこと。
各授業後には復習として授業で学んだ部分について参考図書を読み内容を確認すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回、関連文献・関連総説・資料等を配布する。

【参考書】

医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ（ISBN-13: 978-4895925839）

わかりやすい EBN と栄養疫学（ISBN-13: 978-4810313161）

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的な発言や質問等の授業態度を評価
グループワークに対する参画度や貢献度を評価
グループワークで作成した仮想研究デザインの内容や発表態度、質疑応答内容を評価

【学生の意見等からの気づき】

クラスサイズが小さいため、個別の要望を聞き、授業内容を適宜修正しながら展開する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションができるよう、プレゼンソフトが入ったノート PC を持参すること。

【その他の重要事項】

特になし

スポーツマネジメント特論

吉田 政幸

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はスポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとみなし、スポーツ産業の発展に向け、スポーツマネジメントの論理と実践を総合的に学習する。

【到達目標】

1. スポーツマネジメントがビジネスマネジメントの一つとして登場し今日に至った歴史的経緯を説明することができる。
2. スポーツ組織の内部環境のマネジメント（組織論、施設管理、ファイナンス）について理解し、その実践方法を説明することができる。
3. スポーツ施設の外部環境のマネジメント（マーケティング）について理解し、その実践方法を説明することができる。

【授業の進め方と方法】

スポーツマネジメントとは、スポーツの魅力を最大限に引き出すための組織的機能である。この機能を十分に発揮し、組織目標を達成するために、スポーツ組織は人材、資金、資源、情報を効果的に配分、管理しなければならない。本授業は、スポーツマネジメントの主要領域とそれに対応する事例に焦点を合わせながら、スポーツマネジメントを総合的に学習する。受講者は事前に配布される資料を読み、各テーマについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツビジネスとは	スポーツのビジネス化が止まらない。その背景、現状について理解を深める。
2 回	スポーツマネジメントとは	ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、現状について理解を深める。
3 回	スポーツ産業とは	スポーツマネジメントの対象分野となるスポーツ産業の具体的な個別産業領域、それぞれの市場規模、これまでの発展の経緯、そして今後成長が期待できる産業について理解を深める。
4 回	スポーツ組織論：計画、組織化	スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。
5 回	スポーツ組織論：実行、評価	スポーツ組織論の中でも、所属メンバーの動機づけと事業評価について、マネジメント理論とともに学習する。
6 回	スポーツ消費者行動	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的变化を必要とする。ここではファンの誕生のメカニズムについて学習する。
7 回	スポーツマーケティング	多様化する消費者ニーズを充足するスポーツプロダクトの創造に向け、最新のサービス中心の論理を含めたスポーツマーケティングコンセプトについて議論を展開し、その理解を深める。
8 回	マーケティングミックス	スポーツ消費者のニーズを満ちし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングミックスと呼び、それぞれの要素の特徴について学習する。
9 回	ブランドマネジメント	コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジックについて学習する。
10 回	スポーツスポンサーシップ	アスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。
11 回	スポーツ施設マネジメントの基礎	今日のスポーツスタジアムを特徴づける大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、IT テクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。

12 回	スポーツ施設マネジメントの今後：第二局面のスポーツ施設	2000 年以降、スポーツ「しか」見せない第一局面のスタジアムから、スポーツだけでなく多様なサービス「も」提供する第二局面のスタジアムへの転換が起こっている。こうした変化の背景を学習するとともに、第二局面のスタジアムが生み出す様々な効果について理解する。
13 回	スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントの開催において、大会の成功だけでなく、そのイベントが地元地域にもたらす恩恵を長期に渡って根付かせることが重要である。この恩恵はレガシーと呼ばれ、有形レガシーと無形レガシーの二つに分かれる。本授業ではこのレガシーについて理解を深める。
14 回	スポーツ産業界で求められる人材の説明および授業内試験	スポーツビジネスにおいて新しい価値を創造していく人材に求められる能力と資質について理解するとともに、競争が熾烈なスポーツ界において夢の仕事勝ち取るために、いかにして自分自身の競争優位性を高めるかという問題について議論する。また論述試験も行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配布される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想を持った状態で授業に出席しなければならない。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第 6 版）。杏林書院：東京。
原田宗彦・小笠原悦子（2008）スポーツマネジメント（スポーツビジネス叢書）。大修館書店：東京。

【成績評価の方法と基準】

1. スポーツマーケティングに関するレポート（50 点）：50%

【評価基準】

50 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

40 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

30 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながら書いている。

20 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて書いている

10 点：指定の形式に沿って書いている

2. 授業を通して学習した内容に関する論述試験（25 点 × 2 問）：50%

【評価基準】（1 問 25 点満点）

25 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

20 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

15 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

10 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながら書いている。

5 点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

現在のスポーツ界で起きているマネジメント関連の問題についても授業で取り上げ、皆で議論します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

井上 尊寛

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

従来のスポーツ産業においては、用品産業、施設・空間産業、情報産業の3つの領域は独立し存在していた。しかしながら、近年スポーツ健康への関心の高まりや消費者のライフスタイルの多様化などを背景にスポーツ健康産業の市場が拡大し、それぞれの領域が密に接し、ついには交わるようになっていく。この複雑な産業構造や要素間の関係を理解し、スポーツその持つ価値を最大化し、かつ収益性を高めるということを踏まえつつ、スポーツそのものにダイナミズムを与えるスポーツ健康産業論を展開する。

【到達目標】

本講義では、スポーツ産業についての理解を深めることを目的としている。具体的にはスポーツを商品として捉えた場合の商品特性や多様化するスポーツサービス業についての構造的な理解と現代的な経営課題について学んでいく。

【授業の進め方と方法】

多様化するスポーツ産業について、消費者行動や商品開発、ブランディングなど経営戦略やマーケティングなどの視点から解説していく。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	受講ガイダンス	スポーツ産業の産業構造について解説するとともに、授業の狙い、進め方なども併せて説明する
2 回	スポーツ産業の産業構造	スポーツ産業の歴史と実態さらに抱えている問題について解説する
3 回	スポーツプロダクトとライフサイクル	スポーツを商品として捉え、その特性や商品としてのライフサイクルまたはマーケティングについて解説していく
4 回	スポーツサービス産業	スポーツサービス業の目的・形態について歴史的な推移と共に解説していく
5 回	スポーツとメディア産業	スポーツの産業化とメディアの関係およびメディア産業の発展について考察する
6 回	スポーツ用品産業	スポーツブランドのマーケティングやブランディングについて考察していく
7 回	スポーツツーリズム	スポーツイベントとツーリズムの関係について解説していく
8 回	スポーツと地域	スポーツイベントやプロスポーツクラブが地域に与える影響について考察していく
9 回	フィットネスクラブのマネジメント	民間のフィットネスクラブについて歴史的な変遷や形態およびサービスの変遷について考察していく
10 回	公共スポーツ施設のマネジメント	公共スポーツ施設のマネジメントについて現代的な課題およびサービスについて解説していく
11 回	スポーツと CSR	CSR についての理解を深めるとともに、スポーツ組織における CSR について考察していく
12 回	スポーツとソーシャルインパクト	スポーツイベントが社会に与えている影響について考察するとともに、ソーシャルインパクトを創出する方法や意義について解説していく
13 回	メガスーツイベント ①	オリンピックの近代化や商業化のプロセスを解説する

14 回 メガスーツイベント
② サッカーワールドカップの近代化や商業化のプロセスについて解説するとともに、FIFA の世界戦略やマーケティングについても解説していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況（感想や理解度の確認のための小テストなど授業内に実施する提出物）(10%) や期末レポートの内容 (90%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

受講者の要望に沿った内容も適宜盛り込んでいきたい

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康政策学特論

吉田 毅

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピックに代表されるエリートスポーツの世界、また一般市民を対象としたスポーツによる健康政策、一見異なるレベルにおけるスポーツ関連政策に、いかに連続性を見いだしていくのか？ 諸外国の実情および我が国の国家レベルまたは地方自治体レベルでの取り組みを踏まえながら議論を進めていく。スポーツや健康をめぐる動向、また各受講生の研究テーマを勘案し、計画（内容）を変更することがあり得る。

【到達目標】

国内外のスポーツ健康政策の現状を理解し、その比較検討から、我が国の将来に向けてのスポーツ健康政策に関する戦略を受講生個々が提案できるようになる。

【授業の進め方と方法】

海外のスポーツ健康政策に関する調査事例を紹介するとともに、インターネット等を通して受講生個々が調査分析する機会を持つ。また我が国のスポーツ健康政策に関してはフィールドワークを行う機会を提供し、それぞれの調査結果をもとに議論を重ねる。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション：スポーツ健康政策の社会的背景	世界におけるスポーツ健康政策の現状と課題に関して紹介していく。講義の流れにも解説する。
2 回	我が国のスポーツ健康政策の経緯	我が国のスポーツ健康政策がどのような変遷を経てきたか、その歴史に関して理解を深める。
3 回	我が国のスポーツ政策の現状と課題	スポーツ振興基本計画、スポーツ立国戦略、スポーツ基本法によって発展したこと、また課題について考える。
4 回	諸外国のスポーツ政策の分析①（イギリス、アイルランド）	我が国と同様に学校スポーツが盛んな両国のスポーツ政策戦略を学ぶ。
5 回	諸外国のスポーツ政策分析②（ドイツ、オランダ、フランス）	地域スポーツクラブがスポーツ実践の基盤となるヨーロッパのスポーツ大国の戦略について学ぶ。
6 回	諸外国のスポーツ政策分析③（オーストラリア、NZ）	学校スポーツと地域スポーツクラブが共存し、多様なスポーツ環境を作り出している両国の戦略を知る。
7 回	諸外国のスポーツ戦略分析④（アメリカ、カナダ）	プロ・スポーツ先進国である両国の大衆スポーツの実践促進に対するアプローチや戦略について学ぶ。
8 回	諸外国のスポーツ政策分析⑤（中国、韓国）	エリートスポーツプログラムが成功している両国のスポーツ政策の特徴と、その社会的背景について学ぶ。
9 回	オリンピックとスポーツ政策	過去のオリンピックにおいて、開催国のスポーツ政策の変化と開催後のスポーツ環境への影響について知る。
10 回	スポーツ健康政策と「新しい公共」	「新しい公共」の概念と理解とスポーツ政策や健康政策策定に与える影響について考える。
11 回	地方自治体とスポーツ健康政策	コミュニティの形成・発展とスポーツ健康政策の関係性に関して学ぶ（自治体の役割に着目して）。

12 回	NPO やボランティアのマネジメント	コミュニティ・スポーツの発展にNPO やボランティアの果たす役割について事例をもとに考える。
13 回	総合型地域スポーツクラブ構想について検証する	総合型地域スポーツクラブの成功事例、課題に関して学び、今後のスポーツ健康政策策定に向けて考える。
14 回	スポーツ健康政策の方向性とアクターについて	我が国の健康スポーツ政策の目指すべき方向性と、アクターの役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で、次週に向けての課題図書を紹介または資料を配布する。それらを熟読し、テーマに関しての理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

【参考書】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URL を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の議論やリアクションペーパーの評価：50%

最終レポートの評価：50%

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の研究テーマに即した学びを深める機会をより一層提供できるよう努力したい。

【その他の重要事項】

特になし

スポーツジャーナリズム特論

山本 浩

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの世界は、過去に例を見ないほど広く報道されるようになった。専門化、プロ化、高度化が進み、人々にポジティブな記憶を届ける一方で、スポーツを取り巻く不正や疑惑は絶えることなく、さまざまな形で吹き出してくる。講義では、我々の目に触れるスポーツジャーナリズムの中に現代社会の変化を読み解き、表面的な事実の裏に隠れるフレームを見通しながら、スポーツとそこを取り巻く人々のあるべき姿を考える。

【到達目標】

スポーツは、政治・経済・社会・外交などの影響を受けながら時代を乗り越えてきた。ポジティブな答えにあふれるときもあれば、ネガティブな部分をたたかれることもある。そのときどきの報道を、社会情勢や自然のありようと関係づけながら分析し、読み解けるようにする。一方で、鋭い観察眼で説得力のある論調を文章化し、言葉で伝える能力を身につける。

【授業の進め方と方法】

毎回、特定のテーマを軸に据えて講義を進める。対象が過去の出来事である場合もあれば、今まさに話題になっている場合もある。スポーツ報道がどのように行われるのか。不祥事がどのように批判されるのか。過去の映像素材や報道情報をたどりながら、「なぜ」「どうして」を問い続けると同時に、「伝えられなかった構図」に目を向ける力をつける。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	活字スポーツジャーナリズム、電波スポーツジャーナリズムの特性と歴史。
2 回	興行と教育～野球揺籃時代～	専門用語が汎用化されていない時代の「伝える」から「批評」へ。やがて野球報道が過熱を始める。
3 回	‘32 ロサンゼルスから幻の’40 東京へ	国威発揚を意識した報道は、戦争の色に染まりながら、やがて呼吸することを止める。
4 回	テレビスポーツジャーナリズムの登場	具体性と同時体験。テレビの威力は、スポーツジャーナリズムを変化させる引き金となった。
5 回	‘64 東京五輪と世論	文学者を動員したスポーツ報道の時代。カラー放送が始まって、日本は東京への情報集中を加速させる。
6 回	東西対決とドーピング	世界が目指すメダル争いは、政治の世界を巻き込み、「勝つことのみが善」であるといった風潮を生んだ。
7 回	アマチュアとプロ	商業化はプロ化の促進に弾みを付けた。スポーツ用品業界が運動靴の世界から飛び出すのもこの時期だ。
8 回	イノベーションがスポーツ報道を変える	カメラの機能・性能の向上、情報伝達手段の変化、再生装置の発達。技術革新はスポーツ報道を変えた。
9 回	プロサッカーと地域化	Jリーグの発足は、他のスポーツに大きな刺激を与え、そこに「地域」の視点を掘り起こした。
10 回	生涯スポーツという発想	健康とスポーツの結びつきは、共同体の再構築だけでなく、高齢者対策、少子化などと密接な関係がある。

- 11 回 2020 東京招致の顛末 「日本を元気にさせる」。ジャーナリズムまでが一体となってオリンピック・パラリンピック開催権獲得に走った。
- 12 回 女性と差別 イスラム女性をスポーツに解放する、くり返されるスポーツ界の人種差別を根絶する。道のりは長い。
- 13 回 暴力的指導と組織のコンプライアンス 後を絶たない暴力的な指導。団体の分裂や補助金の不正運用。ガバナンス、コンプライアンスが問われ続ける 21 世紀のスポーツ界。
- 14 回 スポーツジャーナリズムの今とこれから（小論文課題あり） 広報戦略、記者会見、ホームページの充実、マッチデープログラム、SNS。スポーツ自らが発信する時代。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツニュースに敏感になると同時に、政治・経済・外交の大きな流れを見落とさないようにする。大きなトピックに遭遇した際には、自分なりのレポートを書きためておく。社会に流布する情報の、真偽を自ら確かめようとする姿勢を大切にしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

月刊「ジャーナリズム」（朝日新聞社）

隔月刊「調査情報」TBSメディア総合研究所

【成績評価の方法と基準】

スポーツ事象に対する切り込み方、伝える為の構成、スポーツ世界観の広さを、随時要求するレポートに見る（70%）
最終講義の中の一部を使って行う小論文（30%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

講義の中で、タイミングを見計らい「書く」「伝える」時間を用意する。

自らの体験したスポーツの世界に関して、深い知見を備えて参加してもらいたい。

スポーツメディア特論

赤堀 宏幸、海老名 徳雪

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治、経済、文化事象を把握し、これらがスポーツとどう関連付けられるかを根本的な主題としたい。スポーツと政治の関係も追求し、メディアの根本原則も考える。

【到達目標】

オリンピックをはじめ、国際大会や国内プロリーグなどの取材を通して「スポーツとは何か」「スポーツの真実」「スポーツに可能なもの」などを探っていく。

【授業の進め方と方法】

メディアの現状、在り方、魅力を知るとともに、将来、記者（政治、経済、社会、文化も含む）、放送ディレクター等報道の道を目指す者に対して、基本的な手練だけでなく、役割や社会的使命を学んでもらう。事前に新聞の社説、コラムなどニュースに接し、テレビ番組を視聴し、国内外で何が起きているかを検証の上、スポーツの世界で何が問題になっているかを考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	新聞・通信のスポーツ取材のルール	新聞・通信各社がスポーツ取材をするときのルールや記者クラブシステム、プレスルームの運営、幹事社制度【担当：赤堀先生】
2 回	スポーツメディアとメディアスポーツ	アスリート、イベントがあつて、メディアが存在する一方で、メディアとスポーツイベントが共存共栄の図式もある【担当：赤堀先生】
3 回	オリンピックとマスメディア	オリンピックを報道するマスメディアと大会の規模、競技・開催の変遷【担当：赤堀先生】
4 回	メディアと競技種目、公開競技の関係	オリンピックの競技種目、公開競技開催とメディアの関係（今昔）【担当：赤堀先生】
5 回	スーパーボウルとイングラウンドのプレミアリーグ	欧米のスポーツメディアとメジャースポーツの関係の大きさ【担当：赤堀先生】
6 回	イチロー、松井秀喜、松坂大輔と日本のスポーツメディア	メジャーリーグベースボール（MLB）にイチローが進んで以降の日本のスポーツメディアの変化【担当：赤堀先生】
7 回	日本国内、海外のスポーツ報道の速報性	スポーツの結果報道の新聞、電波という報形態から、より速報性で効果のあるネットメディアへの変遷【担当：赤堀先生】
8 回	電波のスポーツ報道史	ラジオから始まった電波のスポーツ報道は歴史が浅いが、驚くほどの成長を遂げた。中継技術の革新も日進月歩。【担当：海老名先生】
9 回	テレビのスポーツ支配① 放送権の威力	オリンピック、サッカーW杯等世界の巨大イベントは膨大な放送権に依存する。そのパワーを考える。【担当：海老名先生】
10 回	テレビのスポーツ支配② ルール変更の是非	相次ぐ競技ルールの変更は競技者、ファンの意に沿うものか、放送局側の要請優先か、種々のケースを検証する。【担当：海老名先生】

- 11 回 スポーツにおける人権 競技場内における人種差別、SNS利用のヘイトスピーチ。スポーツ報道は人権、倫理に関して最大限の配慮が求められる。【担当：海老名先生】
- 12 回 メディアのイベント主催 新聞社事業部の立案で始まったスポーツイベントは電波メディアの後押しなしには進まない時代が続く。「事業」と「ジャーナリズム」は並立出来るか。【担当：海老名先生】
- 13 回 進む国際化を考察する プロリーグから学生スポーツまで、外国人の存在が当たり前前の時代。島国ニッポンにおけるグローバルイズムを考える。【担当：海老名先生】
- 14 回 スポーツメディアの課題と将来 ネット時代でスポーツジャーナリズムに大きな変化が見えてきた。先行きもきわめて不透明である。これからのスポーツ報道の姿を探る。【担当：海老名先生】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

複数のメディアを常時チェックし、社会の動向や世論の変化を敏感にとらえておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、新聞、書物などを持参する場合がある。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度50%、リアクションペーパー20%、レポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

大きなトピック、世界を揺るがすスポーツ事象などは常に起こる可能性がある。それを勘案すれば、必ずしもシラバス通り、計画通りにいかない場合もある。

スポーツ組織構造特論 【2018年度以降入学生対象】

伊藤 真紀

開講時期：秋学期 | 単位数：2単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2回	マネジメントとは1 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3回	マネジメントとは2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4回	マネジメントとは3 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5回	組織とは スポーツの組織化、ビジネス化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する。
6回	スポーツ組織のコントロールシステム	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
7回	スポーツ組織の経営環境と組織デザイン	組織コミットメント スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について学習する。
8回	スポーツ組織における組織開発	組織変革、組織開発、チームビルディングについて学習する。
9回	スポーツ組織におけるリーダーシップ1	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1. リーダーシップ特性論 2. リーダーシップ行動論 3. リーダーシップ条件適応理論 4. 変革型リーダーシップ リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10回	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。

11回	人的資源管理政策・施策 職務満足と人事施策	人材マネジメント (HRM) の諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM) 職務満足について理解し、人事施策がいかに組織と個人に影響するか、人事管理プロセスを学習する。
12回	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13回	ケーススタディー1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。
14回	授業内レポート	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」(P.F. ドラッカー著)ダイヤモンド社

"Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) + ケーススタディーレポート (40%) + 期末レポート (40%) = 100% という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ団体構造特論 【2017年度以前入学生対象】

伊藤 真紀

開講時期：秋学期 | 単位数：2単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2回	マネジメントとは1 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3回	マネジメントとは2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4回	マネジメントとは3 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5回	組織とは スポーツの組織化、ビジネス化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する。
6回	スポーツ組織のコントロールシステム	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
7回	スポーツ組織の経営環境と組織デザイン	組織コミットメント スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について学習する。
8回	スポーツ組織における組織開発	組織変革、組織開発、チームビルディングについて学習する。
9回	スポーツ組織におけるリーダーシップ1	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1. リーダーシップ特性論 2. リーダーシップ行動論 3. リーダーシップ条件適応理論 4. 変革型リーダーシップ リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10回	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。

11回	人的資源管理政策・施策 職務満足と人事施策	人材マネジメント (HRM) の諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM) 職務満足について理解し、人事施策がいかに組織と個人に影響するか、人事管理プロセスを学習する。
12回	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13回	ケーススタディー1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。
14回	授業内レポート	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」(P.F. ドラッカー著)ダイヤモンド社
"Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) + ケーススタディーレポート (40%) + 期末レポート (40%) = 100% という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ消費者行動特論

吉田 政幸

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者の意思決定過程における心理と行動を説明するための理論を学習する。

【到達目標】

1. スポーツプロダクトの特性とそれを消費するスポーツ消費者について説明できる。
2. スポーツ消費者の意思決定過程を認知、魅力、愛着、忠誠の段階に分けて説明できる。
3. スポーツイベントにおける顧客満足的重要性を説明できる。
4. スポーツ消費者が形成する社会的アイデンティティについて説明できる。
5. スポーツブランドがスポーツ消費者に与える影響を説明できる。
6. スポーツ消費者とスポンサーの結びつきを強め、相互支援の関係を築く方法を説明できる。

【授業の進め方と方法】

本授業は、スポーツをプロダクトとして捉え、それを参加または観戦などの形態によって消費する「スポーツ消費者の意思決定過程」について学習する。講義では、スポーツプロダクトを消費する際の認知的、感情的、行動的反応がどのように関係しているかという問題について理解を深める。学期の前半はスポーツ消費者のニーズの充足を通じた満足度や顧客ロイヤルティの向上を説明し、後半ではその概念的な焦点を社会的アイデンティティ、ブランド、スポーツ組織の社会的責任、コンシューマー・エクスペリエンス、スポンサーシップにまで広げ、これらのテーマにおけるスポーツ消費者行動について考える。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツプロダクトとスポーツ消費者	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
2 回	スポーツ消費者の動機因子	スポーツ参加者およびスポーツ観戦者がスポーツ経験に対してどのような興味を抱き、どのように動機づけられているかを理解する。
3 回	スポーツ関与	スポーツとの関わり方は人によって異なる。これをスポーツ関与と呼び、その強さはスポーツの (1) 重要性、(2) 娯楽性、(3) 記号性によって決定します。これらの 3 つの側面を通じてスポーツに関与すると、結果的に消費者行動がどのように変化するかを理解を深める。
4 回	スポーツ消費者の意思決定過程：認知と魅力の段階	スポーツに興味・関心の低い者が、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）を認知し、やがてそれらに魅力を感じるようになる意思決定過程について学習する。
5 回	スポーツ消費者の意思決定過程：愛着と忠誠の段階	スポーツ参加者やスポーツ観戦者が熱心な愛好者やファンへと成長する過程において、特定のスポーツ対象（選手、チーム、リーグ、イベントなど）が個人の自己概念の中にどのように取り込まれ、アイデンティティの形成に至るかを理解する。
6 回	スポーツイベントと顧客満足	時には「負け」を前提に事業を展開しなければならないスポーツビジネスにおいて何故顧客満足が重要なかを理解するとともに、スポーツイベントで提供されるサービス経験の質を高めることが顧客満足の向上につながることを理論的に学習する。
7 回	スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ	スポーツ消費者が特定のスポーツプロダクト、組織、イベントなどに継続的に愛顧心を頂き、それらと支援的な関わりを持つようになる現象を、顧客ロイヤルティの点から学ぶ。
8 回	スポーツ消費者とブランド	スポーツブランドにどのような付加価値が備わっているかを理解するとともに、それら的高め方と高めた結果期待できる競争優位性について学習する。

9 回	スポーツ組織の社会的責任とスポーツ消費者	成熟社会において人はより良く生きるためスポーツに対して個人的な恩恵だけでなく、より社会的なレベルの効果を求めるようになる。そのような社会において、スポーツ組織が果たすべき社会的責任について考える。
10 回	スポーツ消費者の社会的アイデンティティ	スポーツ消費者は様々なスポーツ対象（特定種目、選手、チーム、リーグ、イベント、地域など）を社会的アイデンティティとして自己概念の中に取り込むことで自分が何者なのかを確認している。ここではスポーツを通じた社会的アイデンティティの形成について学びを深める。
11 回	ブランドコミュニティと集团的ロイヤルティ	特定のスポーツブランドに対して愛着を持つスポーツ参加者やスポーツ観戦者が仲間意識を抱き、消費者同士の心理的つながりが強化されることで観測される集団レベルの行動について学習する。
12 回	スポーツ消費者の向社会的行動	スポーツ界が果たすべき社会的責任は提供者側のスポーツ組織だけでなく、スポーツ経験の主体であるスポーツ消費者自身も担う必要がある。ここではスポーツ消費者の向社会的行動に焦点をあて学習する。
13 回	スポーツのエクスペリエンス・クオリティ	先行研究はスポーツプロダクトの品質をコアプロダクト・クオリティとサービス・クオリティの 2 つの側面から捉えてきたが、これらはどれも特定の消費経験の品質であり、消費前後のプロモーション活動や顧客維持活動の品質が含まれていない。スポーツ消費者の全体的な消費経験を説明するエクスペリエンス・クオリティについて考える。
14 回	スポーツ消費者とスポーツスポンサーシップ	今日、スポーツとそれを支援するスポンサーとのパートナーシップを通じて様々な価値が創造され、スポーツ界の発展に貢献している。ここではスポーツ組織、スポンサー、消費者の三者がどのように関わることでスポンサーシップが促進されるかについて学びを深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配布される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想を持った状態で授業に出席しなければならない。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

仲澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

1. 前半の内容に関するレポート（関与、PCM、顧客満足、顧客ロイヤルティ）：50 点

2. 後半の内容に関するレポート（社会的 ID、ブランド、エンゲージメント、消費経験）：50 点

【評価基準】

【レポートの評価基準】

それぞれのレポートはスポーツ消費者行動に関する 10 個の問いによって構成される。各問いに対する解答を以下の基準に従って評価する。

5 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。

4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

3 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

2 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつながりながら書いている。

1 点：授業の内容を踏まえて書いていない。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

スポーツフィールドスタディー演習

吉田 政幸

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者のニーズや特性を理解するための市場調査を実際に行う。

【到達目標】

1. 量的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
2. 量的なアンケート調査を実施し、結果をまとめることができる。
3. 質的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
4. 質的なインタビュー調査を実施し、結果をまとめることができる。

【授業の進め方と方法】

スポーツ組織は多様化するスポーツ消費者のニーズやライフスタイルに応じたサービスの提供を提供しなければならない。本授業はスポーツ消費者のニーズの理解において欠かすことのできない市場調査および解析の手法を学ぶとともに、実際の調査をとおして学習内容を実践経験へとつなげることが目的である。受講者はスポーツメーカー、プロスポーツチーム、フィットネスクラブなどのスポーツ消費者から収集したデータを解析し結果を報告することで、現場における課題の解決に資する証左の提示方法を習得する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツマネジメント 現場の課題	スポーツマネジメント現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2 回	社会調査の種類	量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けることのできる判断力を身に付ける。
3 回	質問項目の作成	量的なアンケート調査において設定する必要がある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学び、自ら作成する。
4 回	調査票の作成	調査票の説明および依頼文の作成に加え、回答者が答えやすい質問項目のデザインやレイアウトを学び、さらにアンケートにおける共通手法分散バイアスや疲労バイアスなどの制御方法についても学習する。
5 回	標本抽出方法	社会調査における標本抽出方法について、確率抽出法と非確率抽出法の二種類から学びを深め、各自の調査に適したサンプリング方法を選択する。
6 回	量的データの入力	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを、エクセルと SPSS を用いて学習する。
7 回	量的データの記述統計	実際に収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
8 回	心理的要因の分析	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。

9 回	図表の作成	記述統計と心理的要因の分析結果を、エクセルによってグラフや表にまとめる。
10 回	質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。
11 回	質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習する。
12 回	質的データの分析の実施	テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化を実際に行う。併せて、収集した質的データの分析結果をエクセルの表やパワーポイントの図などでまとめる方法を学ぶ。
13 回	プレゼンテーションの準備	収集した量的データと質的データの分析結果をパワーポイントスライドとしてまとめる。
14 回	プレゼンテーション	学期を通じて実施した量的研究と質的研究の結果を、パワーポイントを用いて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題されます。これらに計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

J リーグスタジアム観戦者調査（日本プロサッカーリーグ）
スポーツ白書（笹川スポーツ財団）

【成績評価の方法と基準】

課題 1（調査票の作成）：25 点

課題 2（アンケート調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 3（インタビュー調査の実施および結果の分析）：25 点

課題 4（プレゼンテーション）：25 点

【評価基準】課題 1～4 の評価基準は以下とする：

25 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでおり、導き出した解答も課題に対して的確に答えている。

20 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでいる。

15 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら課題に取り組んでいる。

10 点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

5 点：指定の形式に沿って書いている

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者がより深く考えるように進めています。

スポーツマーケティングリサーチ演習

井上 尊寛

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位
 曜日・時限： | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究や実務においても重要となるデータマイニングやテキストマイニングといった定量的な情報の扱い方について理解を深めていく。

具体的にはマーケティング実行のプロセスの基礎的な情報である消費者の行動や特性を把握するための実践的な能力を身に付ける。

【到達目標】

マーケティングをおこなううえで、経営上の課題を発見し、解決するための方法（リサーチデザイン・分析および統計解析の手法）を理解していること、さらにはリサーチを自ら活用（実務者の立場からのインプリケーションを行うこと）する能力を高めることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義部分としてマーケティングリサーチの概要および統計的な分析の手法を学んだうえで、演習として我が国を代表するプロスポーツであるプロ野球や J リーグなどの実際のプロスポーツ興行に会場した観戦者を対象とした定量調査を実施し、調査の手法についての学習および得られたデータの解析をおこなうものである。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	マーケティングリサーチの概要	マーケティングリサーチの概要及びリサーチのプロセスについて解説する
2 回	課題設定	スポーツビジネスにおける経営的な課題を考え、調査すべき課題について検討していく
3 回	調査の種類	国内外の調査研究から調査の事例や、尺度について解説していく
4 回	定量データの扱い方①	SPSS について、基礎的な使用法について解説する
5 回	定量データの扱い方②	基礎集計（度数分布、記述統計、平均値、中央値）について学習する
6 回	定量データの扱い方③	t 検定および χ^2 検定、一元配置の分散分析について学習する
7 回	定量データの扱い方④	二元配置の分散分析、重回帰分析について学習する
8 回	定量データの扱い方⑤	探索的、確認的因子分析について学習する
9 回	定量データの扱い方⑥	テキストデータの解析について学習する
10 回	リサーチデザイン	調査項目の検討や妥当性について検討し、適切な調査を行うための準備を行う
11 回	質問紙調査の作成	各自が設定した課題に対して仮説を設定した質問紙調査の作成および、データ入力後の準備（SPSS のシンタックスの作成等）を行う
12 回	フィールドサーベイ	スタジアム等で調査を行う
13 回	サマリーの作成	得られたデータを入力し、集計作業を行う
14 回	調査報告書の作成	得られたデータからさらに、自らの課題を踏まえ、分析を行い、報告書をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSS については与えられたデータセットから、分析および統計解析の手法について事前の学習と事後の復習を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業にて課す課題報告 (40%)、レポートおよび実査から得られたサマリー報告 (60%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

実査スケジュールを早目に公開し、早めに調整を図っていく

【その他の重要事項】

特になし

スポーツコーチング学特論

苅部 俊二

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解し、その実践法を探究する。

【到達目標】

効果的なスポーツコーチングの実践のために必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。

【授業の進め方と方法】

球技スポーツ、個人スポーツなど様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどの生涯スポーツに関するコーチングの方法や実践に関する論文や文献を読み解き要約を行う。さらにそれらについて自身の考えを述べるとともにディスカッションを行い、その内容をまとめる。また、実際のコーチングの問題、課題を検討するために、フィールドワークや事例報告などのフィールドスタディを実施し、プレゼンテーションによる発表、報告を行う。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツコーチングとは	スポーツコーチングの本質を理解する 国内外のスポーツコーチングの実際について理解する
2 回	スポーツコーチングの方法① 球技系・集団型スポーツ	競技型スポーツコーチングの理論を習得する 球技系・集団型スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
3 回	スポーツコーチングの方法② 個人型スポーツ	競技型スポーツコーチングの理論を習得する 個人型（競争型・対人型）スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
4 回	スポーツコーチングの方法③ 生涯スポーツ	生涯スポーツコーチングの理論を習得する レクリエーションスポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する
5 回	コーチングに必要なスキル	リーダーシップ、コミュニケーション能力などコーチングに必要なスキルについて理解を深める
6 回	コーチングの実践（技術）	技術面から見たコーチング実践について理解を深める
7 回	コーチングの実践（体力）	体力面から見たコーチング実践について理解を深める
8 回	コーチングの実践（戦術）	戦術面から見たコーチング実践について理解を深める
9 回	コーチの心理	競技者の心理を理解したうえでコーチの心理について考える
10 回	コーチング哲学	コーチの持つべき哲学について検討する
11 回	コーチング倫理・危機管理	コーチの持つべき倫理・危機管理について検討する
12 回	系統的指導プログラムの構成① 競技スポーツ	競技スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う
13 回	系統的指導プログラムの構成② 生涯スポーツ	生涯スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う
14 回	スポーツコーチング研究方法	スポーツコーチングの研究手法、データの解析方法を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文検索サイトや図書館検索システムを利用しコーチングに関する論文や文献を読み、要約する

【テキスト（教科書）】

特に設けないが、適宜論文や文献を使用する

【参考書】

コーチングの心理 Q & A 不味堂

スポーツトレーニング理論 ブックハウス HD

【成績評価の方法と基準】

授業内に行う課題レポート（50%）とプレゼン・ディスカッションでの発言内容（50%）にて評価する

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ運動学特論

平野 裕一

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・運動の指導対象者のからだの理解と対象ごとの指導方法・内容の理解

【到達目標】

指導対象者のからだの特徴を理解し、その指導方法・内容を選択・活用できるようにする

【授業の進め方と方法】

スポーツ科学に立脚したスポーツ・運動の指導が求められている。指導対象者ごとの特徴、指導環境の特徴、指導方法・内容の特徴、それぞれの理解を促し、ディスカッション、プレゼンテーションを活用して双方向の講義にする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	スポーツ・運動の指導における留意点	・対象者のライフステージの理解 ・対象者のからだの特性の理解
2 回	スポーツ・運動の指導における留意点	スポーツ科学に立脚した指導の理解
3 回	指導対象者の理解（性別）	女性を指導する際の特徴の理解
4 回	指導対象者の理解（年齢）	幼児児を指導する際の特徴の理解
5 回	指導対象者の理解（年齢）	思春期生徒を指導する際の特徴の理解
6 回	指導対象者の理解（年齢）	中高年者を指導する際の特徴の理解
7 回	指導対象者の理解（体力レベル）	脆弱者を指導する際の特徴の理解
8 回	指導対象者の理解（体力レベル）	パラアスリートを指導する際の特徴の理解
9 回	指導対象者の理解（体力レベル）	アスリートを対象とした指導の特徴の理解
10 回	指導環境の理解	自然環境の影響を理解する
11 回	指導環境の理解	人口環境の影響を理解する
12 回	指導環境の理解	社会環境の影響を理解する
13 回	指導方法・内容の特徴	性別とその指導方法・内容を理解する
14 回	指導方法・内容の特徴	年齢とその指導方法・内容を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた対象者に関する先行研究を事前に読んで、内容をプレゼンする。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

指導対象者を選択し、その指導に関するレポート（60%）、レポートのプレゼンテーション（20%）、授業への参画状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

バイオメカニクスに限らず、身体運動に関わる多くの分野の論文を輪読する

【その他の重要事項】

特になし

スポーツバイオメカニクス特論

平野 裕一

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツでみられる身体運動のバイオメカニクスの計測法を学び、それらを用いて身体運動を計測し、分析する。

【到達目標】

- ・計測法の原理を理解する。
- ・計測法の活用を理解する。
- ・身体運動の計測・分析計画を立てられるようになる。
- ・身体運動を計測・分析する。

【授業の進め方と方法】

- ・バイオメカニクスの計測法を受講学生で分担し、それぞれその原理・活用を調べてプレゼンする。
- ・学んだ計測法を活用してスポーツでみられる身体運動を受講学生が選択し、計測・分析の計画を立てる。
- ・計画に基づいて実際に計測・分析し、フィードバックプレゼンをする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	・講義の進め方の説明 ・身体運動の計測法の紹介 ・参考図書の紹介	計測法を分担し、原理・計測・分析法の調べ方を指示する
2 回	映像による計測法	高速度ビデオの原理、それを用いた映像による身体運動の計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
3 回	Motion Capture 法	Motion Capture 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
4 回	ゴニオメータ法	ゴニオメータ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
5 回	GPS 法	GPS 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
6 回	超音波法、MRI 法	超音波法、MRI 法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
7 回	フォースプラットフォーム法	フォースプラットフォームの原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
8 回	ストレインゲージ法	ストレインゲージ法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
9 回	加速度計法	加速度計法の原理、計測・分析法をプレゼンしてもらい、補足説明により理解を促す
10 回	筋電図法	筋電図法の原理、計測・分析法のプレゼンをってもらい、補足説明により理解を促す
11 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（歩、走）	歩、走動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
12 回	スポーツでみられる身体運動の計測・分析（跳）	歩、走動作の分析結果をフィードバックする。跳動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する

- 13 回 スポーツでみられる身体運動の計測・分析(投、打) 跳動作の分析結果をフィードバックする。投、打動作のポイントを理解した上で、計測・分析の計画を立て、実施する
- 14 回 スポーツでみられる身体運動の計測・分析のまとめ 投、打動作の分析結果をフィードバックする。計測・分析のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・割り当てられた計測法の原理、計測・分析法を準備学習として調べ、プレゼンの準備をする。
- ・割り当てられた身体運動の計測・分析の計画を立てて、プレゼンの準備をする。
- ・割り当てられて計測した身体運動を分析し、フィードバックの準備をする。

【テキスト（教科書）】

- ・バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎. 金子公有、福永哲夫編、杏林書院、2006

【参考書】

- ・スポーツバイオメカニクス. 深代千之ほか編著、朝倉書店、2000
- ・スポーツバイオメカニクス20講. 阿江通良、藤井範久、朝倉書店、2002

【成績評価の方法と基準】

- ・身体運動の計測法のプレゼン60点
- ・身体運動の分析結果フィードバック40点

【学生の意見等からの気づき】

多様な分野の院生がいるので、講義開始時の説明をさらに理解しやすいものにする

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン、分析、フィードバックのためのPC

【その他の重要事項】

特になし

Nemes Roland

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの基本となる体力要素のトレーニング方法としてストレングス・コンディショニングトレーニングを中心に、様々なトレーニング方法に対する身体の諸適応およびその機序を学習する。対象・目的に応じた適切なトレーニングプログラムを作成するための基礎理論や各種スポーツ現場への実践のための段階的プログラミングについても学ぶ。

【到達目標】

筋力、パワー、全身持久力、スピード、協調性、柔軟性などの各種トレーニング理論と方法論について理解、具体的なプログラミングを行うトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定およびプログラム立案方法を理解、実践する傷害の評価および指導対象の評価とあわせて対象者に適切な運動処方を行う。

【授業の進め方と方法】

運動処方・運動療法として行われるプログラムの立案と実施における原理・原則、エクササイズの特性とその効果、各年代におけるトレーニングの注意点や個人差の要因等について、科学的根拠に基づき講義・議論する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業概要、基礎的知識の確認、原理・原則
2 回	筋力・筋持久力のトレーニング	筋線維、筋組成、筋収縮、ウエイトトレーニング
3 回	パワーのトレーニング	仕事率、筋腱複合体、プライオメトリクス
4 回	スピードのトレーニング	敏捷性、巧緻性、神経系、反射環
5 回	柔軟性・協調性のトレーニング	神経系、動的・静的柔軟性、静的・動的安定性、身体組成
6 回	トレーニング計画	期分け、各期に応じたトレーニング、競技シーズン
7 回	トレーニングの評価	目標と課題の設定、測定・評価方法、プログラミング
8 回	トレーニングと傷害予防	スポーツとリスク、リスク管理、コンディショニング
9 回	中高齢者のトレーニング	加齢と身体変化、カロリー消費、レジスタンストレーニング
10 回	トレーニングと性差	月経周期とトレーニング、妊産婦とトレーニング
11 回	少年期のトレーニング	発達曲線、トレーニングの原理・原則、タレント発掘
12 回	プログラム立案・評価 1	競技別トレーニングプログラムの立案・発表
13 回	プログラム立案・評価 2	対象別トレーニングプログラムの立案・発表
14 回	プログラム立案・評価 3	その他のトレーニングプログラムのための討議・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学、生理学等基礎的知識の確認
自身の経験から各種トレーニングを考察する

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

ストレングストレーニング&コンディショニング、ブックハウス・エイチデイ
トレーニングの科学的基礎、ブックハウス・エイチデイ
測定と評価 現場に活かすコンディショニングの科学、ブックハウス・エイチデイ

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、レポートの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

特になし

発育発達学特論

高見 京太

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

からだの発育と機能の発達過程を理解することは、学校教育やスポーツ指導者にとって重要である。また、高齢社会である現代において、成長期を経て高齢期に至る過程について理解することも重要である。本講義では、人の誕生から成長、成熟、老化といったライフステージに沿って、その過程を概観し、生涯における心や体、また健康や体力の変化の現象を明らかにするとともに、外部からの働きかけにより内在する諸能力を引き出し、発達を促すための理論を学習する。

【到達目標】

発育・発達、加齢に伴う身体変化について理解し、その視点から健康課題を考え、科学的根拠に基づいた健康教育や対策について検討できる能力を培う。

【授業の進め方と方法】

乳幼児期から高齢期までのヒトの一生にわたる心身の変化について理解し、各時期における健康課題を明らかにすることで、その解決方法を探る。特に学童期から中・高生期においては学校教育の中での保健体育科目を通じた運動実践や健康づくりについて追求する。また、中年期以降は加齢・老化と身体活動との関係をもとに、生活習慣病予防について議論する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	授業の展開方法や注意点の説明。参考文献の紹介を実施する。
2 回	発達の見方・とらえ方	発達の概要を理解し、個人差や発達を支え・促す環境、健康との関係を概観する。
3 回	乳幼児期の発育発達	乳幼児期の発育発達に関する基礎的理論を理解する。
4 回	乳幼児期の発育発達	乳幼児期の、発育発達と健康課題との関係を議論する。
5 回	学童期の発育発達	学童期の発育発達に関する基礎的理論を理解する。
6 回	学童期の発育発達	学童期の、発育発達と健康課題との関係を議論する。
7 回	中・高生期の発育発達	中・高生期の発育発達に関する基礎的理論を理解する。
8 回	中・高生期の発育発達	中・高生期の、発育発達と健康課題との関係を議論する。
9 回	青年期（後期）の発育発達	青年期（後期）の発育発達に関する基礎的理論を理解する。
10 回	青年期（後期）の発育発達	青年期（後期）の、発育発達と健康課題との関係を議論する。
11 回	生活習慣病と身体活動	身体活動（生活活動・運動）に取り組むことで得られる効果について理解する。
12 回	壮年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が壮年期の心身に与える影響について議論する。
13 回	中年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が中年期の心身に与える影響について議論する。
14 回	高年期の心と体	加齢・老化の観点から、身体活動が高年期の心身に与える影響について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて、下調べを行う。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

抄録・プレゼンテーション	30 %
授業への参画状況	50 %
課題レポート	20 %

【学生の意見等からの気づき】

各受講者の研究テーマと関連を持たせるように、授業内容を工夫する。

【その他の重要事項】

特になし

永木 耕介

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の学校体育を含むスポーツ教育の歴史・課題・展望

【到達目標】

学校体育を含むスポーツ教育に関する基礎的知識を修得し、今日的課題と今後の展望を考究する力を養う。

【授業の進め方と方法】

広義の「スポーツ」について、概念、歴史、文化的様相を捉えながらその教育的側面を剔出する。次いで、日本の学校体育および国際スポーツの様相を捉えながらその教育的側面を剔出する。さらに、現代のグローバル化したスポーツの様相を捉えながら日本の学校体育／地域スポーツの今日的課題と今後の展望について議論する。特に後半では受講生の参加による議論を促し、レポートを課す。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本授業のスケジュール、ねらい、概要、評価等について受講生に説明する。
2 回	スポーツ・体育とは何か	スポーツと体育の概念について、これまでの日本での捉え方を含めて解説する。
3 回	スポーツの歴史①	未開～古代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
4 回	スポーツの歴史②	前近代～近代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
5 回	スポーツの歴史③	日本の江戸期における武術教育について論じる。
6 回	スポーツの歴史④	日本の明治期における体操・欧米スポーツの輸入と定着が学校体育にもたらした影響について論じる。
7 回	嘉納治五郎とクーベルタン	近代オリンピックの主導者・クーベルタンのスポーツ教育思想を、日本体育界の牽引者・嘉納治五郎の体育思想と関連づけながら論じる。
8 回	日本の体育とオリンピック	東京オリンピック（1964 年および幻に終わった 1940 年）について、日本の体育／スポーツ教育への影響という観点から論じる。
9 回	戦後日本の学校体育①	昭和の戦後における学校体育について、学習指導要領の変遷を中心に論じる。
10 回	戦後日本の学校体育②	現代におけるスポーツのグローバル化を捉え、主に学校体育に与える影響について論じる。
11 回	日本における体育授業の現状と課題①	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に学習内容・教材づくりの観点から論じる。
12 回	日本における体育授業の現状と課題②	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に教授法の観点から論じる。
13 回	日本における学校運動部活動の教育的意義および現状と課題	学校運動部活動の教育的意義について歴史的視点から講述し、さらに現状と問題点について地域スポーツのあり方と関連づけながら論じる。

- 14 回 学校体育／スポーツ教育における道徳教育の可能性
マナー、フェアプレイ、アンチ・ドーピング、責任学習など、学校体育／スポーツ教育が有する道徳教育としての可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションおよびレポート作成のための講義内容の復習と、自己の意見を補足するための文献資料の調査等。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

学校体育制度史（大修館書店）、現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか（ミネルヴァ書房）、体育の人間形成論（大修館書店）、体育の教材を創る（大修館書店）、等。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション等の参加状況（60%）、レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度も少人数制の利点として、各種のトピックについて一步深い議論を行いたい。

【その他の重要事項】

今日の学校体育／スポーツ教育は様々な課題や問題点を抱えているが、なぜそうなっているのか、改善するためには何が必要なのか、本授業でそれらを考える知力と見識を養いたい。

スポーツメンタルトレーニング演習

中澤 史

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリートやスポーツチームの心理支援に資する理論と方法の習得。

【到達目標】

1. アスリートが抱える心理的諸問題の改善に資する心理支援の理論と方法を習得する。
2. チームビルディングに資する心理支援の理論と方法を習得する。

【授業の進め方と方法】

本演習では、まずスポーツフィールドで実践される種々の心理支援や心理アセスメントの理論と方法に関する国内外の動向について概説する。次に、1) スポーツメンタルトレーニングならびにスポーツカウンセリングの諸技法の学習、2) 心理アセスメントの体験的学習に取り組む。また受講生は、当該領域にまつわる国内外の文献を精読し、その内容を抄録にまとめたうえで発表し、全体で討議する。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、単位認定の方法、履修上の注意ならびにアスリートの心理支援について概説する
2	アスリートの心理支援の方法①	アスリートの心理支援をめぐる諸理論を概観する
3	アスリートの心理支援の方法②	心理アセスメントによる測定・評価について学ぶ
4	アスリートの心理支援の方法③	スポーツメンタルトレーニングをめぐる諸理論を概観する
5	アスリートの心理支援の方法④	スポーツカウンセリングをめぐる諸理論を概観する
6	スポーツメンタルトレーニングの理論と方法①	動機づけに関する抄録発表および討議
7	スポーツメンタルトレーニングの理論と方法②	リラクゼーションに関する抄録発表および討議
8	スポーツメンタルトレーニングの理論と方法③	目標設定に関する抄録発表および討議
9	スポーツメンタルトレーニングの理論と方法④	認知療法に関する抄録発表および討議
10	スポーツメンタルトレーニングの理論と方法⑤	行動療法に関する抄録発表および討議
11	事例研究①	実力発揮に関する事例研究
12	事例研究②	アスリートの心理臨床に関する事例研究
13	事例研究③	チームビルディングに関する事例研究
14	まとめ	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、国内外の最新の文献に触れておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

中澤 史 「アスリートの心理学」 日本文化出版 2016

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 内田 直「スポーツカウンセリング入門」 講談社 2011

【成績評価の方法と基準】

抄録・プレゼンテーションおよび授業への参画状況（50%）、課題レポート（50%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【その他の重要事項】

1. 授業計画は、受講者数等によって変更される場合があります。
2. 心理的諸問題に対峙することが多いスポーツ現場では、その問題解決に資する専門的知識と介入方略が求められます。本授業での学習により、スポーツ現場の発展に寄与する知見を獲得してください。

チームビルディング演習

山田 快

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、チームビルディングについて実践的に学習していきます。

【到達目標】

スポーツをはじめ、多様な組織が最大のパフォーマンスを発揮する上で活用されているチームビルディングの手法を身につけることを目指します。特に、受講者が各フィールドで有用となるチームビルディングのプログラムを創造し、実践できるようになることを目標とします。

【授業の進め方と方法】

チームビルディングについての知識を学び、学んだ手法を実践していきます。また、実践を通して、得られた気づきや効果的な実践ポイントなどを受講者間でディスカッションします。スポーツという特異なフィールドに焦点を当てつつ、そこで有用な手法を他のフィールドにも活かすことができるよう取り組んでいきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と計画を確認し、共有する。
第 2 回	チームビルディングの基礎	チームビルディングの基礎知識を身につける。
第 3 回	チームビルディングの理論①	チームビルディングの概念と理論を学ぶ。
第 4 回	チームビルディングの理論②	チームビルディングの概念と理論を学ぶ。
第 5 回	身体を用いたワークの実践①	コミュニケーションワークを学び、実践する。
第 6 回	身体を用いたワークの実践②	コミュニケーションワークを学び、実践する。
第 7 回	チームビルディングの評価	チームビルディングの評価方法を学ぶ。
第 8 回	ファシリテーションの手法①	エクササイズを体験し、実践する。また、そこから得られる気づきなどをディスカッションする。
第 9 回	ファシリテーションの手法②	エクササイズを体験し、実践する。また、そこから得られる気づきなどをディスカッションする。
第 10 回	ファシリテーションの手法③	エクササイズを体験し、実践する。また、そこから得られる気づきなどをディスカッションする。
第 11 回	ワークショップのデザイン①	スポーツチームを対象としたワークショップを企画し、実践する。また、そこから得られる気づきなどをディスカッションする。
第 12 回	ワークショップのデザイン②	スポーツチームを対象としたワークショップを企画し、実践する。また、そこから得られる気づきなどをディスカッションする。
第 13 回	ワークショップのデザイン③	スポーツチーム以外の組織を対象としたワークショップを企画し、実践する。また、そこから得られる気づきなどをディスカッションする。
第 14 回	チームビルディングの可能性	チームビルディングが持つ可能性について検討し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習した内容を実践、活用できるようになることを目指して、毎回の授業で提示される課題に積極的に取り組んで下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要と希望に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を基準として、総合的に評価を行います。

- ①授業への参画状況（毎時の課題、グループワーク、意見交換、プレゼンテーションなど）：60%
 - ②授業の到達目標に対応した学期末課題：40%
- 然ることながら、欠席と遅刻は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が担当の初年度となりますので、受講者とともに方向性を検討しながら、より良い授業の実施に努めます。

【その他の重要事項】

各年での開講を予定しているため、2019 年度は開講されない可能性があります。については、他の授業との兼ね合いもあるかと思いますが、できる限り、本年度に受講されることをお勧めします。

HSS500I1

アスレティックトレーニング特別演習

泉 重樹

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーション・レポートの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度の反省から、発表に基づいた議論を演習の中心に置いた。そのため議論が活発になり、双方向性の授業が展開できたと考えている。この方法で続けていきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける外傷・障害予防、運動機能評価に基づいた運動療法の実践方法について学習する。アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングの背景となるさらに国内外の研究論文の検討から、最新の研究成果や知見について理解するとともに、エクササイズ自体の実践方法を習得する

【到達目標】

スポーツ外傷・障害に関する基本的な身体特性の評価方法、予防・改善のためのエクササイズについて学び、実際の研究計画を立てられるようになる
アスレティックリハビリテーションおよびストレングストレーニングプログラムを作成できるようになる

【授業の進め方と方法】

アスレティックリハビリテーション、ストレングス&コンディショニングトレーニングに必要な解剖学的基礎知識（筋・腱・関節・神経等）の復習
スポーツ外傷・障害に対する評価、スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンスアップのためのエクササイズに関する文献（論文）講読

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	文献（論文）購読について、機能解剖学知識の確認
2 回	スポーツ傷害予防	緊急対応、安全管理体制、アライメント、関節可動域、筋力評価、スペシャルテスト
3 回	アスレティックリハビリテーション	傷害評価、運動療法、リスク管理
4 回	上肢の評価	手・前腕・肘・肩関節の評価／講義
5 回	上肢の運動療法	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／講義
6 回	文献講読：上肢①	手・前腕・肘・肩関節の評価／文献（論文）購読
7 回	文献講読：上肢②	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／文献（論文）購読
8 回	体幹の評価	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／講義
9 回	体幹の運動療法	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／講義
10 回	文献講読：体幹①	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／文献（論文）購読
11 回	文献講読：体幹②	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／文献（論文）購読
12 回	下肢の評価	足・膝・股関節の評価／講義
13 回	下肢の運動療法	足・膝・股関節の運動療法／講義
14 回	文献講読：下肢およびまとめ	足・膝・股関節の評価／文献（論文）購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学・生理学の知識が必須である

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド（文光堂）
女性アスリートのための傷害予防トレーニング（医歯薬出版）
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（財団法人日本体育協会）
競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング（文光堂）

保健体育科教育法特別演習

永木 耕介

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健体育科における授業実践力の養成

【到達目標】

保健体育科におけるよりよい授業を考究し、実践できる力を養う。

【授業の進め方と方法】

保健体育科のよりよい授業実践に対する力量形成を図るため、中学校・高等学校や特別支援学校の現場におけるフィールドワークを行う。また、学内においては学部生に対するメンタリング実習や模擬授業を行い、ゲスト・ティーチャー（ベテラン教職経験者）の指導助言・評価を得て授業実践に対する反省的思考を深める。なお、原則としてすでに保健体育科教員免許を取得している大学院生を対象とする。

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本授業の目標と方法に関する説明を行い、今後のスケジュールについて打ち合わせを行う。(担当：永木・鬼頭)
2 回	学校現場の観察①	近隣の中学校の体育授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：永木)。
3 回	学校現場の観察②	近隣の高等学校の体育授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：永木)。
4 回	学校現場の観察③	近隣の中学校の保健授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：鬼頭)。
5 回	学校現場の観察④	近隣の高等学校の保健授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：鬼頭)。
6 回	学校現場の観察⑤	近隣の特別支援学校の体育授業を観察／補助し、気づいた点等をレポートする(担当：永木)。
7 回	前半の振り返り	各種学校における観察／補助の振り返り(担当：永木、鬼頭)
8 回	メンタリング実習①	教育実習へ向かう学部生（メンティ）に対し、実習への態度形成を中心に、メンターとしての支援を行う。支援の中で気づいた点等をレポートする(担当：永木)。
9 回	メンタリング実習②	教育実習へ向かう学部生（メンティ）に対し、授業づくりの準備等、メンターとしての支援を行う。支援の中で気づいた点等をレポートする(担当：永木)。
10 回	模擬授業①	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした体育の模擬授業をグループ①が行い、ゲスト・ティーチャー（ベテラン教職経験者）の指導・評価を受ける(担当：永木)。
11 回	模擬授業②	これまでの経験を活かし、学部生を対象とした体育の模擬授業をグループ②が行い、ゲスト・ティーチャー（ベテラン教職経験者）の指導・評価を受ける(担当：永木)。

12 回 模擬授業③

これまでの経験を活かし、学部生を対象とした保健の模擬授業をグループ③が行い、ゲスト・ティーチャー（ベテラン教職経験者）の指導・評価を受ける(担当：鬼頭)。

13 回 模擬授業④

これまでの経験を活かし、学部生を対象とした保健の模擬授業をグループ④が行い、ゲスト・ティーチャー（ベテラン教職経験者）の指導・評価を受ける(担当：鬼頭)。

14 回 まとめ

全体的な総括を行い、各自の今後の課題を探る。(担当、永木・鬼頭)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料・文献の収集、メンタリング実習・フィールドワーク・模擬授業づくりに対する準備。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領解説・保健体育編、高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編（文部科学省）、中学保健体育（学研）、最新高等保健体育（大修館書店）、体育授業を観察評価する（明和出版）

【成績評価の方法と基準】

フィールドワーク参加状況（50%）、模擬授業・プレゼンテーション（20%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学外における授業観察を積極的に行い、学生の現場理解を深めたい。

【その他の重要事項】

本授業では、より現場に近い状況で経験を積み、授業実践力を高めることを目指しています。さらに、これまでに身に付けた理論を実践というフィルターを通して見つめ直し、より鍛えられた知として蓄え、現場対応力を向上させます。

スポーツ健康学演習 I

安藤 正志

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
 ② 各関節部位に発生する運動器疾患（スポーツ傷害を含む）について理解し、その部位の機能解剖の理解を深め、関連分野である運動器疾患についての研究テーマを探る

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
 ② 各関節に発生する（特に上肢）主な運動器疾患を理解でき機能解剖について理解を深め触診ができる。運動器疾患に関連した研究テーマを見つける。また運動器疾患に対するメディカルな意味をもつトレーニングを組み立てられる知識と技術を養成する。

【授業の進め方と方法】

講義および文献など調査と発表

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	肩関節疾患 1・病理と診断	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
2 回	肩関節疾患 2・測定と評価	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
3 回	肩関節の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
4 回	肘関節疾患 1・病理と診断	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
5 回	肘関節疾患 2・測定と評価	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
6 回	肘関節の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
7 回	手、手指関節疾患 1・病理と診断	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
8 回	手、手指関節疾患 2・測定と評価	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
9 回	手、手指関節の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
10 回	肩甲帯の疾患 1・病理と診断	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
11 回	肩甲帯の疾患 2・測定と評価	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
12 回	肩甲帯の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
13 回	修士論文構想報告会準備	教員との個人面談を含む
14 回	修士論文構想報告会準備	教員との個人面談を含む ゼミ内で発表し学生間で情報を交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

触診セミナーなど関連学術集会への参加

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

からだの構造と機能 I, II ・ カバンディ機能解剖学 I, II, III

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

触診セミナーや関連した学術集会などへ積極的に参加すること

スポーツ健康学演習 I

泉 重樹

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題設定能力を高め、自らの研究テーマであるアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を整理し明確にする。

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。② 上記に基づき、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する国内外の文献を検討し修士論文の研究手法、実践内容について理解を深める

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、リハビリテーション・トレーニング法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、論文作成における関連知識と方法論を深く修得する

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	論文抄読の概要、各自の研究計画発表①
2 回	論文抄読 1	スポーツ外傷・障害予防・総論
3 回	論文抄読 2	スポーツ外傷・障害予防・各論
4 回	論文抄読 3	スポーツ外傷・障害評価・上肢
5 回	論文抄読 4	スポーツ外傷・障害評価・体幹
6 回	論文抄読 5	スポーツ外傷・障害評価・下肢
7 回	論文抄読 6	スポーツ外傷・障害予防・評価：まとめ
8 回	研究計画発表②	各自の研究計画発表②
9 回	論文抄読 7	アスレティックリハビリテーション・上肢
10 回	論文抄読 8	アスレティックリハビリテーション・体幹
11 回	論文抄読 9	アスレティックリハビリテーション・下肢
12 回	論文抄読 10	一般的物理療法
13 回	論文抄読 11	東洋医学的物理療法
14 回	プレゼンテーション方法	抄録、プレゼンテーションファイル、ポスター作製など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究領域以外の研究にも積極的に触れる姿勢が望まれる

【テキスト（教科書）】

身体活動科学における研究方法. NAP

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

論文抄読と研究計画の進捗とのバランスをとりながら進めていきたい。

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習 I

井上 尊寛

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のため、研究とは何かということを学んでいく。具体的には課題の設定と、問題を解決するための能力や方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

初学者として、必要な知識や能力の獲得。

具体的には以下について修士論文作成に必要な水準の能力の獲得を目指す。

- ・ 研究倫理の問題
- ・ 研究の妥当性や信頼性の担保
- ・ 適切な課題の設定
- ・ 研究の価値 (学術性・新規性)
- ・ 適切な分析方法

【授業の進め方と方法】

本授業は、研究者として必要な資質や能力を養うことを目的として進めていく。

基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2 回	スポーツマネジメント領域の捉え方①	スポーツマネジメントとはどのような概念であり、学問として体系だっているのか、さらにはその位置づけについて検討する
3 回	スポーツマネジメント領域の捉え方②	スポーツマネジメントとはどのような概念であり、学問として体系だっているのか、さらにはその位置づけについて検討する
4 回	スポーツマネジメントの実践①	スポーツマネジメント研究が現場でどのように用いられているのか、また研究結果をどのように用いるのかについて検討する
5 回	スポーツマネジメントの実践②	スポーツマネジメント研究が現場でどのように用いられているのか、また研究結果をどのように用いるのかについて検討する
6 回	スポーツマネジメントに関する研究課題①	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマについて検討する
7 回	スポーツマネジメントに関する研究課題②	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマについて検討する
8 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る①	先行研究で扱っているデータや分析方法について検討する。
9 回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る②	先行研究で扱っているデータや分析方法について検討する
10 回	課題に対する解決方法の検討および提案①	課題に対する適切な分析手法について検討する
11 回	課題に対する解決方法の検討と提案②	課題に対する適切な分析手法について検討する
12 回	要因とモデル	先行要因および結果要因を概念図と文章にて説明する

13 回	問題の所在	社会的、学術的な観点から問題の所在について検討する
14 回	研究の目的	何をどこまで明らかにするかについて検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の抄読など予習を必要とする内容が多いため、事前に文献を読む事と、資料をあらかじめ用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究および文献

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (30%) および授業への関与状況 (40%)、成果物の評価 (30%) などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

スポーツ健康学演習 I

菊部 俊二

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ② 研究活動を行う上で必要な測定や調査などを遂行できる知識や技術を身につけるのに必要な学習を行う。

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
- ② 修士論文作成のための基本的姿勢を修得する。

【授業の進め方と方法】

スポーツコーチングに関連するテーマについて研究指導を行う。スポーツコーチングに関する修士論文を作成するために必要な知識とスキルを獲得することを目的とする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	修士論文の作成の計画。
2 回	研究の構想発表①	現時点での研究構想のプレゼンテーション及びディスカッションを行う。
3 回	先行研究のレビュー①	関連する文献の抄読し、ディスカッションを行う。
4 回	先行研究のレビュー②	関連する文献の抄読し、ディスカッションを行う。
5 回	先行研究のレビュー③	関連する文献の抄読し、ディスカッションを行う。
6 回	先行研究のレビュー④	関連する文献の抄読し、ディスカッションを行う。
7 回	先行研究のレビュー⑤	関連する文献の抄読し、ディスカッションを行う。
8 回	研究デザイン①	先行研究レビューをもとに、研究のグランドデザインを構築する。
9 回	研究デザイン②	先行研究レビューをもとに、研究のグランドデザインを構築する。
10 回	研究デザイン③	先行研究レビューをもとに、研究のグランドデザインを構築する。
11 回	予備実験・予備調査の準備①	研究の方法論の選択とデータ収集の準備を行う。
12 回	予備実験・予備調査の準備②	データ収集およびデータ整理、分析と統計解析の方法の選定を行う。
13 回	予備実験・予備調査の準備③	予備実験・調査の結果の提示と解釈。
14 回	研究の構想発表②	現時点での研究構想のプレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した文献を精読して授業に望むこと。また、関連する先行研究・文献の収集を進めること。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み、フィールドワーク（50%）、プレゼンテーション（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

スポーツ健康学演習 I

鬼頭 英明

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
 ②研究とは何か、研究計画はどのように組み立て、進めるのかについて、学校保健や健康教育の領域を題材として、理解を深める。

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
 ②学校保健、健康教育の領域において、児童生徒学生における様々な現代的健康課題を踏まえ、研究テーマを設定する。

【授業の進め方と方法】

学校保健、健康教育の領域において、児童生徒学生にかかわる様々な健康課題があることを認識した上で、どのような先行研究がどのような方法で進められてきたかについて説明する。その上で、受講者が学校保健、健康教育に関する調査報告や研究論文を読み、それらがどのように構成されているのかを理解できるようにする。その都度、レポートまたはプレゼンテーションにより発表する。なお、研究テーマの質の向上を目指すため受講者間での積極的な意見交流を実施する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	学校保健、健康教育領域に関する概論	学校保健、健康教育領域における研究の概要について児童生徒学生の直面する健康課題を交えて紹介し、研究テーマに関する意見交換を行う。
2 回	研究テーマの意見交換	関心のある研究テーマについて意見交換を行い、その意義と実施可能性についてディスカッションする。
3 回	先行研究の検索法	研究テーマに即した文献の検索方法について指導する。
4 回	先行研究のレビュー①	研究テーマに関連する先行研究をもとに、論文構成を理解するとともに、方法、結果、考察について要約する。
5 回	先行研究のレビュー②	研究テーマに関連する先行研究をもとに、論文構成を理解するとともに、方法、結果、考察について要約する。
6 回	先行研究のレビュー③	研究テーマに関連する先行研究をもとに、論文構成を理解するとともに、方法、結果、考察について要約する。
7 回	先行研究のレビュー④	研究テーマに関連する先行研究をもとに、論文構成を理解するとともに、方法、結果、考察について要約する。
8 回	先行研究のレビュー⑤	研究テーマに関連する先行研究をもとに、論文構成を理解するとともに、方法、結果、考察について要約する。
9 回	研究テーマの検討	先行研究を踏まえ、研究テーマを設定する。
10 回	研究方法の確立①	研究テーマの目的や仮説及び実現可能性について意見交換を行い検討する。

- 11 回 研究方法の確立② 研究テーマの目的や仮説に即した調査方法について質的及び量的調査も含めて検討する。
 12 回 研究方法の確立③ 調査方法及びその内容について方向性を定める。
 13 回 研究方法の確立④ 調査内容について検討する。
 14 回 研究方法の確立⑤ 調査内容から導き出される結果をもとに、仮説の立証が可能であるか意見交換の上、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学校保健、健康教育について日頃から関心を持ち、進めたい研究テーマを模索する。

【テキスト（教科書）】

文献や調査報告を適宜配付

【参考書】

必要に応じて適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況及びレポート（60%）、プレゼンテーション（40%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし。

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習 I

木下 訓光

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ② 研究課題の設定。

【到達目標】

研究課題を決定する。良質な研究を行うためには、専門的知識に裏付けられ洗練されたリサーチ・クエスチョンを設定することが必要である。第1学年の前半全体を費やしてその設定を行う。関心領域における莫大な先行研究を整理・読破し、「これまでに明らかになっていること」と「明らかにされていないこと」を明確に説明できるようにする。その過程で **critical thinking** や論理的思考に関する能力を養う。最終的に洗練されたリサーチ・クエスチョンを元に適切な仮説を設定し、研究論文導入部（「背景」や「緒言」に相当する）の草稿を完成させる。

【授業の進め方と方法】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
- ② 授業は終始教員によるインタビュー・口頭試問を行い、ディスカッション中心に展開する。院生の漠然とした関心・疑問に対して発想のヒントを与え、適宜必要な情報を提供し、学習すべき文献、教科書を与え、時にブレイン・ストーミングを行う。各授業回で文献精読などの課題を与え、次回に同課題についての口頭試問を行うなどして先行研究について学習し、当該分野における専門的知識を系統的に習得させる。インタビュー・口頭試問においては、当該課題に関するディスカッションを引き続いて行い、いかにして **critical thinking**・論理的思考ができていくかに配慮した指導を盛り込む。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	研究とは何か	科学的研究の構造について、専門的知識の習得方法、リサーチ・クエスチョン、仮説設定、先行研究の総括、 critical thinking 、論理的思考、科学的分析などについて学習する。
2 回	研究倫理について	スポーツ健康学における研究ではヒトを対象に研究を行うため、研究倫理について、人間の尊厳、生命倫理、ヘルシンキ宣言および我が国における研究倫理規定、個人情報保護法などについて学習し、研究者としての心構えを徹底して学ぶ。さらに研究資金の獲得方法・運用方法、利益相反などについて学習する。
3 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問①：探索 (1)	院生の漠然とした疑問についてインタビュー・ディスカッションを行い、関心領域の設定、リサーチ・クエスチョンを設定するために必要な探索などについて指導を行う。インタビューを踏まえて次回までに読破すべき文献などを指定する。
4 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問②：探索 (2)	第3回で指定された文献について総括発表を行い、関心領域における先行研究の理解を深め、専門的知識の習得に努める。文献の内容について口頭試問を行う。この過程で当初の疑問を点検し、具体化させていくディスカッションを行う。さらに読破すべき文献を指定する。

5 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問③：探索 (3)	引き続き第4回で指定された文献について総括発表を行い、関心領域における先行研究の理解を深め、専門的知識の習得に努める。文献の内容について口頭試問を行う。当初の疑問を点検し、具体化させる作業（ディスカッション）を継続する。さらに読破すべき文献を指定する。
6 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問④：総括 (1)	関心領域において、「これまでに明らかになっていること」と「明らかにされていないこと」を整理した資料を用意し、発表する。
7 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問⑤：総括 (2)	関心領域において、「これまでに明らかになっていること」と「明らかにされていないこと」を整理する過程で、論理的必然として導出される具体的な課題を想定していく。
8 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問⑥：総括 (3)	先行研究を総括する過程で論理的に導出された具体的な課題を院生自身のリサーチ・クエスチョンとして固有化するためのディスカッションを行う。
9 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問⑦：決定 (1)	具体化された適切なリサーチ・クエスチョンを発表し、その必然について論理的に説明する。その適否について口頭試問を行い、ディスカッションを行う。
10 回	リサーチ・クエスチョンに関するインタビュー・口頭試問⑧：決定 (2)	第9回の評価・確認の作業を元に、最終的に決定したリサーチ・クエスチョンを提示する。その必然について論理的に説明し、発表内容についてディスカッションを行う。
11 回	仮説設定に関するインタビュー・口頭試問①：仮説提示	十分に練られたリサーチ・クエスチョンに基づき、論理的に導出される仮説を提示する。その適否について口頭試問を行い、ディスカッションする。修正に必要な読破すべき文献を指定する。
12 回	仮説設定に関するインタビュー・口頭試問②：仮説検討	引き続き仮説の必然性・妥当性について点検を行いつつ、倫理的側面から適否を検討する。
13 回	研究背景の論述	研究の背景となる先行研究の歴史、「これまでに明らかになっていること」と「明らかにされていないこと」の整理、論理的必然として導出される仮説の提示を論述する。研究論文導入部に必要な論説の草稿を作成する。
14 回	研究課題の決定と研究目的の提示	研究課題および研究論文導入部を提示し、研究の目的を明確に示して発表することをもって研究課題の決定とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を精読する。提示される課題（先行研究の整理など）について資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要な文献などは毎回指定する。

【成績評価の方法と基準】

①先行研究論文を批判的に読めているか（20%） ②具体的なリサーチ・クエスチョンが設定されたか（20%） ③仮説は論理的に導出されたか（20%） ④研究課題を適切に設定できたか（20%） ⑤研究目的は必要十分に倫理的であるか（20%） 以上5項目について評定し、合計得点によって総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習 I

高見 京太

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ② 研究活動を行う上で必要な測定や調査などを遂行できる知識や技術を身につけるのに必要な学習を行う。

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身につけることを目標とする。
- ② 修士論文の作成に必要な国内外における研究動向を把握し、論文の構成に対する理解を深め、それを要約することができるようになる。
- ③ 具体的なリサーチクエスチョンを設定し、研究課題を遂行するために必要な問題の構造化、論理の構成、方法論的課題が理解できるようになる。

【授業の進め方と方法】

質の高い修士論文を作成するために必要な知識とスキルを獲得することを目的とする。特に専門領域の研究を進める上で、研究の視座が狭まらないように、設定した研究テーマに関して、スポーツ健康学の様々な角度から複眼的な視点に基づき、研究に対する指導・助言を行う。着眼する問題や研究の背景を構造的に捉えるため、国内外における研究動向の把握や先行研究の精読を通じて、リサーチクエスチョンを具体化し、予備実験・調査を実施する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	修士論文の作成へ向けての 2 年間の計画。
2	研究の構想発表	現時点での研究構想のプレゼンテーション及びディスカッション。
3	文献・資料リストの作成法	文献・資料リストの作成法の理解。
4	先行研究のレビュー①	論文を精読して要約・評価をすることにより、学術論文の構成、既知の事項の体系化。
5	先行研究のレビュー②	論文を精読して要約・評価をすることにより、学術論文の構成、既知の事項の体系化。
6	先行研究のレビュー③	論文を精読して要約・評価をすることにより、学術論文の構成、既知の事項の体系化。
7	先行研究のレビュー④	論文を精読して要約・評価をすることにより、学術論文の構成、既知の事項の体系化。
8	先行研究のレビュー⑤	論文を精読して要約・評価をすることにより、学術論文の構成、既知の事項の体系化。
9	研究デザイン①	先行研究レビューをもとに、研究意義の確認、問題の構造化、論理の構成を行い、研究のグランドデザインの構築。
10	研究デザイン②	具体的な分析の枠組みを設定し、研究デザインの妥当性の確認。
11	研究デザイン③	実験・調査計画を作成し、データ収集の方法と統計解析の選択。
12	予備実験・予備調査の準備①	方法論の選択とデータ収集の準備（測定方法の選択・調査票の作成）。
13	予備実験・予備調査の準備②	分析と統計解析の方法の選定。

14 予備実験・予備調査の データ収集およびデータ整理。
実施①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジメ・資料作成、および質疑内容の復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて、その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参画状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

1 対 1 での指導のため、問題があったとしてもその都度、解決できる。

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習 I

永木 耕介

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ② スポーツ教育学における研究テーマの設定

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
- ② 修士論文作成へ向け、スポーツ教育学分野における研究テーマを設定する。

【授業の進め方と方法】

指導教員の専門であるスポーツ教育学分野において、受講者が研究テーマを設定するための指導を行う。まず、どのようなテーマに関心があるのかを把握し、そのテーマに即した領域の先行研究、文献資料、調査データ等の収集と整理の仕方について説明する。また、受講者がフィールドに入り、研究テーマの意義について確認するとともに、明らかになるであろう仮説を立てることを支援する。各々の段階で、演習内でプレゼンテーションを行い、他の受講生との意見交換を踏まえながら研究テーマを煮詰めていく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの発想	各自の興味関心のある研究テーマ、およびその理由を述べてもらい、演習内で意見交換を行う。
2 回	研究テーマの発想	前回を踏まえ、研究テーマの意義について演習内で意見交換を行う。
3 回	先行研究・文献資料の収集①	研究の意義が認められた各自のテーマについて、先行研究・文献資料の収集方法の概要について指導する。
4 回	先行研究・文献資料の収集②	主にネット上での先行研究・文献資料の収集について指導する。
5 回	先行研究・文献資料の収集③	主に図書館での先行研究・文献資料の収集について指導する。
6 回	先行研究・文献資料の整理①	収集した先行研究・文献資料の整理の仕方（タグ付等）について指導する。
7 回	先行研究・文献資料の整理②	収集した先行研究・文献資料の整理の仕方（カテゴライズ等）について指導する。
8 回	先行研究・文献資料についてプレゼンテーション	各自が研究テーマに関して整理した先行研究・文献資料の傾向やポイントを演習内で発表し、意見交換を行う。
9 回	研究テーマの検討	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、研究テーマの意義、新しさ・獨創性などの観点から見直すよう指導する。
10 回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。
11 回	フィールドワーク①	学校や地域スポーツの現場に入り、観察あるいは指導補助等を行って、研究テーマの意義を再確認するよう指導する。
12 回	フィールドワーク②	フィールドワークを継続し、研究テーマに即して実際にどのようなことが明らかになるのかを予測するよう指導する。

13 回	仮説の構成	フィールドワークで得た情報等をもとに、実際に明らかになると考えられる点から仮説を提示するよう指導する。
14 回	研究テーマの確認と仮説のプレゼンテーション	研究テーマの確認とそこから明らかになると考えられる結果の仮説について、演習内で発表し、意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの構想・設定に際して、授業外においても先行研究・文献資料の収集・整理を進めること。また、授業外でもフィールドワークを積極的に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

教育実践学の構築（東京書籍）、レポート・論文の書き方（ナカニシヤ出版）、フィールドワークの技法（新曜社）

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度も各種学会に出向き、学生のトレンドに対する気づきを深めたい。

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けて、個別の課題に対応する。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文ではフィジカルあるいはスキルのトレーニングを題材とすることを指すので、そのために必要となる知識と手技、特にトレーニング科学およびスポーツバイオメカニクスの知識と手技を習得する。

【到達目標】

- ① トレーニング科学あるいはスポーツバイオメカニクスに関する知識を深める
- ② 題材とするフィジカルあるいはスキルのトレーニングの研究デザインを作成する
- ③ トレーニング効果を測定する手技を身につけることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

各自の研究課題およびそれを解決するための研究デザインを検討する。その中で必要となる知識を深め、効果を測定する手技を習得する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	研究課題の検討①	院生ごとに研究課題を検討する 課題解決に必要な知識を深める
2 回	研究課題の検討②	院生ごとに研究課題を検討する 課題解決に必要な知識を深める
3 回	研究課題の検討③	院生ごとに研究課題を検討する 課題解決に必要な知識を深める
4 回	研究動向の探索①	院生ごとに研究動向を探り、研究課題を再検討する
5 回	研究動向の探索②	院生ごとに研究動向を探り、研究課題を再検討する
6 回	研究動向の探索③	院生ごとに研究動向を探り、研究課題を再検討する
7 回	研究課題のプレゼンテーション	院生ごとに作成した研究課題をプレゼンテーションする。
8 回	測定法の理解①	院生ごとに必要となる測定法を調査する。
9 回	測定法の理解②	院生ごとに必要となる測定法を調査する。
10 回	測定法の理解③	院生ごとに必要となる測定法を調査する。
11 回	研究デザインの作成①	院生ごとに研究デザインを検討し、緒言を作成する
12 回	研究デザインの作成②	院生ごとに研究デザインを検討し、緒言を作成する
13 回	研究デザインの作成③	院生ごとに研究デザインを検討し、緒言を作成する
14 回	研究デザインのプレゼンテーション	院生ごとに作成した研究デザインをプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究課題を検討し、先行研究を精読し、測定法を調査する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「緒言」の完成度（60%）、プレゼンテーション（20%）、授業への参加状況（20%）

スポーツ健康学演習 I

中澤 史

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。

【到達目標】

1. 研究構想発表会の準備ができる能力を修得する。
2. 修士論文作成のための基本的姿勢を修得する。

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学に関連するテーマについて研究指導を行う。特に、次に示す研究領域における特定の研究を行い、修士論文（事例研究を含む）作成に向けた作業に着手する。1) アスリートの心理支援に関する理論構築のための調査研究、2) アスリートの心理支援に関する実験的・実証的研究および事例研究、3) スポーツ活動に伴う種々の心理的現象の解明に関する研究。

スポーツ心理学に関連する先行研究や書籍等の精読を通じて、各自の研究の理論的背景や立場を明確にするとともに研究の仮説や方法論を吟味し、研究テーマの確立と研究計画の作成に取り組む。各授業では、受講生が作成した抄録に基づくプレゼンテーションを行い、受講生間での質疑応答を通して課題の明確化を図る。その後、担当教員による指導を受け、次週までの課題を設定する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	到達目標、単位認定の方法、履修上の注意等について概説する
2	研究テーマの設定①	抄録発表および討議：研究の進め方
3	研究テーマの設定②	抄録発表および討議：先行研究の選択
4	研究テーマの設定③	抄録発表および討議：研究の独自性
5	研究テーマの設定④	抄録発表および討議：研究テーマの明確化
6	研究の目的・意義①	抄録発表および討議：リサーチエッションの設定
7	研究の目的・意義②	抄録発表および討議：研究計画の立て方
8	研究の目的・意義③	抄録発表および討議：研究仮説
9	研究の目的・意義④	抄録発表および討議：期待される結果および効果
10	研究方法①	抄録発表および討議：質問紙調査法
11	研究方法②	抄録発表および討議：実験・介入計画法
12	研究方法③	抄録発表および討議：事例研究の方法（GTA、KJ 法）
13	研究方法④	抄録発表および討議：研究における科学性
14	まとめ	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、国内外の最新の文献に触れておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016

2. 松井豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014

3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

抄録・プレゼンテーションおよび授業への参画状況（50%）、課題レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【その他の重要事項】

スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。

スポーツ健康学演習 I

山本 浩

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ② スポーツ健康学を、学部で修得したところから一段ステップアップさせ、修論に仕上げるまでの基礎的な思考回路や手法を身につける。

【到達目標】

- ① 研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
- ② さまざまなスポーツの持つ、「売り」や「悩み」にも深い見識を持てるようにする為に、スポーツを構成するさまざまな要素を深く掘り下げ、隣り合う要素との関連まで意識しながら、理論構築ができるようにする。

【授業の進め方と方法】

演習であるからには、受講生の主体性が第一と心得ること。修論執筆に至るまでに獲得しておくべき方法論や知識を個別に検証しながら、受講生間の意見交換をベースに組み立てる。時に応じて外部の専門家を招き、理論と現実の間の整合性をはかる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	受講生のバックグラウンドと研究の対象を紹介しながら、研究に取り組むルートの設定をはかる。
2 回	スポーツを取り巻く学問体系~W杯サッカーから~	W杯を例に、草の根から世界の頂点までの構造に何が関わり、どこにどんなアプローチをすべきか検証する。
3 回	スポーツを取り巻く学問体系~近代オリンピックから~	世界がどう論評し、競技団体がどう総括しているか。そのベクトルを見て、分析・評価の方法を検討する。
4 回	自分視点①	テーマに対し自らの専攻分野を基盤にした思考回路、情報収集、その取捨選択、編集に至るまでをまとめる。
5 回	自分視点②	他競技を引き合いに出しながら、自分のアプローチをどう組み立てるか検討する。
6 回	論述法①	論文の骨組みを考える。
7 回	論述法②	論文の構成を子細に検討する。
8 回	資料検索	データ、調査、意見集約、研究成果。さまざまな材料を論文の論理構成に反映させる。
9 回	世界の論調①	同じテーマに対し、世界はどう見ているのか。
10 回	世界の論調②	同じテーマに対し、時代はどう変遷しているのか。
11 回	プレゼンテーション①	自らの分析・洞察の一部をプレゼンし、そのエッセンスを互いに読み解く。
12 回	ディベート①	それぞれのプレゼンに対し、自分の専攻分野からの批評を加える。
13 回	プレゼンテーション②	自ら分析・洞察の全体をプレゼンし、前回の批評がどう反映されているか確認する。
14 回	総括プレゼンテーション	ここまでの成果を、それぞれ最終バージョンとしてプレゼンする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する著作、研究論文には予め十分な知見を持っておく。テレビ、新聞、寄稿などの構成や論旨の展開を分析し、自分の論理組み立ての材料にすることが前提。ことにすべてを受容するのではなく、「いぶかしがる」「問題点を指摘する」といった姿勢で視聴・読解することを求めたい。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

「わかりやすさ」「新しい視点」「説得力のある展開」「引用（統計、研究成果など）の適性」（各 15%）それに「論理的整合性」がバランスよく勘案されているかどうか（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（可能な場合）。

【その他の重要事項】

写真、映像、データなど関連ある資料を普段から引き出しに用意する習慣を付けること。

スポーツ健康学演習 I

吉田 政幸

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
2. 修士論文の概要を理解し、自分の研究テーマの基礎となる概念や理論について学びを深めるとともに、先行研究で明らかにされていない研究課題を特定する。

【到達目標】

- 1 年次の秋学期に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
1. 修士論文の概要および求められる水準について十分に理解する。
2. スポーツマネジメントに関する様々な理論について学習し、それらを説明できる。
3. 現場の課題に対して、学習した理論を根拠に解決策を提案することができる。
4. 自分の研究テーマにおいて、どの概念や理論を応用することができるのか理解する。

【授業の進め方と方法】

本授業の目的は二つある。一つ目は大学院において 2 年間に渡り受講する講義、演習、実習を通じて獲得する知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文の概要を理解することである。二つ目は、スポーツマネジメント領域の研究として修士論文を完成させるために必要となる様々な概念や理論について学習し、ゆくゆくは受講生の研究テーマにそれらの理論を応用できるようにするための基礎的理解を深める。授業では様々な重要概念や理論をどのように自身の研究に応用できるのかについてディスカッションを行う。受講者は毎回事前に配布される資料を読み、議論に参加する準備を行う必要がある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2 回	主な先行研究の報告	研究テーマに関して特に重要と思われる文献（3 本程度）を読み、その結果を報告する。
3 回	主な先行研究に関する議論	第 2 週で読んだ 3 つの論文の弱点を特定し、その改善方法について議論する。
4 回	文献の整理	先行研究の問題を特定するため、15 本～20 本程度の文献を検索し、それぞれの特徴（概念化、測定方法、研究環境）をまとめる。
5 回	概念的研究のレビュー	先行研究（概念的研究）をレビューした結果を文章で説明する。
6 回	実証研究のレビュー	先行研究（実証研究）をレビューした結果を文章で説明する。
7 回	概念的アプローチ	自分の興味に最も適した概念的アプローチを特定する。
8 回	研究の新規性	研究として新規性のある先行要因および結果要因を特定する。
9 回	概念図の作成	自身の研究の基礎となる概念図のドラフトを作成する。
10 回	要因間の関係性	先行要因および結果要因を文章で説明する。
11 回	問題の所在	先行研究の問題の所在を明らかにし、記述する。

12 回	研究の目的	修士論文で何をどこまで明らかにするか（研究目的）を設定する。
13 回	研究の重要性	研究の重要性を実践的視点と学術的視点の両方から記述する。
14 回	概念規定	自分の研究における主要概念を定義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。必要な資料を事前に読むとともに、疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

先行研究のレビュー：30 点

概念図の作成：20 点

先行研究の問題の特定：10 点

研究目的の設定：10 点

研究の重要性の特定：10 点

重要概念の定義：20 点

合計：100 点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができています。

80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。

40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

スポーツ健康学演習 I

林 容市

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ② 健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文作成を見据えた演習を行う。スポーツや様々な身体活動における体力に関するこれまでの研究を理解した上で研究テーマ・キーワードを選定し、予備実験・調査を通じ、研究の方法論を習得する。

【到達目標】

9 月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身に付けることを目標とする。

- ① 健康・スポーツ体力学における研究の手法を理解する。
- ② 健康・スポーツ体力学に関する先行研究を理解し、系統立ててまとめることができる。
- ③ 具体的な研究計画を企画し、実行できる能力を習得する。

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する理論や研究法を体系的に理解した上で、受講者の興味に添って先行研究を読解・検証して行きます。これに基づいて、修士論文作成に向けた予備実験・調査を行い、研究手法について理解することを最終的な目標とします。

授業においては、毎回課題を出し、次回の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。これらの発表に際しての準備、および討論等に向けた受講者の積極的な参加が重要となります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	半期の授業を通じた約束事、および授業内容と展開方法を理解する。
2 回	キーワードの選定	受講者自身が修士論文に向けた仮の研究キーワードを選定する。
3 回	実験・調査方法の理解	該当研究領域における種々の実験・調査方法の概略を解説する。また、先行研究の検索方法を学ぶ。
4 回	先行研究のレビュー	受講生が興味をもつテーマに関する先行研究をまとめて発表し、功績と批判を行う。
5 回	先行研究のレビュー：「文献研究」の作成	前回に引き続いて先行研究の検索・講読を行い、「文献研究」として結果を発表する。
6 回	研究テーマの選定	他者からのフィードバックなどに基づき、研究テーマの選定を行う。
7 回	先行研究のレビュー：総括	研究テーマの選定結果に基づき、先行研究を再度レビューして取りまとめ、発表する。
8 回	研究テーマの決定	文献研究の結果に添って、修士論文の研究テーマを決定する。また、論議結果を参考に、レビューする範囲を再度選定する。
9 回	「文献研究」の発表	修正版の「文献研究」の発表を行う。
10 回	研究課題の設定	文献研究に基づき、修士論文の研究テーマに沿った課題を設定し、発表する。
11 回	変数の整理、仮説の設定	研究課題を解決するために必要な従属変数・独立変数を整理し、目的に沿った研究仮説と共に発表し、論議する。

12 回	方法論の獲得	研究課題・目的を明らかにするための該当分野における方法論のバリエーションを理解する。
13 回	方法論の論議	研究課題を解決するために必要な分析方法・統計解析方法を発表し、指導を受ける。
14 回	予備実験・調査の計画	修士論文を見据えて、同一または類似した方法を採用した予備実験・調査について説明し、受講者自身で計画を作成する。
15 回	予備実験・調査の計画発表	予備実験・調査の計画内容について発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回課題が課されますので、それに従って作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（5～9、13～15 回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を大成ってください。また、9、15 回目の「文献研究」、「予備実験・調査の計画発表」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・身体活動科学における研究方法/田中喜代次他（訳）/ナッパ
・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院
・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

1) 各回における課題の内容および発表・達成状況：40%，2) 「文献研究」、「予備実験・調査の計画」に関する課題の内容：30%，3) 討論等への参画状況：30%

なお、1) に関して 3 回以上の未発表がある者、2) の課題未発表者については評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度開講していないため、特になし。

【その他の重要事項】

特になし

安藤 正志

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【その他の重要事項】

触診セミナーへの参加、関連学術大会への参加

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 各関節部位に発生する運動器疾患（スポーツ傷害を含む）について理解し、その部位の機能解剖の理解を深める

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 各関節に発生する（特に下肢）主な運動器疾患を理解でき機能解剖について理解を深め触診ができる

【授業の進め方と方法】

講義および文献など調査と発表

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	股関節疾患 1	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
2 回	股関節疾患 2	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
3 回	股関節の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
4 回	膝関節疾患 1	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
5 回	膝関節疾患 2	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
6 回	膝関節の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
7 回	足関節疾患 1	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
8 回	足関節疾患 2	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
9 回	足関節の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
10 回	修士論文構想報告会準備	教員との個人面談を含む
11 回	修士論文構想報告会準備	教員との個人面談を含む
12 回	修士論文構想発表会	ゼミ内で発表し学生間で情報を交換する
13 回	骨盤疾患 1	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
14 回	骨盤疾患 2 骨盤の機能解剖と触診	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する この部位の機能解剖を確認し触診する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

触診セミナーや関連学術集会への参加

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱ
 カパンディ機能解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
 その他学術論文

【成績評価の方法と基準】

実技試験や進行状況などにより評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

スポーツ健康学演習Ⅱ

泉 重樹

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

特になし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。

②修士論文作成に必要なアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を修得する。

【到達目標】

① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する

②スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する国内外の文献を討議し修士論文の研究計画の完成・予備実験等を行う

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、リハビリテーション・トレーニング法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、研究計画を完成させるとともに予備実験等の実践を含め方法論を磨く

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の発表、ディスカッション
2 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害予防）、研究計画検討
3 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（スポーツ傷害の評価）、研究計画検討
4 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション1）、研究計画検討
5 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（アスレティックリハビリテーション2）、研究計画検討
6 回	論文抄読／ディスカッション	論文抄読（運動器に対する物理療法）、研究計画検討
7 回	予演／ディスカッション	プレゼンテーション方法・実践、研究計画の検討・討議
8 回	研究計画発表（練習）	各自の研究計画発表・ディスカッション
9 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
10 回	ディスカッション／予備実験	表面筋電図計測／研究計画検討
11 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
12 回	ディスカッション／予備実験	三次元動作分析機器計測／研究計画検討
13 回	ディスカッション／論文抄読	論文抄読（スポーツ傷害予防、評価、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法）、研究計画検討
14 回	研究計画発表会	修士論文研究計画完成・発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である

【テキスト（教科書）】

身体活動科学における研究方法. NAP

スポーツ健康学演習Ⅱ

井上 尊寛

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメント研究にて用いられる概念や、課題について理解するとともに、修士論文作成に資する研究方法や分析の手法などについて理解する。

【到達目標】

修士論文作成において、ベースとなる以下の事柄について理解し、設定しうる能力の獲得を目標とする

- ・研究の目的、方法を設定できる。
- ・合理的な根拠をもって仮説の設定ができる。
- ・正しい標本の抽出や測定尺度の設定ができる。
- ・適切な分析方法を用いることができる。

【授業の進め方と方法】

本講義は、テーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。事前・事後学習の内容 各回の予習・復習には約 90 分～120 分かかると想定されます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ
2 回	文献の整理	スポーツマネジメント研究における主なテーマや課題につて整理するため、15～20 本程度の文献を検索し、それぞれについてまとめる
3 回	先行研究のレビュー①	レビュー結果について報告する(概念化)
4 回	先行研究のレビュー②	レビュー結果について報告する(測定方法)
5 回	先行研究のレビュー③	レビュー結果について報告する(研究環境)
6 回	研究の新規性・重要性	新規性のある要因の設定や要因間の関係について整理し、学術的・実践的な重要性についてまとめる
7 回	研究の目的・リサーチクエスチョン	研究の目的とリサーチクエスチョンを設定する。
8 回	仮説の設定①	自らの論文にて設定する仮説の合理的な根拠となる理論についてまとめる
9 回	仮説の設定②	自らの論文にて設定する仮説の合理的な根拠となる理論についてまとめる
10 回	研究の方法	自らの研究を進めるうえで用いる手法(質的、量的、混合型)について検討する
11 回	研究方法の妥当性①	標本抽出の方法や、分析の手法、要因と項目の妥当性などについて検討する
12 回	研究方法の妥当性②	標本抽出の方法や、分析の手法、要因と項目の妥当性などについて検討する
13 回	記述統計	実際のデータを用いて分析を行う
14 回	t 検定・分散分析	実際のデータを用いて分析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題をまとめ、授業内で発表および議論できる状態にしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

授業への関与状況 (30%)、成果物の評価 (40%)、提出物や議論の内容 (30%) などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習Ⅱ

苅部 俊二

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 自らが設定する研究テーマに対し、質の高い修士論文を作成するために必要な知識と技術を、先行研究論文を十分に活用して習得する。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 修士論文作成の基盤となる当該分野の研究動向を把握し、具体的な研究課題を設定する。

【授業の進め方と方法】

予備実験を実施し、具体的な研究課題を定める。自らの研究テーマと関連する専門領域の研究論文をレビューし、「修士論文構想発表会」において構想を発表する。この発表の機会を活用し、自らの研究の着眼点を明確にし、研究を進めるために必要な研究計画書を作成する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	予備実験の実施①	予備実験・予備調査の成果のプレゼンテーション及びディスカッションを行う。
2 回	予備実験の実施②	予備実験・予備調査の成果のプレゼンテーション及びディスカッションを行う
3 回	予備実験の実施③	予備実験・予備調査の成果のプレゼンテーション及びディスカッションを行う
4 回	予備実験の実施④	予備実験・予備調査の成果をもとに、研究計画書及び修士論文の概要の作成する。
5 回	修士論文・課題研究論文に関連する研究論文レビュー①	関連する論文の抄読および研究計画の検討を行う。
6 回	修士論文・課題研究論文に関連する研究論文レビュー②	関連する論文の抄読および研究計画の検討を行う。
7 回	修士論文・課題研究論文に関連する研究論文レビュー③	関連する論文の抄読および研究計画の検討を行う。
8 回	修士論文・課題研究論文に関連する研究論文レビュー④	関連する論文の抄読および研究計画の検討を行う。
9 回	修士論文・課題研究論文に関連する研究論文レビュー⑤	関連する論文の抄読および研究計画の検討を行う。
10 回	研究方法論	実験・調査方法の確定およびデータ収集と統計解析方法の、結果の解釈と考察の方針を確定する。
11 回	修士論文構想発表	修士論文構想についてプレゼンテーションを行う。
12 回	研究計画・執筆計画の立案①	論文の構成、研究目的の遂行と方法論を確定する。
13 回	研究計画・執筆計画の立案②	研究計画書の作成する。
14 回	修士論文計画発表会の準備 プレゼンテーションの準備	口頭発表のアウトラインと原稿の作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した文献を精読して授業に望むこと。また、関連する先行研究・文献の収集を進めること。

【テキスト（教科書）】

適宜提示する。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み、フィールドワーク（50%）、プレゼンテーション（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

スポーツ健康学演習Ⅱ

鬼頭 英明

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 具体的な研究計画を踏まえ、事前の予備調査を実施、分析するとともに、修士論文の全体構想を確立する。

【授業の進め方と方法】

設定した研究テーマと研究実施計画を踏まえ、具体的に予備調査を実施し、結果の解析を進めることにより信頼性、妥当性の検証及び本調査に向けての基礎資料を得るようにする。

本調査に向けての研究計画の立案と方法についてディスカッションにより内容の改善を図り、予備調査の結果を分析して改善の工夫を講じる。受講者間の意見交換により、他者からの異なる視点も視野に入れられるようにする。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	調査の手続き	予備調査実施の手順及びその内容について再度考え方を整理する。また、倫理的配慮について指導する。
2 回	予備調査の準備①	質的研究、量的研究の両面から調査方法を再度検討し、妥当な方法を検討する。
3 回	予備調査の準備②	調査内容を確認する。
4 回	予備調査の実施	データを収集する。
5 回	予備調査の分析①	データを分析し、統計処理を行う。
6 回	予備調査の分析②	統計処理により、調査内容の妥当性について検討する。
7 回	先行研究の収集と分析結果の比較検討①	先行研究のレビューを実施し、予備調査の分析結果との整合性、進めようとする研究の新規性について検討する。
8 回	先行研究の収集と分析結果の比較検討②	先行研究のレビューを実施し、予備調査の分析結果との整合性、進めようとする研究の新規性について検討する。
9 回	先行研究のレビュー①	先行研究の新規性や論理構成や予備調査の分析結果を踏まえ、研究計画の改善のための方策について意見交換する。
10 回	先行研究のレビュー②	先行研究の新規性や論理構成や予備調査の分析結果を踏まえ、研究計画の改善のための方策について意見交換する。
11 回	先行研究のレビュー③	先行研究の新規性や論理構成や予備調査の分析結果を踏まえ、研究計画の改善のための方策について意見交換する。
12 回	先行研究のレビュー④	先行研究の新規性や論理構成や予備調査の分析結果を踏まえ、研究計画の改善のための方策について意見交換する。
13 回	修士論文の全体構想を踏まえた研究計画の立案①	先行研究や予備調査の結果を踏まえ、修士論文の全体構想及び研究計画について検討する。

- 14 回 修士論文の全体構想を踏まえた研究計画の立案②
先行研究や予備調査の結果を踏まえ、修士論文の全体構想及び研究計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに関連する文献について検索を行い、研究領域に関する知識を高めるとともに、研究の進め方、計画立案についても理解しておくようにする。

【テキスト（教科書）】

文献や調査報告を適宜配布

【参考書】

必要に応じて紹介するが、統計に関する書籍は読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

論文作成に向けた進捗状況及びレポート（60%）、プレゼンテーション（40%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習Ⅱ

木下 訓光

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集と分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 科学的研究の構成、研究（実験）の計画、研究（実験）技術（機器、調査手法、分析手法）の習得

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 具体的な研究計画の設定と、研究実現に必要な技術（調査手法、機器操作、解析手法）について習得する。研究論文における「方法」セクションの枠組みとなる雛形としての草稿を完成させる。

【授業の進め方と方法】

第 1 学年の前半を通して決定した、研究目的と設定された仮説により、必然的に導出される具体的研究方法・計画を決定していく。授業は、調査・実験機器、解析ソフトウェア、などを多用する演習を中心として展開される。すなわち、研究対象（者）を設定し、解析において要求される検定力を想定し、これに基づき必要な対象（者）数を算定する。科学的実験方法のエッセンス（placebo-control, double blind, randomized, crossover design）について学習し、その実現のために要求される研究デザインを決定する。さらに調査・実験に必要な研究機器の準備・整備・扱いなどの技術や研究室におけるルールについて演習を通じて習得する。これらすべての過程で要求される数学、物理学、化学、統計学について学び、関連する解析ソフトウェアの扱いを習得する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	科学的研究の実現	Placebo-control, double blind, randomized, crossover design study について学び、自身の研究を科学的に実行するために必要な研究計画上の中心理念を実現するために必要な方策をディスカッションする。
2 回	対象（者）の設定	研究対象（者）の具体的設定を行う。ヒトを対象として調査・実験を行うために要求される法的・倫理的要件を、対象（者）の年齢や背景に応じて具体的に確認する。設定された仮説の検証に必要な統計（検定）手法は何か、要求する検定力はどのように設定するか、について学習する。想定された検定力に応じて必要となる対象（者）数を算定する。
3 回	調査・実験方法の設定	仮説の検証に必要な分析機器・設備が必要となるか、具体的に設定していく。
4 回	調査・実験機器①：予備訓練（1）	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。すなわち、準備、整備、検定・校正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、研究者として最低限習得しておかなければならない技能を習得し、機器の作動・運用にかかわる物理学的機序を理解する。
5 回	調査・実験機器②：予備訓練（2）	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。すなわち、準備、整備、検定・校正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、研究者として最低限習得しておかなければならない技能を習得し、機器の作動・運用にかかわる物理学的機序を理解する。

6 回	調査・実験機器③：予備訓練（3）	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。すなわち、準備、整備、検定・校正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、研究者として最低限習得しておかなければならない技能を習得し、機器の作動・運用にかかわる物理学的機序を理解する。
7 回	調査・実験機器④：予備実験（1）	取扱い方法について習得した機器を用いて精度の高い実験を行うため、実際に少数のヒトを対象とした予備実験・pilot study を行う。
8 回	調査・実験機器⑤：予備実験（2）	取扱い方法について習得した機器を用いて、精度の高い実験を行うため、実際に少数のヒトを対象とした予備実験・pilot study を行う。
9 回	調査・実験機器⑥：予備実験（3）	取扱い方法について習得した機器を用いて、精度の高い実験を行うため、実際に少数のヒトを対象とした予備実験・pilot study を行う。
10 回	分析手法の検討	予備実験・pilot study を踏まえて研究実現に必要な方法論を確定し、その分析に用いる統計解析手法を検証・確定する。
11 回	分析手法の習得①	予備実験・pilot study のデータを用いて、データの分析に必要な統計解析ソフトやグラフ作成ソフト、数学的手法について学習する。
12 回	分析手法の習得②	予備実験・pilot study のデータを用いて、データの分析に必要な統計解析ソフトやグラフ作成ソフト、数学的手法について学習する。
13 回	分析手法の習得③	予備実験・pilot study のデータを用いて、データの分析に必要な統計解析ソフトやグラフ作成ソフト、数学的手法について学習する。
14 回	研究方法の論述	研究の具体的な実現方法を確定し、修士論文の「方法」セクションに該当する内容について大枠の草稿を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した文献の事前精読、課題に対する資料作成。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要な文献などは毎回指定する。

【成績評価の方法と基準】

具体的な研究方法が設定できることが必須である。

- ① 対象者およびその数が適切に設定できる（25%）
- ② 研究室、研究機器の適切な使用方法の習得（25%）
- ③ 解析手法の理解と習得（25%）
- ④ 研究方法の論述（25%）

以上の 4 項目を評定し、合計得点によって総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習Ⅱ

高見 京太

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 自らの研究仮説が質の高い修士論文を作成するのに適切なものであるかを、過去・現在の研究論文から検証する。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 修士論文の作成に必要な国内外における研究動向を把握し、問題の構造化と論理の構成により、具体的な研究課題を設定する。

【授業の進め方と方法】

予備実験・調査を基にして、より具体的で現実的な研究課題を定め、専門領域の研究を進めるのに必要となる、関連の深い研究論文をレビューして、「修士論文構想発表会」において構想を発表する。この発表会によって、自らの研究の着眼点を明確にし、計画的に研究を進めるために必要な研究計画書を作成する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	予備実験・調査の発表①	予備実験・予備調査の成果のプレゼンテーション及びディスカッション
2	予備実験・調査の発表②	予備実験・予備調査の成果をもとに、研究計画書及び修士論文の概要の作成
3	修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー①	問題の顕在化・可視化・構造化により、リサーチエスチョンの設定、論理の構成、理論と方法の選択
4	修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー②	問題の顕在化・可視化・構造化により、リサーチエスチョンの設定、論理の構成、理論と方法の選択
5	修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー③	問題の顕在化・可視化・構造化により、リサーチエスチョンの設定、論理の構成、理論と方法の選択
6	修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー④	問題の顕在化・可視化・構造化により、リサーチエスチョンの設定、論理の構成、理論と方法の選択
7	修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー⑤	問題の顕在化・可視化・構造化により、リサーチエスチョンの設定、論理の構成、理論と方法の選択
8	修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー⑥	問題の顕在化・可視化・構造化により、リサーチエスチョンの設定、論理の構成、理論と方法の選択
9	修士論文構想発表会の準備	口頭発表のアウトラインと原稿作成
10	修士論文構想発表会	修士論文構想発表会
11	研究方法論①	修士論文構想発表会と先行研究のレビューにより、実験・調査方法の確定。
12	研究方法論②	修士論文構想発表会と先行研究のレビューにより、データ収集と統計解析方法の、結果の解釈と考察の方針を確定。

- 13 研究計画・執筆計画の立案 論文の構成、研究目的の遂行と方法論の確定。研究計画書の作成。
- 14 修士論文計画発表会の準備 口頭発表のアウトラインと原稿作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジメ・資料作成、および質疑内容の復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参画状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

1 対 1 での指導のため、問題があったとしてもその都度、解決できる。

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅱ

永木 耕介

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究構想の作成、研究方法の枠組や分析手続きに関する力を総合的に高める。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画書を作成する。
- ② 修士論文作成へ向け、研究仮説を実証するための方法を選択・決定し、さらに研究の全体計画を立案する。

【授業の進め方と方法】

スポーツ健康学演習Ⅰで構成した仮説を実証するための研究方法について指導する。学校体育あるいは地域スポーツのよりよいあり方を探る研究が主となるため、現場・フィールドにおける観察法、質問紙法、インタビューなど調査系の研究方法を中心に引き上げて解説・教授する。さらに、研究の全体計画を立案し、提示できるように指導する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	調査のルール、マナーについて	個人情報の保護等、調査に必要なルールやマナーについて説明する。
2 回	研究方法の解説－統計分析法①	質問紙法において必要な単純集計、クロス集計、カイ二乗検定等について解説する。
3 回	研究方法の解説－統計分析法②	T 検定、分散分析、多重比較等について解説する。
4 回	研究方法の解説－統計分析法③	調査項目・内容の精選、因子分析等について解説する。
5 回	研究方法の解説－内容・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説する。
6 回	研究方法の解説－質的研究法	記録法等について解説する。
7 回	研究方法の解説－観察法	観察法／インタビュー等について解説する。
8 回	研究方法の選択	仮説実証のために必要な研究方法を選択するよう指導する。
9 回	研究方法の作成①	質問項目・内容等、具体的な方法を作成するよう指導する。
10 回	研究方法の作成②	作成した研究方法が実際の現場で適用できるかどうかについて、簡便なテスト調査を実施し、シミュレーションを行う。
11 回	研究方法の作成③	シミュレーションの結果を分析し、方法の妥当性を検討するよう指導する。
12 回	研究テーマ、目的、仮説、方法の整合性の検討	これまでの踏まえ、研究テーマ、目的、仮説、方法について演習内で発表し、それらの整合性について意見交換を行う。
13 回	研究計画の立案	研究テーマ、目的、仮説、方法についてまとめるよう指導する。
14 回	プレゼンテーションの準備	大学院 2 年次の 4 月（予定）に全体で行われる「修士論文計画発表会」へ向けた準備を行うよう指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究方法の選択・決定に際して、授業外においても関連する先行研究・文献の収集を進めること。また、授業外でもフィールドワークを積極的に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

推計学による新教育統計法（日本文化科学社）、実践心理データ解析（新曜社）、質的研究法による授業研究（北大路書房）、実証的教育研究の技法（大学教育出版）、等

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（60%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（10%）

【学生の意見等からの気づき】

論文作成のポイントや構想づくりについてさらに丁寧に指導したい。

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文ではフィジカルあるいはスキルのトレーニングを題材とすることを指すので、そのために必要となるトレーニング科学およびスポーツバイオメカニクスの手技を習得する。

【到達目標】

- ① 研究デザインに基づいて、研究に必要な測定法の手技をさらに深める
- ② 手技の習得から、研究方法を作成することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

各自の研究デザインに基づいて、トライアルとなる測定を実施し、測定法の習得が確実となっていることを確かめる。その中で分析法、結果の解釈も検討する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	測定法の習得①	院生ごとに必要となる測定法をより深く調べ、その手技を習得する
2 回	測定法の習得②	院生ごとに必要となる測定法をより深く調べ、その手技を習得する
3 回	測定法の習得③	院生ごとに必要となる測定法をより深く調べ、その手技を習得する
4 回	事前の測定①	院生ごとにトライアルの測定を計画し、実施する
5 回	事前の測定②	院生ごとにトライアルの測定を計画し、実施する
6 回	事前の測定③	院生ごとにトライアルの測定を計画し、実施する
7 回	分析法の習得①	院生ごとにトライアルの測定を分析し、その結果をプレゼンテーションする
8 回	分析法の習得②	院生ごとにトライアルの測定を分析し、その結果をプレゼンテーションする
9 回	分析法の習得③	院生ごとにトライアルの測定を分析し、その結果をプレゼンテーションする
10 回	研究方法の作成にあたって	研究方法の作成の作法を習得する
11 回	方法の作成①	院生ごとに作法に則って「研究方法」を作成する
12 回	方法の作成②	院生ごとに作法に則って「研究方法」を作成する
13 回	方法の作成③	院生ごとに作法に則って「研究方法」を作成する
14 回	研究方法のまとめ	「研究方法」を完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自必要となる測定法をさらに調査する。

トライアル測定データを分析する。

「研究方法」を作成する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「諸言」から「方法」までの完成度（60%）、プレゼンテーション（20%）、授業への参画状況（20%）

スポーツ健康学演習Ⅱ

山本 浩

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。

② 具体的な競技・種目（テレビ・タブレットといったメディアを通じて関心を高めている競技）を自ら設定し、そこに内在するスポーツの構造を、「日本的」なものや「ユニバーサル」なものを見極めながら分析する。

【到達目標】

① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画書の作成準備に取りかかれる力を獲得する

② 秋には全国でさまざまなスポーツイベントが行われる。一方でボールゲームにも大切なシーズンだ。受講生がそれぞれターゲットにした競技を、スポーツ健康学演習Ⅰで学んだ概論から始まって個別の競技を分析し、独自のテーマを設定して追求しながらその骨格を明らかにする。

【授業の進め方と方法】

あくまで受講生のアクションをベースにした授業運営とする。その上で、自らの研究対象とするスポーツを、海外の類似競技との比較をしたりしながら見る能力を身につける。ここでは「ビジネス」「自治体」「生理学者」「運動学者」「競技団体関係者」「指導者」などのものの見方も援軍としたい。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	レースの仕組み	水・陸・自転車にとどまらず、タイムを競うレースを取り上げ、その周りがあるさまざまな要素を丹念に追い、それぞれの関係をファクターツリーに仕上げる。
2 回	ボールゲームの個性	時間と空間をどう制御するのか。ボールゲームの持つ個性を、運動生理学・運動学・バイオメカニクス・栄養などの観点から見極め、自分のアプローチを決める。
3 回	身体作り／選手の特長	タレント発掘・若い時代のキャリア・高校や大学での成績、招待選手の条件、移籍の実態などを細かく見る。
4 回	主催団体の発想	主催者の立ち位置、その思惑、期待と現実を調べて掌握する。海外の大会との比較も視野に入れる。
5 回	準備とトレーニング、契約と履行	記録との戦いのためにどこで何をしてくるのか。長いシーズンを勝ち抜く合宿の設計、本番までの計画を見る。
6 回	自治体と運営主体	会場を提供する自治体の対応や警察の考え方。近隣商店街や宿泊業界はどう考えるのか。法規や規則対策は。
7 回	マスメディアとの交渉	活字・電波ともに違ったアプローチをかけてくる。そのルートや考え方を検証する。
8 回	中間プレゼンテーション	演習の 7 回までを材料に、途中総括する

9 回	PR と参加者募集、取り巻く人々	市民型の競技会であれば、参加者募集。観戦型の試合であれば、観客を集めるための工夫と問題点。運営主体の役員、ボランティアの働きと行動動線などをチェックする。
10 回	試合を見る	計画された対戦が、期待されたような展開になったのか。選手やチームの次へのステップを含め振り返る。
11 回	レースを検証する	現実の大会がどのように行われるのか。講義のためにあらかじめ抽出した現場で、子細に確かめる。
12 回	プレゼンテーションⅠ	論文とそれを抄訳した PPT によるプレゼンテーションで、受講生のスポーツ健康学の組み立てを見る。
13 回	プレゼンテーションⅡ	論文とそれを抄訳した PPT によるプレゼンテーションで、第 13 回に指摘された部分の修正を検証する。
14 回	総括	レース/試合に関わった関係者を招き、その裏舞台を披露しながらのトークセッションとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定の組織、チーム、指導者、選手、スタッフなどにアプローチし、恒常的に情報のやりとりをしながら、独自の観点からのまとめを仕上げる材料を常時収集すること。

研究論文、海外の事例にも間断なく視点を置いておくこと。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「奇蹟のランニング」(クイックフォックス社 1978)、「メディアスポーツへの招待」(ミネルヴァ書房 2012)ほか、野球、サッカー、バスケットボールなどの関連書籍。

【成績評価の方法と基準】

多様なものの見方 (30%)、利害のぶつかり合う部分に対する評価 (20%)、レース/試合を背景に、客観性と独自性のあるまとめ (20%)、現実的で着実な発想 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

これまでに該当する意見なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (可能な場合)。

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅱ

吉田 政幸

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究の構想および計画を練ることで、データ収集や分析などの研究方法に関する力を総合的に高める。
2. スポーツマネジメント領域の修士論文の作成に必要な研究方法論を十分に理解する。

【到達目標】

2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかることのできる力を獲得する。

1. 修士論文の目的、リサーチエッセンス、仮説を導出し、設定できる。
2. 修士論文の研究の種類と目的に応じて適切な標本抽出方法を選択できる。
3. 修士論文において扱う尺度の種類と特徴を理解する。
4. 記述統計に加え、仮説検証に必要な推計統計（t 検定、ANOVA、MANOVA、回帰分析）を用いてデータを分析できる。
5. 多変量解析の確率的因子分析と構造方程式モデリングを用いて、心理的尺度の構成概念妥当性を検証するとともに、仮説に基づいて要因間の関係性を分析できる。

【授業の進め方と方法】

学期の前半は修士論文の遂行において求められる目的、リサーチエッセンス、仮説を適切に設定するとともに、研究目的を達成するために必要とされる研究方法論（尺度の作成、サンプリング、尺度の信頼性および妥当性の検証、仮説の検証）について学習し、倫理申請に対応できるようにする。学期の後半は統計分析に焦点を合わせ、課題に取り組みながら、基礎的な記述統計および推計統計に加え、発展的な多変量解析を学ぶ。演習では修士論文に関連する理論、方法、統計分析についてディスカッションを行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	本演習の目的および概要について理解するとともに、スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ。
2 回	研究の目的およびリサーチエッセンス	研究の目的とリサーチエッセンスの特徴をそれぞれ理解し、自身の修士論文についてそれらを適切に設定する。併せて、先行研究の問題点と修士論文の独創性を特定する。
3 回	仮説の導出：理論の応用	修士論文で検証する要因間の関係性の根拠となる理論をいくつか特定し、その応用方法について理解を深める。
4 回	仮説の導出：関係性の説明	仮説検証の理論的根拠となる合理的な説明を構築し、その論理性について検討する。
5 回	研究のデザイン	研究を実施する際の研究のデザインについて、(1) 質的/量的/混合型、(2) 実験的/非実験的、(3) 横断的/縦断的などの区分を考慮し、自身の研究目的に適したデザインを特定する。
6 回	標本抽出方法	修士論文のテーマの母集団とそれを代表する標本を設定し、そのための標本抽出方法を選択する。
7 回	記述統計	実際に二次的データを使用し、度数分布、平均、標準偏差、因子間相関を算出し、記述統計を用いた分析を行う。
8 回	t 検定と分散分析	t 検定と分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。

9 回	多変量分散分析	多変量分散分析の内容と実施方法を学び、実際に二次的データを用いて検証する。
10 回	確認的因子分析の基礎	心理的要因の構成概念妥当性を検証するために必要な確認的因子分析の内容と実施方法について理解を深める。
11 回	確認的因子分析による構成概念妥当性の検証	二次的データを用いて確認的因子分析を行い、心理的尺度の収束的妥当性と弁別的妥当性を検証する。
12 回	構造方程式モデリングの基礎	複雑な関係性に関する仮説検証において有効な構造方程式モデリングの内容と実施方法について理解を深める。
13 回	構造方程式モデリングによる関係性の分析	二次的データを用いて構造方程式モデリングの検証を行い、要因間の関係性を分析する。
14 回	構造方程式モデリングによる多母集団分析	異なる母集団の間で要因間の関係性の強さに違いがないかを検証するため、構造方程式モデリングを用いた多母集団分析を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出题される課題に取り組むとともに、そこでの疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

理論に基づく仮説の設定：20 点

統計課題 1（記述統計）：20 点

統計課題 2（基礎的な推計統計）：20 点

統計課題 3（確認的因子分析）：20 点

統計課題 4（構造方程式モデリング）：20 点

【仮説の評価基準】

20 点：適切な理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

15 点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を正しく導出している。

10 点：理論を用いて現象を合理的に説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

5 点：理論を用いて現象を説明し、それに対応する要因間の関係性やグループ間の違いに関する仮説を導出している。

【統計課題の評価基準】

20 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から合理的な説明を加えられている。

15 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行うとともに、独自の視点から説明を行っている。

10 点：授業の内容を踏まえ、分析を正しく行っている。

5 点：授業の内容を踏まえて分析を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

スポーツ健康学演習Ⅱ

中澤 史

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位
 曜日・時限： | キャンパス：多摩
 配当年次：1 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究方法の枠組や分析手続きに関する能力を総合的に高め、研究計画書を作成する。

【到達目標】

1. 修士論文の研究テーマおよび研究方法を確定する。
2. 修士論文構想発表会において研究構想を発表する。
3. 修士論文計画発表会に向けた研究計画書を作成する。

【授業の進め方と方法】

修士論文構想発表会に向けて、各自の研究テーマおよび研究方法を精査する。また発表会で浮き彫りとなった。課題を修正し、研究テーマおよび研究方法を確定する。その後、翌年の修士論文計画発表会に向けた研究計画書の作成に取り組む。各授業では、受講生が作成した抄録に基づくプレゼンテーションを行い、受講生間での質疑応答を通して課題の明確化を図る。その後、担当教員による指導を受け、次週までの課題を設定する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	到達目標、単位認定の方法、履修上の注意等について概説する
2	研究結果のまとめ方①	抄録発表および討議：データの整理
3	研究結果のまとめ方②	抄録発表および討議：分析方法（統計ソフトの使用）
4	研究結果のまとめ方③	抄録発表および討議：分析方法（結果の妥当性・信頼性）
5	研究結果のまとめ方④	抄録発表および討議：分析方法（図・表の作成）
6	研究結果のまとめ方⑤	抄録発表および討議：分析方法（質的分析法）
7	研究結果のまとめ方⑥	抄録発表および討議：分析方法（GTA）
8	研究結果のまとめ方⑦	抄録発表および討議：分析方法（KJ 法）
9	研究結果のまとめ方⑧	抄録発表および討議：分析方法（交流分析理論）
10	研究結果のまとめ方⑨	抄録発表および討議：獲得した知見の整理
11	研究結果のまとめ方⑩	抄録発表および討議：先行研究との対応
12	研究結果のまとめ方⑪	抄録発表および討議：現場への提言
13	研究結果のまとめ方⑫	抄録発表および討議：Abstract の記述方法、プレゼンテーション、質疑応答
14	まとめ	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、国内外の最新の文献に触れておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 松井豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014

3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

抄録・プレゼンテーションおよび授業への参画状況（50%）、課題レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【その他の重要事項】

スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。

スポーツ健康学演習Ⅱ

林 容市

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：1 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文作成を見据えた演習を行う。スポーツや様々な身体活動における体力に関するこれまでの研究を理解した上で種々の研究方法を習得し、研究計画を設定する。

【到達目標】

- ① 2 年次 4 月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する
- ② 健康・スポーツ体力学における研究の手法を理解する。
- ③ 健康・スポーツ体力学に関する研究計画を立案することができる。
- ④ 分析に必要な実験・調査計画法を理解し、データを分析できる能力を習得する。

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する理論や研究方法を体系的に理解した上で、修士論文・研究の遂行に必要な具体的な手法を学ぶことを目標とします。授業においては、毎回課題を出し、次回の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。これらの発表に際しての準備および討論等に対する受講者の積極的な参加が重要となります。また、開講学期中に開催予定の修士論文構想発表会において、修士論文の研究テーマ、研究方法を発表するための手法についても学びます。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	予備実験の結果発表	スポーツ健康学演習Ⅰで実施した予備実験の結果を発表し、結果および今後の課題について論議する。
2 回	方法論の決定	文献研究および予備実験の結果に基づき、修士論文の方法論を決定する。
3 回	研究計画の立案	修士論文の「目的」、「方法」のアウトライン、および「予想される結果」を発表し、論議する。
4 回	研究計画の作成：研究計画書の作成方法	研究計画書の書き方を理解する。
5 回	研究計画の作成：研究計画の発表	修士論文作成に向けた実験・調査に用いる指標や変数を発表し、論議する。
6 回	研究計画の発表	修士論文の研究計画を作成して発表し、論議を行う。
7 回	研究計画の見直し	前回発表・論議の結果を踏まえ、修正した研究計画を発表する。
8 回	修正研究計画の発表	修士論文構想発表会へ向けた準備として、修正した研究計画を発表し、論議を行う。
9 回	要因・方法論の再確認	修士論文構想発表会での指摘などを受け、先行研究の再レビューを踏まえて実験・調査に必要な要因・方法論の再確認を行う。
10 回	実験計画法・分析方法の確認：「実験」の場合	「実験系」研究のデータ分析に必要な研究計画法および統計解析法を理解する。
11 回	実験計画法・分析方法の確認：「調査」の場合	「調査系」研究のデータ分析に必要な研究計画法および統計解析法を理解する。

12 回	推測統計の適用	適切な検定の適用、検定結果の解釈を理解する。
13 回	要因配置・分析方法の決定	種々の要因を総括して要因配置と分析方法を決定する。
14 回	修士論文研究計画の確定	修士論文計画発表会へ向けた発表概要を作成する。
15 回	修士論文研究計画発表会へ向けた発表準備	修士論文計画発表会へ向けた発表練習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回課題が課されますので、それに従って作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（3, 5～9, 13～15 回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を大成ってください。また、6, 15 回目の「研究計画の発表」、「修士論文研究計画発表会へ向けた発表準備」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

身体活動科学における研究方法/田中喜代次他（訳）/ナッブ・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院
・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

1) 各回における課題の内容および発表・達成状況：40%，2) 「研究計画の発表」、「修士論文研究計画発表会へ向けた発表準備」に関する課題の内容：30%，3) 討論等への参画状況：30%
なお、1) に関して 3 回以上の未発表がある者、2) の課題未発表者については評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度開講していないため、特になし。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学演習Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。

スポーツ健康学演習Ⅲ

安藤 正志

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② 各関節部位に発生する運動器疾患（スポーツ傷害を含む）について理解し、その部位の機能解剖の理解を深めると同時に対処方法を考案しながら修士論文のテーマを定め研究を実行する。

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 修士論文の計画を立て実行する。また同時に各関節に発生する（特に脊椎）主な運動器疾患を理解でき機能解剖について理解を深め触診ができ、既に修得された他の部位に関しては後輩に指導しながら理解を深める。

【授業の進め方と方法】

講義、実技および文献など調査と発表

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文計画発表会	修士論文の計画を発表する
2 回	腰椎疾患 1	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
3 回	腰椎疾患 2	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
4 回	腰部の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
5 回	中下部頸椎疾患 1	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
6 回	中下部頸椎疾患 2	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
7 回	中下部頸椎の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
8 回	上部頸椎疾患 1	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
9 回	上部頸椎疾患 2	この部位に多発する主な疾患を調べ発表する
10 回	上部頸椎の機能解剖と触診	この部位の機能解剖を確認し触診する
11 回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる
12 回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる
13 回	各部位の機能診断と治療	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる
14 回	各部位の機能診断と治療 研究進行の報告	学術論文より各部位の機能診断と治療法の最新事情調査しお互いに情報交換し知識を広げる 各自の研究の途中報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学術大会への参加

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱ ・ カパンディ機能解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
など ・ 関連した学術論文

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、フィールドワークの参加状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開校科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

学術大会へ積極的に参加し科学者としての言動や振る舞いを学ぶ

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② アスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究の方法論から修士論文を作成する

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する研究方法より、各自の研究計画に基づき研究を実践する。
- ③ 関連分野における学会発表を目指す。

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究計画に基づき実験等を実践し、議論を行う

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	各自の研究計画の振り返り、ディスカッション
2 回	研究実践／ディスカッション1	各自の研究計画に基づいた実験等の研究実践と議論
3 回	研究実践／ディスカッション2	各自の研究計画に基づいた実験等の研究実践と議論
4 回	研究実践／ディスカッション3	各自の研究計画に基づいた実験等の研究実践と議論
5 回	研究実践／ディスカッション4	各自の研究計画に基づいた実験等の研究実践と議論
6 回	研究実践／ディスカッション5	各自の研究計画に基づいた実験等の研究実践と議論
7 回	中間プレゼンテーション	中間発表に至る過程での振り返りとまとめ、各自のプレゼンテーション、研究方法の再検討
8 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読1	実験等研究実践報告、論文抄読1
9 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読2	実験等研究実践報告、論文抄読2
10 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読3	実験等研究実践報告、論文抄読3
11 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読4	実験等研究実践報告、論文抄読4
12 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読5	実験等研究実践報告、論文抄読5
13 回	中間発表・予演	各自のプレゼンテーション・ディスカッション
14 回	中間発表会	各自の研究の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である

【テキスト（教科書）】

身体活動科学における研究方法. NAP

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

鬼頭 英明

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位
 曜日・時限： | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
 ②研究の実効とデータ解析

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
 ② 修士論文の中核となる本調査を実施し、解析により仮説設定につながる根拠を得る。

【授業の進め方と方法】

一定のプロセスを経て研究計画を進め、本調査実施及び結果の解析に向けて着実に研究を進める。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	本調査にむけての文献調査	再度、研究テーマに関連する文献調査を実施するとともに、研究計画、特に本調査の内容について検討する。
2 回	本調査にむけての調査内容の検討①	本調査の調査内容について再度、改善を図る。
3 回	本調査にむけての調査内容の検討②	本調査の調査内容について再度、改善を図る。
4 回	本調査	本調査のための準備を進める。
5 回	本調査	本調査の結果を収集し、集計する。
6 回	本調査	集計を進めながら、分析方法について収集したデータをもとに確認する。
7 回	本調査	集計したデータをもとに統計的解析を進める。
8 回	本調査	本調査の統計的解析を進めるとともに、結果についてまとめる。
9 回	本調査	結果をもとに仮説との関連性についてまとめる。
10 回	調査結果の解析	調査結果について、分析法の妥当性等も踏まえ、総合的に考察する。
11 回	先行研究との関連性の検討	関連文献との整合性や関連性について検討する。
12 回	修士論文全体構想への振り替え	研究成果を踏まえ、当初の修士論文全体構想について課題を明らかにし、改善を図るための方策を考える。
13 回	修士論文中間発表会用発表資料の作成	発表資料の作成と改善点の把握
14 回	修士論文中間発表会用プレゼンテーション資料の作成	プレゼンテーションの資料作成と改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査法や調査結果の解析法について自身で事前に理解を深めておくとともに、分析を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜配付。

【参考書】

適宜アナウンスする。

【成績評価の方法と基準】

論文作成に向けた進捗状況・レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅲ

高見 京太

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② 進行する修士論文研究を、研究仮説や予想した結果との検証を行い、研究の修正や追加等を検討する。

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 「修士論文計画発表会」において得られた助言等をもとに、研究していくための応用力を身につける。
- ③ 緒言と方法の記述に取り掛かり、目的に沿った実験を施行し、データ収集を行う。

【授業の進め方と方法】

研究計画に従って研究を遂行しながら、各専門の国内外における研究の動向やトピックスの紹介と検討を行い、研究論文作成に向けた緒言、方法の作成、質疑応答への準備などを通じて、研究者としての能力を総合的に高めてゆく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	修士論文・課題研究論文の進行状況の確認と質疑①	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
2	修士論文・課題研究論文の進行状況の確認と質疑②	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
3	修士論文・課題研究論文の進行状況と、それに関連する最新の研究論文レビュー③	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
4	修士論文・課題研究論文の進行状況と、それに関連する最新の研究論文レビュー④	論文の精読、学術論文の構成、既知の体系化、論文の要約と評価
5	研究論文作成における「緒言」の作成：文献や資料の通読と評価、総説作成による文献の集約①	緒言の構成を作成
6	研究論文作成における「緒言」の作成：文献や資料の通読と評価、総説作成による文献の集約②	研究の意義・重要性の整理、仮説の提示
7	研究論文作成における「緒言」の作成：文献や資料の通読と評価、総説作成による文献の集約③	参考文献のデータベース化
8	研究論文作成における「方法」の作成：実験方法とデータ収集に関する説明①	実験デザインの整理
9	研究論文作成における「方法」の作成：実験方法とデータ収集に関する説明②	サンプルサイズと統計処理の計画

- 10 研究論文作成における「方法」の作成：実験方法とデータ収集に関する説明③
- 11 研究論文作成における「結果」の作成：実験データの統計処理、結果の記述とデータの図表化①
- 12 研究論文作成における「結果」の作成：実験データの統計処理、結果の記述とデータの図表化②
- 13 修士論文中間発表会の準備①
- 14 修士論文中間発表会の準備②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジメ・資料作成、および質疑内容の復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅲ

永木 耕介

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② データの収集と分析による結果の把握

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 研究計画を推進し、データの収集と分析によって結果を把握する。

【授業の進め方と方法】

スポーツ健康学演習Ⅱで選定した研究方法によるデータの収集と分析を行い、一定の結果を把握するよう指導する。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	予備調査①	調査の観点、項目、内容等を確認するよう指導する。
2 回	予備調査②	フィールドにおいて調査対象への依頼手続きや状況、人数、回収方法等を確認するよう指導する。
3 回	予備調査③	予備調査の実施を指示する。
4 回	予備調査④	収集したデータの集計等を行い、妥当な方法で分析を行うよう指導する。
5 回	予備調査⑤	データの分析によって得られた結果を整理して演習内で発表し、研究仮説等の観点から意見交換を行う。
6 回	本調査①	予備調査の検討結果を踏まえ、問題があれば研究方法に対する修正を行うよう指導する。
7 回	本調査②	調査対象への依頼手続きや状況、人数、回収方法等を確認するよう指導する。
8 回	本調査③	本調査の実施を指示する。
9 回	本調査④	収集したデータの集計等を行い、妥当な方法で分析を行うよう指導する。
10 回	本調査⑤	データの分析によって得られた結果を整理して演習内で発表し、研究仮説等に照らした検討を行う。
11 回	分析法の修正・追加等	検討結果を踏まえ、得られた結果が不十分であれば分析法の修正や追加等を行うよう指導する。
12 回	調査方法の見直し	分析法の修正や追加等を行っても十分な結果が得られない場合、調査方法の見直しを行うよう指導する。
13 回	研究計画の再確認	研究テーマ、目的、仮説、研究方法、結果について、演習内で発表し、意見交換を行う。
14 回	プレゼンテーションの準備	大学院2年次の9月（予定）に全体で行われる「修士論文中間発表会」へ向けた準備を行うよう指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データの分析方法について、授業外においても関連する先行研究・文献を読み込む等、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

社会調査の理論と技法Ⅰ・Ⅱ（川島書店）、推計学による新教育統計法（日本文化科学社）、実践心理データ解析（新曜社）、質的研究法による授業研究（北大路書房）、実証的教育研究の技法（大学教育出版）、等

【成績評価の方法と基準】

論文作成へ向けた進捗状況・レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

スポーツ健康学演習Ⅲ

木下 訓光

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。

②調査・実験の実施

【到達目標】

①修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。

②設定した研究計画に基づき、調査・実験を実施し、研究論文執筆に必要なすべてのデータを得る。

【授業の進め方と方法】

調査・実験を行い、得られたデータを分析・整理する作業を繰り返していく。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	調査・実験の実施①	研究計画に基づき教員の指導のもと調査・実験を行う。
2 回	調査・実験結果の整理①	調査・実験の実施①で得られたデータについて整理・分析・ディスカッションを行う。
3 回	調査・実験の実施②	研究計画に基づき教員の指導のもと調査・実験を行う。
4 回	調査・実験結果の整理②	調査・実験の実施②で得られたデータについて整理・分析・ディスカッションを行う。
5 回	調査・実験の実施③	研究計画に基づき教員の指導のもと調査・実験を行う。
6 回	調査・実験結果の整理③	調査・実験の実施③で得られたデータについて整理・分析・ディスカッションを行う。
7 回	調査・実験の実施④	研究計画に基づき教員の指導のもと調査・実験を行う。
8 回	調査・実験結果の整理④	調査・実験の実施④で得られたデータについて整理・分析・ディスカッションを行う。
9 回	調査・実験の実施⑤	研究計画に基づき教員の指導のもと調査・実験を行う。
10 回	調査・実験結果の整理⑤	調査・実験の実施⑤で得られたデータについて整理・分析・ディスカッションを行う。
11 回	調査・実験結果の総括①	得られたすべてのデータを総括し、分析結果を整理していく。
12 回	調査・実験結果の総括②	得られたすべてのデータを総括し、分析結果を整理していく。適宜、図表を作成する。
13 回	調査・実験結果の総括③	得られたすべてのデータを総括し、分析結果を整理していく。適宜、図表を作成する。
14 回	研究結果の論述と研究論文「結果」の作成	研究結果を確定し、修士論文の「方法」セクションを完成させ、「結果」セクションの草稿を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した文献の事前精読、課題に対する資料作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要な文献などは毎回指定する。

【成績評価の方法と基準】

①調査・実験手続きが適切であったか（30%）

②データを適切に分析できているか（30%）

③研究論文の「結果」セクションを適切にまとめることができたか（40%）

以上3項目について各々評定し、合計得点によって総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし。

【その他の重要事項】

特になし。

平野 裕一

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの「緒言」「方法」を検討して、本実験を計画し、実施して結果を解釈する。

【到達目標】

- ① 本実験を計画し、実施する。
- ② 実施のデータを分析し、結果を解釈することを目標とする。

【授業の進め方と方法】

各自の研究課題、研究デザイン、研究方法を改めて検討、確認する。その上で、本実験を計画、実施し、分析して結果まで導出する。

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1 回	本実験の計画①	これまでの作業に基づいて院生ごとに本実験を計画する
2 回	本実験の計画②	これまでの作業に基づいて院生ごとに本実験を計画する
3 回	本実験の計画③	これまでの作業に基づいて院生ごとに本実験を計画する
4 回	本実験の実施①	院生ごとに本実験の実施の状況を確認する
5 回	本実験の実施②	院生ごとに本実験の実施の状況を確認する
6 回	本実験の実施③	院生ごとに本実験の実施の状況を確認する
7 回	本実験の確認と再実施	状況によって再実験を計画、実施させる
8 回	本実験の分析①	院生ごとに本実験の分析結果をプレゼンテーションする
9 回	本実験の分析②	院生ごとに本実験の分析結果をプレゼンテーションする
10 回	本実験の分析③	院生ごとに本実験の分析結果をプレゼンテーションする
11 回	研究結果までの作成①	院生ごとに「緒言」「方法」「結果」を改めて検討する
12 回	研究結果までの作成②	院生ごとに「緒言」「方法」「結果」を改めて検討する
13 回	研究結果までの作成③	院生ごとに「緒言」「方法」「結果」を改めて検討する
14 回	研究結果までの完成	結果までの完成を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本実験を計画する。
実験データを分析し、結果を解釈する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「緒言」から「結果」までの完成度（60%）、プレゼンテーション（20%）、授業への参画状況（20%）

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けて、個別の課題に対応する。

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習Ⅲ

山本 浩

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。

②スポーツ健康学の基礎となる広い領域を、研究の基盤整備のために今一度さまざまな角度から分析し、理論構築をこころみること、現代スポーツ社会に潜む問題点を整理し、修論の中のかけている部分を補正する。

【到達目標】

①修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。

②自分の専門分野を大切にしながらも、幅広い視野で論旨を組み立てる。柔軟で、鋭いプレゼンテーションを完成させる。

【授業の進め方と方法】

授業の特性から受講生の主体性が主軸となることは、これまでのⅠ・Ⅱと軌を一にする。掲出するジャンルに対して受講生がそれぞれテーマを選び、自らの修論執筆を補強する理論構築をする。明解なタイトル、多面的なアプローチ、複数の文研や研究結果、調査、インタビューなどに基づく構成を逐一チェックする。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	専攻分野ごとに、学部で追ってきたスポーツの自分なりのアプローチを解説し、その構造を明らかにする。
2 回	楽しむスポーツ	グラウンドゴルフ、スポーツチャンバラなどだけでなく、我々になじみの運動会に始まる娯楽要素を抽出して、研究対象スポーツとの関連性を調べる。
3 回	ターゲット競技的要素	サッカー、ラグビー、ホッケー、バスケットボール、テニス、それにアーチェリーまで。的を狙うスポーツの持つ特性をおしなべて概観する。
4 回	武道/マーシャルアーツ的要素	柔道、剣道、空手、ボクシングなど、スポーツにおけるコンタクト要素を焦点に、儀式的要件に関しても視野を広げる。
5 回	レース（記録系）要素	“記録”はどのスポーツにおいてもそれなりの価値として捉えられる。当該スポーツの記録の意味を考える。
6 回	審美的要素	研究対象スポーツの「審美的」要素を洗い出し、それがスポーツそのものにどのような影響を与えてきたか例示する。
7 回	障がい者スポーツ	研究対象スポーツの、障がい者対応を見る。
8 回	法（ルール）の観点からのスポーツ	研究対象スポーツの、国際法、国内法との関わり、ルールの規定などを精査する。
9 回	金（経済・収支）の観点からのスポーツ	研究対象スポーツの、国内外での経済的環境、お金を巡る動きやいきさつを分析する。
10 回	社会（環境・政治）の観点からのスポーツ	研究対象スポーツの、社会的評価を検討する。

- 11 回 抄録プレゼンテーションⅠ 修論を貫く論理構成を卑近なスポーツに転用し、過不足を検証する。
- 12 回 抄録プレゼンテーションⅡ 修論の抄録に、法的・経済的・社会的観点からのチェックを加えながら、校正をする
- 13 回 抄録プレゼンテーションⅢ 短い時間で鋭い主張となるべきプレゼンテーションを実施する。
- 14 回 最終抄録プレゼンテーションと総括 修正を加えたプレゼンテーションとその主張を第三者のもとで実施し、評価させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海外の論調を積極的に洗い出し、日本の世界観、世界のスポーツ観の位相の違いを予め意識しておくこと。そのためには、それぞれのテーマに関わる個別具体的な事例を必ず取りだしておくことが求められる。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

国際競技団体、内外のスポーツ関連公益団体の機関誌など。`Sports Japan/（公財）日本体育協会、`Leistungssport/ドイツ五輪スポーツ協会、`FIFA MAGAZINE、etc.

【成績評価の方法と基準】

広い世界観をもった上でのテーマの設定・論旨の展開になっているか（30%）。それぞれのスポーツの持つ論理、ルールの脈絡をとらえているか（30%）。説得力のある構成の主張であるかどうか（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでに該当する意見なし。

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅲ

吉田 政幸

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文は「序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論」の7章立てで進める。この授業では第4章の「方法」の手順に従ってデータを収集し、第5章の「結果」の分析を適切に行うことが目的である。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりである：

1. 調査票を確定させるとともに、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集する。
2. 収集したデータを入力するとともに、結果を適切な統計手法を用いて分析し、第5章の「結果」を原稿としてまとめる。

【授業の進め方と方法】

計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
2 回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
3 回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
4 回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
5 回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
6 回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1章）の研究目的や研究の意義が、方法（4章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
7 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
8 回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
9 回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
10 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）	推計統計を用いて仮説を検証する。
11 回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
12 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
13 回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。

14 回 まとめ

まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

データ収集：20 点

記述統計：20 点

尺度の信頼性および妥当性：20 点

仮説検証（関係性）：20 点

仮説検証（調整変数）：20 点

【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

スポーツ健康学演習Ⅲ

中澤 史

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位
 曜日・時限： | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。

【到達目標】

1. 修士論文の完成に向けた調査研究に取り組み、その中間報告を行う。
2. 国内の学会や研究会での研究発表もしくは実践報告を目指す。

【授業の進め方と方法】

修士論文計画発表会で浮き彫りとなった課題を修正し、修士論文の完成に向けた作業に取り組む。また、修士論文中間発表会に向けた研究計画書の作成を行なう。

各授業では、各自が取り組む研究の進捗状況に関するプレゼンテーションを行い、受講生間での質疑応答を通して課題の明確化を図る。その後、担当教員による指導を受け、修士論文完成に向けた中間報告の準備を行う。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	到達目標、単位認定の方法、履修上の注意等について概説する
2	研究結果のまとめ方①	研究の進捗状況の発表および討議 ：データの整理
3	研究結果のまとめ方②	研究の進捗状況の発表および討議 ：データの信頼性・妥当性
4	研究結果のまとめ方③	研究の進捗状況の発表および討議 ：データの提示（図）
5	研究結果のまとめ方④	研究の進捗状況の発表および討議 ：データの提示（表）
6	研究結果のまとめ方⑤	研究の進捗状況の発表および討議 ：先行研究との対応
7	研究結果のまとめ方⑥	研究の進捗状況の発表および討議 ：質的分析の方法
8	研究結果のまとめ方⑦	研究の進捗状況の発表および討議 ：GTA に依拠した分析法
9	研究結果のまとめ方⑧	研究の進捗状況の発表および討議 ：KJ 法に依拠した分析法
10	研究結果のまとめ方⑨	研究の進捗状況の発表および討議 ：交流分析理論に依拠した分析法
11	研究結果のまとめ方⑩	研究の進捗状況の発表および討議 ：ナラティブアプローチ
12	研究結果のまとめ方⑪	研究の進捗状況の発表および討議 ：Abstract の書き方
13	研究結果のまとめ方⑫	研究の進捗状況の発表および討議 ：プレゼンテーションの仕方
14	まとめ	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、国内外の最新の文献に触れておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014

3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

抄録・プレゼンテーションおよび授業への参画状況（50%）、課題レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【その他の重要事項】

スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。

スポーツ健康学演習Ⅲ

林 容市

開講時期：春学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
- ② 健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文作成を見据えた演習を行う。修士論文作成に向けた具体的な研究計画を確定して実践し、研究方法や結果の提示方法を習得する。

【到達目標】

- ① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
- ② 健康・スポーツ体力学における実験・調査を実践できる。
- ③ 実験・調査の結果を使用し、研究論文のアウトラインを執筆できる。
- ④ 実験・調査で得られたデータを適切に分析できる能力を習得する

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する研究計画に従って、修士論文に向けた実験・調査を実践します。この結果を用いて、研究全体のアウトラインの作成、「方法」および「結果」の執筆を最終的な目標とします。

授業においては、毎回課題を出し、次回の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。また、修士論文作成に向けた実験・調査に関する課題も出します。これらの課題を発表するためにも、準備および討論等に向けた受講者の主体的な参加が重要となります。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文計画の修正	これまでに作成した修士論文計画について、発表会等でのコメントを受けて討論し、修正する方向性を定める。
2 回	実験・調査に向けた計画	修士論文作成に向けた具体的な実験・調査の計画（日程等を含む）を作成し、論議する。
3 回	修士論文の研究計画の確定	修士論文を作成するための最終的な研究計画書を作成して提出する。
4 回	実験・調査の経過報告：問題点の確認	実験・調査を開始した状況を報告し、修正等の必要性について論議する
5 回	実験・調査の経過報告	実験・調査の進行状況を報告し、修正等の必要性について論議する。
6 回	実験・調査の経過報告：中間報告	実験・調査の中間報告を行い、データ集約の方向性について論議を行う。
7 回	データの整理・分析	実験・調査した結果得られたデータについて、実際に入力、データセットの作成、分析を開始し、分析結果を報告する。また、必要に応じて追加で行うべき分析方法についても論議する。
8 回	結果の示し方	前回の分析結果について、論文に記載する上で効果的な図表の作り方、示し方を理解する。
9 回	分析結果の報告	前回の内容を踏まえ、修士論文に向けたデータ分析の結果を発表し、論議する。
10 回	修士論文執筆の実際	修士論文全体のアウトラインの書き方を理解する。

- 11 回 修士論文執筆の実際：アウトラインの発表
前回内容に添って、修士論文全体のアウトラインを作成して発表し、論議する。
- 12 回 研究手順の提示方法：「方法」の書き方
実験・調査の「方法」を提示するための記載方法・表記方法を学ぶ。
- 13 回 研究手順の提示方法
前回内容に添って、修士論文の「方法」の部分を執筆し発表する。
- 14 回 データを理解するための提示方法：「結果」の書き方
読者の理解を深める「結果」の記載方法・表記方法を学ぶ。
- 15 回 データを理解するための提示方法
前回内容に添って、修士論文の「結果」の部分を執筆し発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回の課題に加えて、修士論文に関する実験・調査の進行を指示する予定ですので、課された課題に従って作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（2, 3～7, 9, 11, 13, 15 回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を大成ってください。また、3, 11 回目の「修士論文の研究計画の確定」、「修士論文執筆の実際：アウトラインの発表」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

- ・身体活動科学における研究方法/田中喜代次他（訳）/ナッブ
- ・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院
- ・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

1) 各回における課題の内容および発表・達成状況：40%，2) 「修士論文の研究計画の確定」、「修士論文執筆の実際：アウトラインの発表」に関する課題の内容：30%，3) 討論等への参画状況：30%
なお、1) に関して3 回以上の未発表がある者、2) の課題未発表者については評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度開講していないため、特になし。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学演習Ⅰ、Ⅱ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。

スポーツ健康学演習Ⅳ

安藤 正志

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
- ②士論文を完成し発表する

【到達目標】

- ① 研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ② 実験などから得たデータを処理し、修士論文を完成し、発表する

【授業の進め方と方法】

実験などから得たデータを指導されながら処理する方法を学び、数回の校正を通して修士論文を完成し要約したものを発表する

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	データ解析法	研究をまとめるための統計学を学ぶ
2 回	修士論文の校正	現在完成している論文を個人指導
3 回	発表用文章の校正	個人指導
4 回	修士論文中間発表	中間発表会を行う
5 回	論文修正	個人指導を行う
6 回	論文修正	個人指導を行う
7 回	論文修正	個人指導を行う
8 回	論文修正	個人指導を行う
9 回	学会参加	関連学会への参加
10 回	論文修正	個人指導を行う
11 回	論文修正	個人指導を行う
12 回	論文修正	個人指導を行う
13 回	論文提出	完成した修士論文を提出する
14 回	学会用スライドと原稿作成学会参加	関連学会参加準備 関連学会で発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の収集

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

関連した科学論文

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

関連学会で成果を発表する

スポーツ健康学演習Ⅳ

泉 重樹

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。

【到達目標】

- ①引き続き、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究を実践する。
- ②研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ③関連分野における学会発表を行う。

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究実践結果に基づき議論を行うとともに、修士論文を完成させる

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	これまでの各自の研究の振り返り、ディスカッション
2 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読 1	実験等研究実践報告、論文抄読 1
3 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読 2	実験等研究実践報告、論文抄読 2
4 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読 3	実験等研究実践報告、論文抄読 3
5 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読 4	実験等研究実践報告、論文抄読 4
6 回	研究実践／ディスカッション／論文抄読 5	実験等研究実践報告、論文抄読 5
7 回	学会発表予演／ディスカッション	各自のプレゼンテーション・ディスカッション
8 回	学会発表	関連各種学会で研究発表を行う
9 回	ディスカッション／論文抄読 1	各自の研究ディスカッション、論文抄読 6
10 回	ディスカッション／論文抄読 2	各自の研究ディスカッション、論文抄読 7
11 回	ディスカッション／論文抄読 3	各自の研究ディスカッション、論文抄読 8
12 回	ディスカッション／論文抄読 4	各自の研究ディスカッション、論文抄読 9
13 回	最終発表予演／ディスカッション	各自のプレゼンテーション・ディスカッション
14 回	最終発表会	各自の修士論文の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って研究に臨む姿勢が重要である

【テキスト（教科書）】

身体活動科学における研究方法. NAP

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし

スポーツ健康学演習Ⅳ

鬼頭 英明

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。

【到達目標】

- ①研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ②研究成果は学会等で発表する。

【授業の進め方と方法】

全体の研究計画をもとに、修士論文中間発表会での指摘も踏まえ、改善にあてる。その上で、修士論文の全体構成を確認し、理論構成や考察の充実を図っていくことにより、修士論文を完成させる。また、先行研究の検索は継続して実施し、最新の知見が修士論文に反映されるよう指導する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文中間発表会	研究テーマ、目的、仮説、研究方法、結果が発表できるよう指導する。
2 回	中間発表会の振り返り	発表会で得られた、質問等を踏まえ、改善点を抽出し、方策を考える。
3 回	学会発表に向けての準備①	日本学校保健学会での学会発表に向けて準備
4 回	学会発表のための準備②	日本学校保健学会での学会発表に向けて準備
5 回	修士論文の構成の検討	学会での質問事項や新たな情報をもとに論文構成について検討する。
6 回	先行研究の整理	修士論文の研究テーマに関連する先行研究をもとに研究に至った背景をまとめる。
7 回	調査方法の整理	修士論文の調査方法について整理する。
8 回	修士論文の結果の検討	得られた結果について内容の順序性や統計的検討も踏まえ、整理する。
9 回	修士論文の考察の検討	結果を基に、先行文献とも関連させながら考察を深める。受講生間の意見交換での示唆を参考にしよう指導する。
10 回	修士論文の考察の作成	全体構成を考慮し、前提となる仮説に立脚した考察を作成する。
11 回	修士論文作成	修士論文の全体構成について再度、確認する。
12 回	修士論文審査の準備①	論文審査会に向けて、論文の要旨を確認する。
13 回	修士論文審査の準備②	論文審査会に向けて、口頭試問のリハーサルを行う
14 回	修士論文の修正	審査会の指摘や評価をもとに、論文の修正点について指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修論執筆に向けて必要となる先行研究についてまとめ、修論の考察が深められるようにする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて論文や資料を配付。

【参考書】

学校保健研究（学会誌）

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし。

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅳ

木下 訓光

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
②研究の考察と修士論文の完成

【到達目標】

- ①研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
②科学的分析に基づく論理的思考・文章作成ができる。

【授業の進め方と方法】

これまでに得られた研究データを踏まえて、設定したりサーチ・クエスチョンおよび仮説の妥当性、研究データの信頼性、研究自体の科学的水準、倫理性を総括・検証し、各データに対して先行研究との比較から考察を行っていく。授業はデータの提示に対して口頭試問・インタビューを行い、ディスカッションをする形式で展開される。研究の限界について考察し、将来の研究計画への展望を考察する。これらを踏まえて修士論文の「考察」「結論」セクションを執筆し、定められた様式に則った推敲水準の高い論文を作成する訓練を経て修士論文の作成を終了させる。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	研究結果の総括①	設定したりサーチ・クエスチョンおよび仮説の妥当性、研究データの信頼性、研究自体の科学的水準、倫理性を総括・検証するため、口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。
2 回	研究結果の総括②	設定したりサーチ・クエスチョンおよび仮説の妥当性、研究データの信頼性、研究自体の科学的水準、倫理性を総括・検証するため、口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。また修士論文の「抄録（要旨）」に該当するセクションを執筆し提出する。
3 回	研究結果の考察①	得られたデータについて発表・考察し、口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。適宜読破すべき文献を指定する。
4 回	研究結果の考察②	得られたデータについて発表・考察し、口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。適宜読破すべき文献を指定する。
5 回	研究結果の考察③	得られたデータについて発表し、口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。適宜読破すべき文献を指定する。
6 回	研究結果の考察④	得られたデータについて発表・考察し、口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。適宜読破すべき文献を指定する。
7 回	研究結果の考察⑤	研究の限界について考察し、将来の研究計画への展望を考察する。研究の「結論」を決定する。
8 回	研究結果の考察⑥	修士論文の「考察」セクションを執筆し、提出する。
9 回	研究論文の作成方法	指定された様式・スタイルで論文を作成するための指針を指導する。剽窃・データの捏造について講義する。
10 回	参考文献・引用について	修士論文の「参考文献」セクションを執筆し、提出する。
11 回	研究発表①	学会形式で研究について口頭発表を行うための準備を行う。

12 回	研究発表②	学会形式で研究について口頭発表を行うための準備を行う。
13 回	研究発表③	学会形式で研究について発表を行う。発表内容について口頭試問・インタビュー・ディスカッションを行う。
14 回	修士論文の提示	これまで執筆した修士論文の各セクションをまとめて完成稿を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した文献の事前精読、課題に対する資料作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要な文献などは毎回指定する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし。

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅳ

高見 京太

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
- ②修士論文研究で得られたデータや分析法を精査し、修士論文完成させる。

【到達目標】

- ①研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ②研究成果を口頭発表および質疑応答が的確にできる。

【授業の進め方と方法】

結果ならびに考察を記述し、また研究発表や質疑応答の準備を行うことで研究の展開を行える力を身につけられるように指導する。また院生相互による事例検討、各人の研究内容のプレゼンテーション、ディスカッションをおこなうことにより、自らの研究論文に関わる知見を高める。成績評価については、演習での発表、レポートを含む日常点による。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	修士論文中間発表会の準備④	口頭発表リハーサル
2	修士論文中間発表会	スライドを用いた口頭発表
3	研究論文作成における「結果」の作成：実験データの統計処理、結果の記述とデータの図表化③	図表を用いたデータの視覚化
4	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括①	実験結果のまとめ
5	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括②	考察の記述方法
6	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括③	過去データとの比較
7	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括④	考察のまとめ
8	研究論文作成における「考察」の作成：実験結果の評価と過去文献との比較、総括⑤	追加実験に関する検討
9	研究論文の研究発表と質疑応答の準備①	口頭発表のアウトライン
10	研究論文の研究発表と質疑応答の準備②	制限時間に合わせた発表原稿の作成
11	研究論文の研究発表と質疑応答の準備③	配布資料の作成
12	研究論文の研究発表と質疑応答の準備④	質疑応答の準備
13	研究論文の研究発表と質疑応答の準備⑤	リハーサル
14	全体発表会	スライドやポスターを用いた口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の文献検索、レジメ・資料作成、および質疑内容の復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅳ

永木 耕介

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位
 曜日・時限： | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成に向けて考察力、まとめる力、そして発信力を高める。

【到達目標】

研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。

【授業の進め方と方法】

スポーツ健康学演習Ⅲで析出した結果に対する考察を深める。その際、スポーツ健康学演習Ⅰで整理した先行研究・文献等をもとにさらなる資料を収集し、結果に対する十分な解釈・説明が果たせるよう指導する。さらに、結果と考察をまとめて一定の結論を導出するとともに、本研究の限界を認識し、今後の課題を提示するよう指導する。それら全体を修士論文としてまとめ、審査に合格した後はできるだけ学会誌への投稿を促す。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文中間発表会	大学院2年次の9月（予定）に全体で行われる「修士論文中間発表会」において、研究テーマ、目的、仮説、研究方法、結果を発表するよう指導する。
2 回	学会発表等	研究テーマ、目的、仮説、方法、結果をまとめ、日本体育学会等において一般研究発表ができるよう指導する。
3 回	結果に対する考察①	スポーツ健康学演習Ⅰで収集した先行研究・文献等の考察部分を抽出するとともに、その他の参考資料を収集するよう指導する。
4 回	結果に対する考察②	収集した先行研究・文献等の考察部分を分析・検討するよう指導する。
5 回	結果に対する考察③	検討した先行研究・文献等の考察部分から、本研究の結果の解釈・説明につながる部分を選択し、記述していくよう指導する。
6 回	結果に対する考察④	自らの考え（論証）を加えながら、第一段階としての考察を創り上げるよう指導する。
7 回	結果に対する考察⑤	まとめた考察について、演習内で発表し、意見交換を行う。
8 回	結果に対する考察⑥	意見交換を踏まえ、さらなる文献資料等の収集や自らの考え（論証）の付加を促し、考察を深めるよう指導する。
9 回	結論の導出①	結果と考察をまとめ、一定の結論を導出するよう指導する。
10 回	結論の導出②	導出した結論から、研究の全体像、特に研究テーマ、目的、仮説等との整合性について見直すよう指導する。
11 回	研究の限界、今後の課題の提示	研究の全体像を把握したうえで、研究の限界を認識し、今後の課題を提示するよう指導する。
12 回	修士論文審査の準備①	論文審査会へ向けて、論文の要旨を確認する。
13 回	修士論文審査の準備②	論文審査会へ向けて口頭試問のリハーサルを行う。

14 回 学会誌へ論文投稿の準備 審査に合格後、コンパクトにまとめてできるだけ学会誌へ投稿するように促す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外においても、考察に役立つ文献資料を積極的に読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

保健体育専攻学生卒業論文・修士論文集（日本教育大学協会、全国保健体育・保健研究部門）

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、該当なし。

【その他の重要事項】

進捗状況によって、指導の順序が入れ替わる場合がある。

平野 裕一

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実験の結果から考察することと修士論文としての書き方を学ぶ。さらに、理解を促すためのプレゼンテーション手法を学ぶ。

【到達目標】

- ① 本実験の結果からの確にそして論理的に考察する
- ② 自然科学的にそして共通理解を得られるように記す
- ③ 理解を得られるようにプレゼンテーションすることを目標とする。

【授業の進め方と方法】

修士論文の「考察」をまとめ、結語と要旨を作成し、必要な補足をする。また論文全体についてディスカッションし、プレゼンテーションもする。さらに、論文の投稿先を検討し、投稿規定に合わせた修正をする。

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1 回	考察の作法①	院生ごとに結果からの確にそして論理的に考察する方法を学ぶ
2 回	考察の作法②	院生ごとに結果からの確にそして論理的に考察する方法を学ぶ
3 回	考察の作法③	院生ごとに結果からの確にそして論理的に考察する方法を学ぶ
4 回	結語と要旨の作成①	院生ごとに結語と要旨を作成し、必要な補足をする
5 回	結語と要旨の作成②	院生ごとに結語と要旨を作成し、必要な補足をする
6 回	結語と要旨の作成③	院生ごとに結語と要旨を作成し、必要な補足をする
7 回	論文の完成	完成論文を互いに確認する
8 回	論文の発表①	院生ごとに論文をプレゼンテーションし、ディスカッションする
9 回	論文の発表②	院生ごとに論文をプレゼンテーションし、ディスカッションする
10 回	論文の発表③	院生ごとに論文をプレゼンテーションし、ディスカッションする
11 回	論文の投稿①	院生ごとに論文の投稿先を検討し、投稿規定に合わせた修正をする
12 回	論文の投稿②	院生ごとに論文の投稿先を検討し、投稿規定に合わせた修正をする
13 回	論文の投稿③	院生ごとに論文の投稿先を検討し、投稿規定に合わせた修正をする
14 回	論文作成の総括	2年間を総括し、今後を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

結果からの考察を作成する。

要旨を作成する。

論文の概要をプレゼンテーションする資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けて、個別の課題に対応する。

スポーツ健康学演習Ⅳ

山本 浩

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
- ②修論執筆の為の最後の総括的なスポーツ健康学演習は、「いま」と「ひと」に十分な配慮がなされているかどうかを確認する演習。

【到達目標】

- ①研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
- ②「独りよがり」「時代遅れ」を廃し、ユニバーサルで現代的な主張が貫かれているかどうか。スポーツだけではなく、あらゆる事象の変化のスピードが速い。そのためには、最新の先行研究や発表論文を改めてチェックすることが必要。一方で、スポーツの向こうに常に「ひと」がいるというスタンスを忘れないでいるのか。専攻科の特性に鑑み、「ひと」視点で修論の完成をはかる。

【授業の進め方と方法】

受講生の主体性を中心に据えて進める。去年でなくて今年、今年でなくて今の視点を大切に。研究・分析の対象となる組織や人、事象やイベントを、そこに関わる「人」目線で論じる配慮が効いているかどうか。データ、数値をベースにしながらも、論理のための論理だけに収束させない配慮が必要。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	スポーツを取り巻く「いま」とは	「いま」に影響を与える要件を社会の中で改めて検証する。誰がどんな手続きでそれを受容し、誰が許容しているのか。
2 回	スポーツを取り巻く「ひと」とは	スポーツに関わる「ひと」の細分化が進んでいる。それぞれの研究テーマに「ひと」がどういった反応をしているか検証する。
3 回	世界の「いま」と「ひと」	国際化の進む時代に、世界観や文化の異なるグループが、スポーツに関わる論理をどう受け止めるのか。
4 回	時代の中の「いま」と「ひと」	昭和のスポーツは当時の「今」を体現していた。社会の変化は「ひと」の変化によってきたされてきた。時間の流れの中でどう変容してきたか。
5 回	教育の視点から	研究テーマは「教育」の観点からはどう読み取れるのか検証する。
6 回	生きがいの視点から	研究テーマを「生きがい・楽しみ論」として検証する。
7 回	共同体としての視点から	研究テーマを「共同体」の構成要素として検証する。
8 回	産業の視点から	研究テーマを「産業界」の期待やツーリズムの観点から検証する。
9 回	報道の視点から	研究テーマをメディアや報道機関の視点から検証する。
10 回	健康の視点から	研究テーマを肉体的健康、精神的健康の視点から検証する。
11 回	抄録検証	抄録を子細に検討する。
12 回	引用検証	引用文研、研究成果の抽出チェック。
13 回	論旨の検証	全体構成から、細部の展開までを検討する。
14 回	総括評価	仕上がりとはプレゼンテーションの批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連論文だけでなく、健康、栄養、法規、人生哲学などひとの行動とアクションに関わるジャンルに対しては、積極的な関心を持つこと。また、「いま、なぜ」の視点を大切に、研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

これまでに意見等該当するものなし。

【その他の重要事項】

特になし。

スポーツ健康学演習Ⅳ

吉田 政幸

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究を実施した成果を発信する能力を身に付ける。
2. 各自の研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げる。

【到達目標】

履修者は本演習を通じて以下の目標に到達する：

1. 第 5 章の結果が意味する内容、学術的貢献、実践的提案、研究の限界、今後の展望などに関する考察（第 6 章）を書き上げる。
2. 指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善できる。
3. 修士論文を完成させ、発表する。

【授業の進め方と方法】

大学院における講義、演習、実習などを通して得た知識や経験をまとめ上げ、その集大成となる修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
2 回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
3 回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
4 回	考察（調整変数の影響）	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を考察し、研究環境やグループ間の違いを説明するとともに、結果が示す学術的貢献についても記述する。
5 回	考察（棄却された仮説）	仮説どおりにならなかった結果や予期しなかった結果について、何故そのような事態になったのか慎重に考察する。
6 回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
7 回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
8 回	研究の目的、結果、考察つながり	研究を通じて目的がどの程度達成されたかどうかを確認し、論理性に問題があれば修正する。
9 回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
10 回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。

11 回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の 7 章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
12 回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
13 回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。
14 回	論文審査への対応方法（原稿の修正）	各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

考察（心理的尺度）：10 点
 考察（仮説検証）：10 点
 考察（予期せぬ結果）：10 点
 考察（学術的貢献）：10 点
 考察（実践的貢献）：10 点
 考察（研究の限界と今後の展望）：10 点
 結論（目的の達成度）：10 点
 文章力：10 点
 書式、体裁、参考文献、巻末資料：10 点
 全体を通しての完成度：10 点
 合計：100 点

【評価基準】

それぞれの観点を以下の基準に従って評価する：

- 10 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。
 8 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性と論理性がある。
 6 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげ、内容に独創性がある。
 4 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へつなげている。
 2 点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では論理性に注意し、履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

スポーツ健康学研究科において書き上げるスポーツマネジメント研究としての修士論文の意義を深く考えてください。

スポーツ健康学演習Ⅳ

中澤 史

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位
 曜日・時限： | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ心理学に関連する修士論文の完成。

【到達目標】

1. 修士論文を完成する。
2. 国内の学会や研究会での研究発表もしくは実践報告を目指す。

【授業の進め方と方法】

修士論文中間発表会で浮き彫りとなった課題を修正し、修士論文の完成に向けた作業に取り組む。各授業では、各自が取り組む研究の進捗状況に関するプレゼンテーションを行い、受講生間での質疑応答を通して課題の明確化を図る。その後、担当教員による指導を受け、修士論文を完成する。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	到達目標、単位認定の方法、履修上の注意等について概説する
2	修士論文のまとめ方①	研究の進捗状況の発表および討議 ：統計分析の結果の確認
3	修士論文のまとめ方②	研究の進捗状況の発表および討議 ：図表の作成・確認
4	修士論文のまとめ方③	研究の進捗状況の発表および討議 ：質的分析の結果の確認
5	修士論文のまとめ方④	研究の進捗状況の発表および討議 ：先行研究の整理
6	修士論文のまとめ方⑤	研究の進捗状況の発表および討議 ：緒言の再考
7	修士論文のまとめ方⑥	研究の進捗状況の発表および討議 ：考察の再考
8	修士論文のまとめ方⑦	研究の進捗状況の発表および討議 ：まとめの再考
9	修士論文のまとめ方⑧	研究の進捗状況の発表および討議 ：文献の確認
10	修士論文のまとめ方⑨	研究の進捗状況の発表および討議 ：修士論文の精査
11	修士論文のまとめ方⑩	研究の進捗状況の発表および討議 ：修士論文の完成
12	修士論文のまとめ方⑪	研究の進捗状況の発表および討議 ：Abstract の作成
13	修士論文のまとめ方⑫	研究の進捗状況の発表および討議 ：プレゼンテーションの仕方
14	まとめ	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、国内外の最新の文献に触れておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014
3. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004

【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成度（80%）、プレゼンテーション（20%）

【学生の意見等からの気づき】

直接指導に加え、適宜 Web での指導を取り入れます。

【その他の重要事項】

スポーツ心理学に関する基礎知識を有しており、スポーツ科学または心理学領域における卒業論文を作成した経験がある学生の受講が望ましい。

スポーツ健康学演習Ⅳ

林 容市

開講時期：秋学期 | 単位数：2 単位

曜日・時限： | キャンパス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

① 修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。
 ② 健康・スポーツ体力学に関連した課題をもとに、修士論文の作成、口頭発表の手法を見据えた演習を行う。修士論文作成に向けて実際に文章を執筆し、研究の背景（緒言）や考察の展開方法、提示方法を習得する。

【到達目標】

① 研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
 ② 実験・調査の結果を使用し、従来の研究に対する研究成果の位置づけを明確化できる。
 ③ 実験・調査で得られたデータが、どのような意義を有するか考察することができる。

【授業の進め方と方法】

スポーツ・健康体力学に関する研究計画に従って、修士論文に向けた本文の執筆および口頭発表に向けた発表能力の育成を目指します。修士論文の完成および口頭試験における理解しやすいプレゼンテーションの実現を最終的な目標とします。

授業においては、毎回課題を出し、次回の授業で発表した上で、それに対して受講者全体で討論や意見交換を行います。これらの課題遂行、さらには修士論文の完成に向けては、準備および討論等、受講者の主体的な参加が重視となります。

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	修士論文の概略	研究を行う意義について、「緒言」としてまとめるための提示方法、執筆方法を学ぶ。
2 回	修士論文の構成の確認	修士論文中間発表会に向け、研究目的、方法などを再確認し、提示方法について学ぶ。
3 回	修士論文中間発表会に向けた発表練習	修士論文中間発表会への準備として発表練習を行い、受講者間で論議を行う。
4 回	修士論文の再構成	修士論文中間発表会で受けたコメントを受けて、再構成した修士論文全体のアウトラインを発表する。
5 回	研究の位置づけ：「文献研究」の書き方	実験・調査の結果をとりまとめ、「文献研究」を踏まえた上で、研究成果が該当分野のどこに位置づけられるのかを明確にする。
6 回	研究の位置づけ：「文献研究」の提示方法	先行研究を整理し、研究目的が理解できるように「文献研究」を執筆し、発表する。
7 回	研究背景を理解できる「緒言」の構成	「文献研究」および実験・調査に関する「方法」、「結果」を踏まえ、修士論文の「緒言」部分のアウトラインを執筆して発表する。
8 回	研究背景を理解できる「緒言」の執筆	前回の講義内容に基づき、「緒言」を執筆して発表し、履修者全体で論議する。
9 回	研究結果の解釈：「考察」の構成	得られた結果をどのように「考察」していくべきかについて、様々な手法を学ぶ。
10 回	研究結果の解釈：「考察」の展開方法	前回の講義内容に基づき、「考察」のアウトラインを作成して発表し、論議を行う。
11 回	研究結果の解釈：「考察」の執筆	前回の論議内容に基づき、「考察」を再構成し、内容を発表する。
12 回	修士論文のまとめ：「結語」の提示方法	修士論文全体の「結語」を作成して発表し、主張が首尾一貫しているかどうか、趣旨が明瞭かどうかを確認する。
13 回	修士論文の校正	執筆規定に基づいて本文が書かれているかを確認し、校正を行う。
14 回	要旨の作成	修士論文提出に向けた準備として、要旨の作成法を学ぶ。
15 回	修士論文発表会に向けた練習	口述試験に向けた準備として発表練習を行い、内容・発表方法について論議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則、毎回の課題に加えて、修士論文に関する実験・調査の進行を指示する予定ですので、課された課題に従って作業を行ってください。また、授業での論議に基づいて発表内容を修正して再発表する課題（3, 4, 6～8, 10～12, 15 回）も多いため、自らの課題を見直し、復習・修正を大成ってください。また、4, 8, 11 回目の「修士論文の再構成」、「研究背景を理解できる「緒言」の執筆」、「研究結果の解釈：「考察」の執筆」に関する課題の提出は、評価のための必須項目となります。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・身体活動科学における研究方法/田中喜代次他（訳）/ナッパ
 ・健康・スポーツ科学のための調査研究法/出村慎一（監）/杏林書院
 ・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法/山際勇一郎他/教育出版

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度開講していないため、特になし。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。

出力一覧

研究デザイン・フィロソフィー	1	スポーツ健康学演習Ⅲ	67
スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)	2	スポーツ健康学演習Ⅲ	68
スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)	3	スポーツ健康学演習Ⅲ	69
スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学)	5	スポーツ健康学演習Ⅳ	70
公衆衛生学特論	6	スポーツ健康学演習Ⅳ	70
健康体力学特論	7	スポーツ健康学演習Ⅳ	71
健康心理学特論	8	スポーツ健康学演習Ⅳ	72
スポーツ栄養学特論	9	スポーツ健康学演習Ⅳ	73
運動器疾患特論	10	スポーツ健康学演習Ⅳ	74
学校保健学特論	11	スポーツ健康学演習Ⅳ	75
体力・機能測定評価演習	12	スポーツ健康学演習Ⅳ	76
運動疫学演習	13	スポーツ健康学演習Ⅳ	77
スポーツマネジメント特論	14	スポーツ健康学演習Ⅳ	78
スポーツ産業学特論	15	スポーツ健康学演習Ⅳ	79
スポーツ健康政策学特論	16		
スポーツジャーナリズム特論	17		
スポーツメディア特論	18		
スポーツ組織構造特論【2018年度以降入学生対象】	19		
スポーツ団体構造特論【2017年度以前入学生対象】	20		
スポーツ消費者行動特論	21		
スポーツフィールドスタディー演習	22		
スポーツマーケティングリサーチ演習	23		
スポーツコーチング学特論	24		
スポーツ運動学特論	25		
スポーツバイオメカニクス特論	25		
スポーツトレーニング学特論	27		
発育発達学特論	28		
スポーツ教育学特論	29		
スポーツメンタルトレーニング演習	30		
チームビルディング演習	31		
アスレティックトレーニング特別演習	32		
保健体育科教育法特別演習	33		
スポーツ健康学演習Ⅰ	34		
スポーツ健康学演習Ⅰ	34		
スポーツ健康学演習Ⅰ	35		
スポーツ健康学演習Ⅰ	36		
スポーツ健康学演習Ⅰ	37		
スポーツ健康学演習Ⅰ	38		
スポーツ健康学演習Ⅰ	39		
スポーツ健康学演習Ⅰ	40		
スポーツ健康学演習Ⅰ	41		
スポーツ健康学演習Ⅰ	42		
スポーツ健康学演習Ⅰ	43		
スポーツ健康学演習Ⅰ	44		
スポーツ健康学演習Ⅰ	45		
スポーツ健康学演習Ⅱ	46		
スポーツ健康学演習Ⅱ	47		
スポーツ健康学演習Ⅱ	48		
スポーツ健康学演習Ⅱ	49		
スポーツ健康学演習Ⅱ	50		
スポーツ健康学演習Ⅱ	51		
スポーツ健康学演習Ⅱ	52		
スポーツ健康学演習Ⅱ	53		
スポーツ健康学演習Ⅱ	54		
スポーツ健康学演習Ⅱ	55		
スポーツ健康学演習Ⅱ	56		
スポーツ健康学演習Ⅱ	57		
スポーツ健康学演習Ⅱ	58		
スポーツ健康学演習Ⅲ	59		
スポーツ健康学演習Ⅲ	60		
スポーツ健康学演習Ⅲ	61		
スポーツ健康学演習Ⅲ	62		
スポーツ健康学演習Ⅲ	63		
スポーツ健康学演習Ⅲ	64		
スポーツ健康学演習Ⅲ	65		
スポーツ健康学演習Ⅲ	66		